はかばきたろうとくほん
HAKABA KITARO OFFICIAL GUIDEBOOK
SHIGERU MIZUKI INTERVIEW, CAST INTERVIEW,
ALL EPISODE GUIDE, GUEST WRITER COLUMN, MAKING OF HAKABA KITARO,
THE ORIGINAL STORY REVIEW, ALL ABOUT HAKABA KITARO.
墓場鬼太郎読本
怪
KWAI
水木しげる
京極夏彦
野沢雅子
田の中勇
大塚周夫
「人間世界で生きていくのも楽じゃねえなあ」

「人間っておもしろいなぁ。
これから地獄へ行くのに会社の心配をするなんて」

墓場鬼太郎読本

はかばきたろうとくほん

HAKABA KITARO OFFICIAL GUIDEBOOK

SHIGERU MIZUKI INTERVIEW, CAST INTERVIEW,
ALL EPISODE GUIDE, GUEST WRITER COLUMN, MAKING OF HAKABA KITARO,
THE ORIGINAL STORY REVIEW, ALL ABOUT HAKABA KITARO.

INTRODUCTION

「わざわいは突然やってくる。あの夜もそうだった──」

時は第二次世界大戦後、復興中の日本で“鬼太郎”は産声をあげた。

1959年、漫画家の水木しげるは兎月書房の怪奇漫画誌「妖奇伝」に、
初の鬼太郎漫画作品「幽霊一家」を発表。続いて「墓場鬼太郎」を執筆した。
これら一連の初期“鬼太郎”作品集は“墓場鬼太郎”シリーズと呼ばれたのである。

「鬼太郎、しっかりしろ! おまえは幽霊族の希望、最後の生き残りだ! 生きるんだ!」

昭和の香りがただよう街に、ぽつんと生まれた幽霊族最後の少年・鬼太郎。
彼にかかわる者は不幸になっていく。
予想のつかない展開が不条理かつ怪奇を巻き起こす。

「世の中には人の知らない不思議なことがたくさんある。
それは我が身に降りかかって、はじめてわかります──」

のちに「墓場鬼太郎」は、「ゲゲゲの鬼太郎」と名前を変えて、
日本中に妖怪ブームを巻き起こす。鬼太郎も、目玉親父も、ねずみ男も、
すべては「墓場鬼太郎」から、はじまったのである。

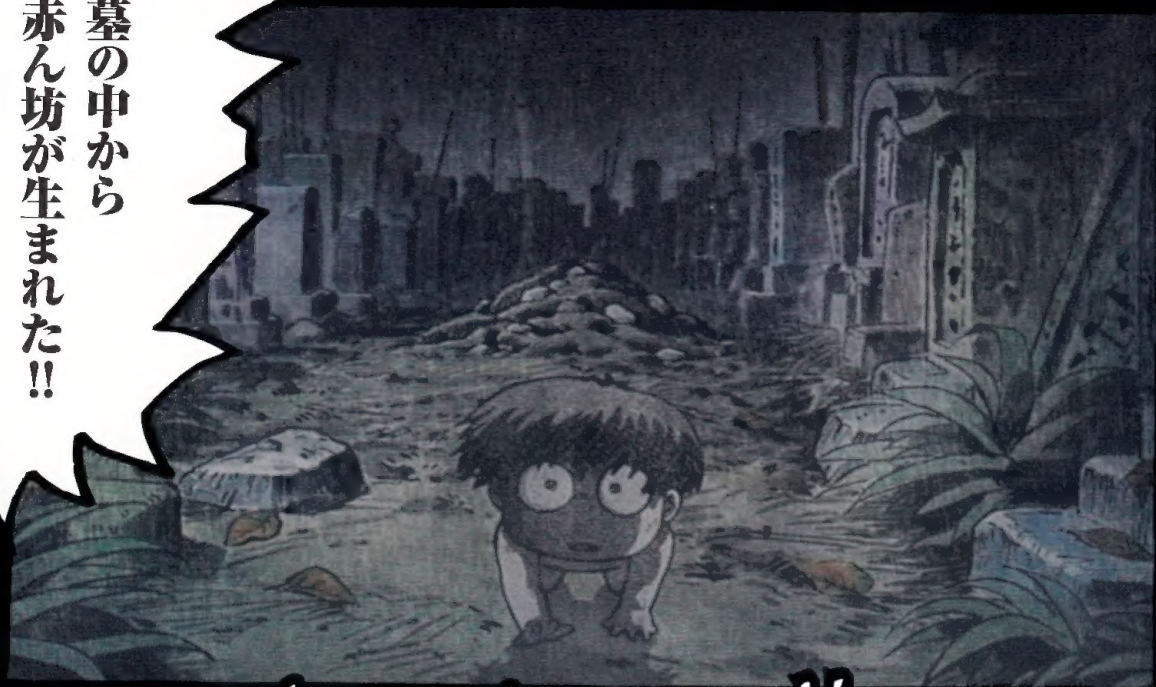
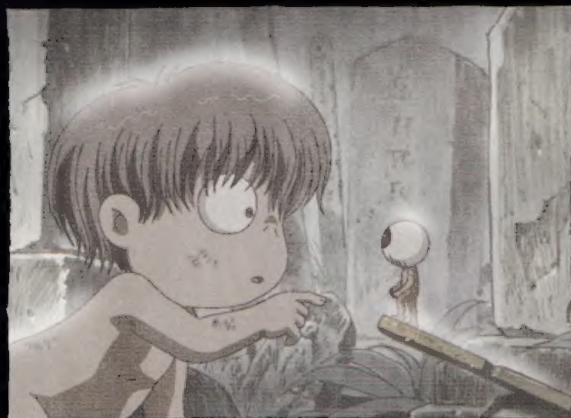
連載から40年以上が過ぎた2008年、アニメ化が決定。深夜放送にもかかわらず、
最高視聴率5.8%、平均視聴率4.8%を記録した。

「父さん、人間って……ちょっとおもしろい生きものですね」

すべての原点「墓場鬼太郎」の世界をひも解く旅のはじまり。
この本を読み終わったときは、きっとあなたも、
怪奇の世界へと迷い込んでいることだろう。

カァー カァー
オギャー
オギャー
ピカッ!
コロゴロ

墓の中から
赤ん坊が生まれた!!
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ゾー

やめろー!

鬼太郎誕生

幽霊族の最後の夫婦から生まれた、たったひとりの子供—鬼太郎。彼は墓場から生まれた。誕生したばかりの鬼太郎は、おびえた水木に突き飛ばされ、片目を失ってしまう。鬼太郎の悲鳴を聞いた、幽霊族の父は目玉親父として転生する。気を取り戻した水木は、鬼太郎とともに暮らすことを覚悟するのだった……。

墓場鬼太郎読本

CONTENTS

目次

ANIMATION SIDE

❶ ある晩、何者かが水木家の隣の古寺に引っ越してきた。
「誰だ？　こんな夜中に……」

❷ 水木家に届けられた引越しのごあいさつはなんと……
「め、目玉……！？」

❸ 水木は入院患者が幽霊になるという事件にめぐりあう。
「死人と同じなのに生きています」「幽霊なんだよ、まるで」

❹ 事件の真相を追う水木は、幽霊族の夫婦に会う。
「我々幽霊族は争いを好まない種族ですから」

第1話

鬼太郎誕生

DVD第一集 収録
2008年1月10日放送
脚本：成田良美
絵コンテ：地岡公俊
演出：羽多野浩平・地岡公俊
作画監督：窪秀巳
美術監督：保坂有美

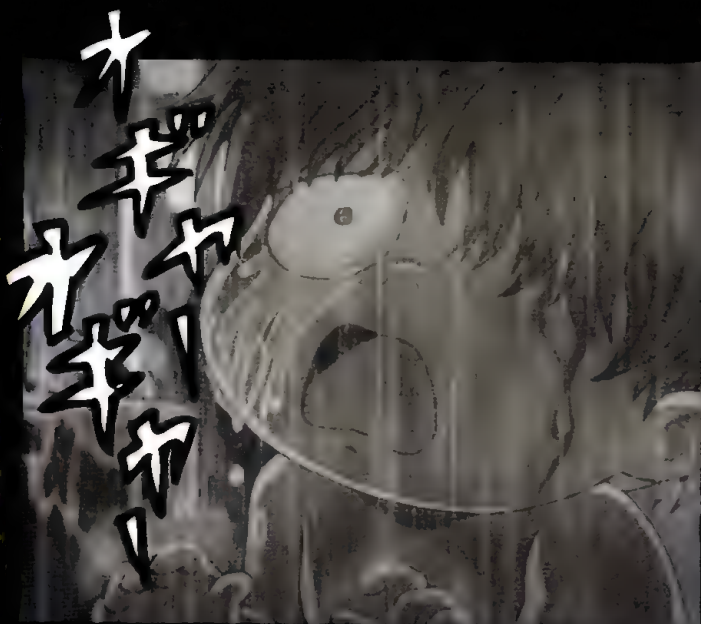
【あらすじ】

病院で入院患者が幽霊になるという事件が起きた。水木は原因を究明するため“最後の幽霊族の夫婦”と出会う。数日後、彼らは絶滅していた。水木が女幽霊の死体を墓場に埋めると、地面から赤ん坊が生まれる。おびえた水木は思わず、赤ん坊を拒絶、突き放してしまう。しかし、傷ついた子供を見て、水木は引き取ることを決心するのだった。数年後、鬼太郎は地獄で遊ぶ、奇怪な少年となっていた。

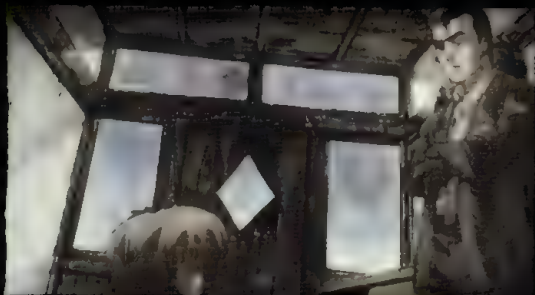
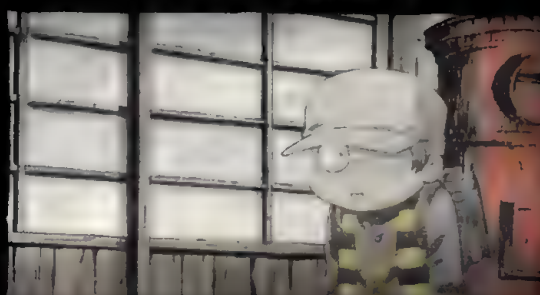
COMMENT

シリーズディレクター　地岡公俊

すべての“鬼太郎”シリーズの原点になるようにつくろうと思いました。だから第1話は暗く、重く描いています。原作の淡々とした印象を出すために、カットの長さに強弱をつけない構成です。シリーズ構成の成田良美さんと「鬼太郎の誕生はAパートの最後だよね」と盛り上がったので、そこから逆算してシーンを組み立てていきました。スタッフへは「鬼太郎を“怪奇”ではなく“怪異”としてとらえてください」とお願いしました。単なるホラーではなく、“鬼太郎”という存在は解明も説明もできないもの。“鬼太郎”と関わってしまったから、何かが起きていく。「説明がつかないからおもしろい」そんな作品をめざしました(笑)。

1 墓場鬼太郎名セリフ集 「鬼太郎、しっかりしろ！ おまえは幽霊族の希望、最後の生き残りだ！ 生きるんだ！」（目玉親父）第1話より

7 水木は幽霊族の子供を突き飛ばしてまった。子供は目を失う。
「ど、どうすれば……こいつはバケモノだ！」

5 数日後、幽霊族の夫婦は死んでいた。
死体を墓場に埋める水木。
「幽霊族は滅びた！」

6 突然、墓場から手が伸びる……。
幽霊族の最後の子供が生まれた!!
「は、墓から……赤ん坊が！」

9 毎晩、怪しい行動をとる鬼太郎をとがめる水木。
「鬼太郎、どこへ行ってたんだ？」

8 水木は鬼太郎を引き取る。すくすくと成長していくが……。
「鬼太郎だ。鬼太郎が来たぞ。逃げろ！」

11 水木母は鬼太郎を突き落とす。
「やった……。
息子のかたきを討ってやった！」

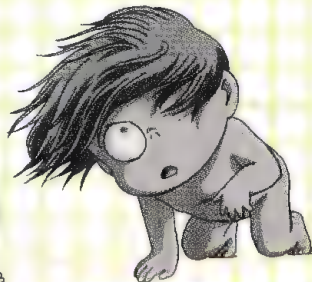
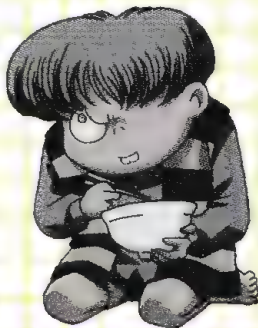
12 水木母は発狂していた。
「私、やりました！
この手で物の怪を退治しました！」

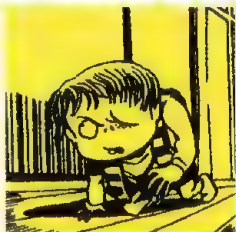
13 鬼太郎はにやりと笑う。
「父さん、人間って……
ちょっとおもしろい生きものですね」

14 地獄に落ちた水木を、鬼太郎と母親が捜しに行く。
「物の怪め……物の怪め……」

CHARACTER

鬼太郎 Kitaro

幽霊族最後の生き残り。幽霊族が死ぬときに1本だけ残す「霊糸」で編まれた、チャンチャンコを着る。常識では計りしれない、生命力をもち、周囲の人間を不幸に導く。

原作

原作の鬼太郎は不良幽霊。タバコを吸い、クルマやバイクに乗る。金にがめつく、食い意地が汚い。いわゆる戦争直後に生きる少年のようなキャラクターとして、描かれている。

水木 Mizuki

ある会社の調査員。幽霊を追っているうちに鬼太郎と出会う。鬼太郎の育ての親になるが、地獄に落とされてしまう。

原作

原作では血液銀行の社員。鬼太郎の犠牲者第一号。鬼太郎の育ての親だが、地獄に落とされてしまう。人間界に帰ってきてからは、貧乏に苦しみ続ける。

目玉親父 Medama Oyaji

鬼太郎の父親。不治の病にかかるが、鬼太郎を守るため目玉だけになって甦った。

原作

原作の目玉親父は生命力が強い。天ぷらにされても、ペラペラになっても死なない。また、人の頭の中に入って、操作することが可能。休むときは、黒目のまぶたを閉じる。

墓場鬼太郎Q&A

Q 幽霊族って何ですか？

A 人類が現われるよりも、はるか昔から地球上に存在していた一族――それが〝幽霊族〟です。彼らは、争いを好まず、長い寿命と強い生命力をもち、のんびりと暮らしていました。紀元前2万年ごろには巨大な「幽霊城」を建設。その壮大な城の姿は「バベルの塔」に酷似していると言われます。彼らの転機は、人類の台頭でした。地球上に好戦的な人類が現われたことで、〝幽霊族〟は安全を求めて「幽霊の森」へ隠れたのです。しかし、人類の勢いは衰えることがなかったため、彼らは地下の奥深くへ潜っていきました。以来、彼らの主食はみみずやおけらといった地中に住む動物になり、〝人間モグラ族〟と呼ばれるようになったのです。そして、数千年の時とともに、彼らの一族は

鬼太郎誕生【第1話】

古くて新しい、初見なのにどこかで見たことがあるような既視感、怖いのに目が離せない――。

鬼太郎がTVに初めて登場したのは、1968年のこと。40年目になる記念すべき年に〝鬼太郎〟シリーズの原点となる「墓場鬼太郎」が制作された。そもそも原作の「墓場鬼太郎」は貸本と呼ばれる、いわゆる大衆漫画として流通した作品であり、内容は過激でグロテスク。その作品のアニメ化がなされることだけでも驚くべきことなのに、さらに40年前の第一期「ゲゲゲの鬼太郎」のオリジナルキャストが鬼太郎役、目玉親父役、ねずみ男役を演じるのだから、サプライズは2倍。奇しくも2008年は、毎週日曜日の朝9時に第五期目の「ゲゲゲの鬼太郎」が放送されている。朝の鬼太郎がヒーローならば、夜の鬼太郎はダークヒーロー。両作品のギャップを楽しむといった見方もできるだろう。子供のころから〝鬼太郎〟シリーズを見続けてきた大人のファンにとっては、鬼太郎のルーツを知る作品として。初めて鬼太郎の原点を見る子供にとっては恐怖のトラウマとして。結果的に、幅広い視聴者を取り込むことに成功した作品となった。

本編を見ると、そのビジュアルインパクトに目が奪われる。月明かりだけが照らし出す、うっそうと草が生い茂る墓場に雷が光る。その光に一瞬だけ映し出された影は……幽霊？

おどろおどろしく、禍々しく、美しい。夜の闇の中で、時計や窓が不気味に赤紫色に、黄緑色に、群青色に輝く。美術の下敷きとなる絵は、原作の漫画のコマを忠実に再現している。しかし、その絵に、ワンポイントで不思議な色を混ぜることによって、夜の深さと湿ったテイストを表現しているのだ。そのうえで一瞬挿入されるアバンギャルドなビジュアル。猫の悲鳴、目玉のクローズアップ、幽霊の顔のイメージショット。次に何が飛び出してくるかわからない、びっくり箱をのぞくような緊張感が印象的だ。

こういったアグレッシブな絵づくりと演出にもかかわらず、物語は淡々とつづられていく。鬼太郎、目玉親父の誕生エピソードは、本邦初公開。人間の死体が葬られる墓場から、新たな命を得る鬼太郎のシニカルさ。おなじく幽霊族の死体から生まれる目玉親父の親子愛。まさしく原作どおりの展開が楽しめる。原作の3話分を1話分にまとめたため、ややテンポが速い印象もあるが、生まれたばかりの鬼太郎↓地獄で遊ぶ鬼太郎という急転直下のギャップがたまらない。

この「墓場鬼太郎」では、鬼太郎の感情の動きは謎のままになっている。なぜ鬼太郎が、育ての親の水木を地獄に落としたのか。なぜ水木の仇を討とうとした水木母を（死んだふりをしてまで）発狂させたのか。そのひとつひとつの心理は決して明かされることがない。

「人間って……ちょっとおもしろい生きものですね」という、ただひと言だけが、鬼太郎自身の感想なのである。すべては、「ちょっとおもしろい」という感情を知るための遊びにすぎなかった――そう思うと、鬼太郎という存在が、人間とは違う感覚を持った生き物だと感じられるだろう。見れば見るほど、謎が深まり、その謎がおもしろくなってくる。まさしく本作は複雑な感情が一度にわき上がる、味わい深い作品なのである。

ゆっくりと衰退していきました。

彼らは、自由に生命を操る能力をもち、死後の世界「地獄」へ行き来する力をもっています。ゆえに人間の生命に関しても、人間と違う価値観をもっているのです。

鬼太郎の母

◀妊娠中の幽霊族の女性。カエルの目玉が大好き。彼女の腹から生まれた赤ん坊こそが、鬼太郎。生者を幽霊にする力をもつ。

鬼太郎の父

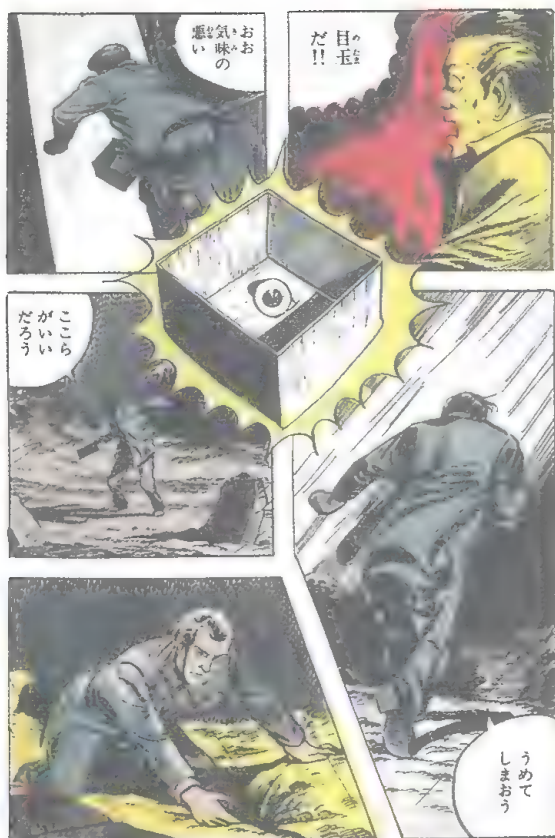
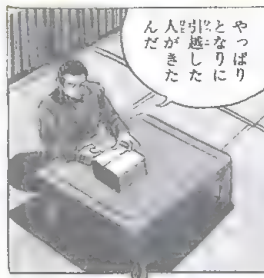
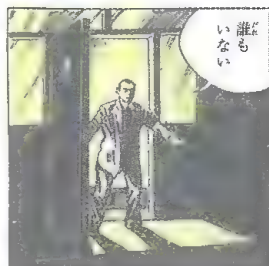
▶不治の病にかかっている幽霊族の男性。死後、彼の目に魂が宿り、目玉親父として復活を遂げる。

▲巨大な文明を地上につくりあげていた幽霊族。しかし、彼らは人間に追われることになる。

目玉だ!!
おお気味の悪い
ここがいいだろう
うめてしまおう

▲「幽霊一家」より

死霊の子か？人の子か？

墓穴から
赤ん坊が生れた!!
オギャーッ

▲「墓場の鬼太郎」より

COMIC SIDE

アニメ版第1話「鬼太郎誕生」出典

「幽霊一家」

初出:「妖奇伝」(兎月書房刊、1959年)

「墓場の鬼太郎」

初出:「妖奇伝」(兎月書房刊、1959年)

「地獄の片道切符」

初出:「墓場鬼太郎」(兎月書房刊、1960年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(1)収録
定価860円(税込)
文庫判
角川書店(以下同)

原作紹介

【幽霊一家】

（「妖奇伝」／兎月書房より）

血液銀行の調査員である青年・水木は、輸血用血液に混じっていた「幽霊の血」の提供者を捜す命令を受ける。その血を売ったのは、水木家の隣にある古寺に越してきた幽霊（人間モグラ）族の夫婦であった。

〝墓場鬼太郎〟シリーズのすべての発端となるこの作品では、最後の幽霊族の、悲しい運命が語られる。当時の日本には、輸血用の血液を有料で売る売血制度があり、民間の血液銀行が存在していた。貧しい人々が生活のために健康を阻害するほど幾度も血液を売り、大きな社会問題となっていたのである。

【墓場の鬼太郎】

（「妖奇伝」／兎月書房より）

水木は、墓場で生まれた鬼太郎を育てる決意をする。成長し、6歳になった鬼太郎は夜な夜なこっそり墓場へ出歩くようになった。ある日、水木は柱のすき間に鬼太郎が隠した切符を見つける。それを持って墓場へ向かった水木の末路は――。

この作品中で、墓場から這い出してきた赤子の鬼太郎の左目はすでに生まれたときからなくなっていた。1965年に佐藤プロダクションより発刊された〝貸本漫画・墓場鬼太郎〟シリーズ「おかしな奴」では、この鬼太郎の出生エピソードが描き直され、墓石に頭をぶつけて片目になった描写が追加されている。

また、この回で幽霊族の父親の死体から生まれた「目玉の親父」が初めて登場する。地面に叩きつけられ、踏みつぶされ、ぺちゃんこになっても、けなげに鬼太郎を見守る親父の姿がユーモラスながらも感動的である。

【地獄の片道切符】

（「墓場鬼太郎」／兎月書房より）

前述の2話が掲載された怪奇短編漫画集「妖奇伝」が廃刊となり、存続が危ぶまれた〝鬼太郎シリーズ〟は、一通の熱烈なファンからの手紙により、「墓場鬼太郎」という漫画集で継続することとなった。その1巻に掲載された作品がこの「地獄の片道切符」である。

地獄への片道切符を盗んだために生きながら地獄へと落とされた水木。水木の母親は鬼太郎を問い詰めるが、地獄へ行ったという鬼太郎のことばを信用することができず、占いばあさんの元へ相談に行く。母親はその忠告どおり、地獄の入口で鬼太郎たちを突き落とすのだが――。

崖から落ちる鬼太郎の断末魔がなんともいえぬ不気味な余韻を残す作品である。

原作版をもっと楽しむ小話

鬼太郎は何度も生まれる

鬼太郎は、その歴史の中で幾度となく誕生を繰り返し、この世に甦っている。鬼太郎がいちばん最初に我々の住むこの世に姿を現わしたのは、紙芝居の世界であった。そして1959年、紙芝居作家から貸本漫画家に転身した水木しげるが漫画〝墓場鬼太郎〟シリーズをスタートさせる。

兎月書房より刊行された怪奇短編漫画集「妖奇伝」で、「幽霊一家」「墓場の鬼太郎」が続けて発表されるが、2号で廃刊。続けて刊行された漫画集「墓場鬼太郎」3巻が出たところで、兎月書房との金銭トラブルにより水木は三洋社へ移籍する。三洋社では「鬼太郎夜話」として4つの作品を刊行。こちらでは、地獄からこの世に戻ってきた元血液銀行調査係「水木」の回想というかたちで鬼太郎の出生について語らせている。ただし、三洋社と水木の蜜月もそう長くは続かなかった。5冊目を出版する間際に社長が倒れ、シリーズの中断を余儀なくされてしまったのだ。

しかしその後も、水木は和解した兎月書房やほかの貸本漫画出版社で、鬼太郎作品を描き続ける。貸本漫画が衰退してからは、今度は少年誌にその舞台を移し、そこで鬼太郎は一気にスターダムへと駆け上がっていったのである。

京極夏彦

OPENING TEXT
Natsuhiko Kyogoku

僕は物心つく前から「鬼太郎」を見て「鬼太郎」を読んで育ったんですが、世代的には「ゲゲゲ」なんです。「墓場」世代じゃないんですね。

僕はファンというより水木しげる原理主義者ですから（笑）、水木作品は完全網羅が身上。幼いころから鵜の目鷹の目で探し、見つけては買い買っては読み読んでは探しの毎日でした。でも、水木先生は僕の生まれる前から活躍されていた方ですから、新刊だけじゃ網羅はできない。当時、古い作品はなかなか読めませんでした。

僕の子供時代はマンガ文化の隆盛期。次々に新しい才能が新しい作品を生み出していた時代ですから、古いマンガを復刊する気運はなかった。水木先生の貸本マンガが復刻という形で新刊書店に並んだのは、1976年、[illegible]中学生のころのこと。サラ文庫と[illegible]レーベルで、当然「墓場鬼太郎」はラインナップに入っていたわけですが、残念ながら貸本版鬼太郎の最初の作品にあたる「妖奇伝」収録の二作と「墓場鬼太郎」二作のうちの一作、計三作は未収録でした。

その後、中野書店や朝日ソノラマが貸本作品を復刻したりするようになる

長らく読めなかった幻の「墓場鬼太郎」本

わけですが、「鬼太郎」冒頭部分を含む数作は読めなかった。原本は異常に高騰してましたからね。それまで、貸本は「ゴミ」扱いされていたので、ひと山10０円程度で売られていて、おかげで僕もけっこう持ってたわけですが、ある時期を境に一冊何十万の世界になっちゃった。僕は復刻版を買うために原本売ったりしてたわけです（笑）。10円20円で手に入れた本が数万円になるわけですから、まあ売ります。貧乏学生でしたから。新刊買うだけでヒイヒイいってたんです。後に買い戻そうとしてその何百倍も支払うことになるとは思ってもいない。大馬鹿（笑）。

そんなですから1990年に「水木しげる画業四十周年」というマニア向け豪華限定本で復刻されるまで「鬼太郎」の冒頭部分は幻だったんです。その後、青林堂から「妖奇伝」のタイトルで一般書として出版されて、やっと書店に並んだ。ようやく貸本版鬼太郎が気軽に全作読める時代が来ちゃったと思いましたね。そのころはファン一同、欣喜雀躍、感涙続きの時期でした。

そんなわけで、僕が貸本版「墓場鬼太郎」を通読したのは、実はそれほど昔のことじゃなく、小説家としてデビューする直前のことなんです。水木しげるファン歴40数年、マニア、コレクター、オタク、研究者、崇拝者と、世間でいろいろ言われてる僕が「そんな遅くまで読んでなかったのかよ」といわれてしまえばそれまでですが、読めなかったんです。なかったんだもの！

京極夏彦 Natsuhiko Kyogoku

●きょうごく なつひこ 1963年生まれ、北海道出身。世界妖怪協会・世界妖怪会議評議員、関東水木会会員、全日本妖怪推進委員会 肝煎。小説家、アートディレクター、装丁家として幅広く手がける。「ゲゲゲの鬼太郎」（第四期）では一刻堂として、「墓場鬼太郎」ではチベットの怪僧[illegible]として出演する。公式ホームページ「大極宮」 http://www.osawa-office.co.jp/index.shtml

① 夜叉の墓が暴かれた。夜叉は有馬博士の血を吸い復活する。
「見つけた、夜叉……」

② 家を追い出された鬼太郎の前にねずみ男が現われる。
「虫の好かない野郎だな。父さん、こいつ殴っていいですか?」

③ あっけなく夜叉に操られてしまう鬼太郎。
「鬼太郎、ちょっと待て。父親がわからんのか」

④ 鬼太郎とはぐれた目玉親父はねずみ男に拾われる。
天ぷらにされてドラキュラの食事に。

第2話

夜叉対ドラキュラ四世

DVD第一集 収録
2008年1月17日放送
脚本:成田良美
演出:角銅博之
作画監督:波風立流
美術:枚浦正一郎

【あらすじ】

吸血鬼・夜叉の墓が暴かれた。時を同じくして吸血鬼ドラキュラの四代目が来日。夜叉とドラキュラ四世は、鬼太郎とねずみ男を使って日本で獲物を捜す。幽霊騒動で追いつめられた水木の会社の社長、ドラキュラ四世、ねずみ男は、夜叉と鬼太郎が経営する下宿屋にやってくる。深夜、獲物の社長をめぐって夜叉とドラキュラ四世の戦いがはじまる。戦いの中で魂を取り戻した鬼太郎は、社長を地獄へ案内する……。

COMMENT

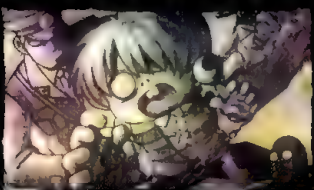
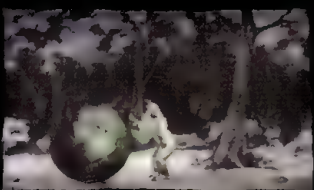
シリーズディレクター 地岡公俊

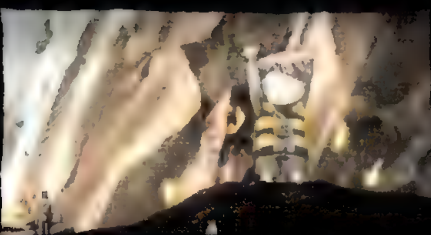
この話は「墓場鬼太郎」としての第1話のつもりでつくりました。やはり、前話の「鬼太郎誕生」は“鬼太郎”シリーズ全体の第1話という印象でしたから。第2話目ともなると、そろそろ鬼太郎の性格もわかり、彼に出会うと周りの人が不幸に巻き込まれるというテイストも理解できていると思います。そこで、夜叉とドラキュラ四世の大バトルを楽しく見せていこうと思っていました。夜叉は“鬼太郎”シリーズでは人気のあるキャラクターなので、最初からCGで描くつもりでした。夜叉の毛の表現を突き詰めてみようと思ったんです。この話では、完全に鬼太郎が役立たずなんですよね(笑)。代わりに、目玉親父とねずみ男が活躍します。

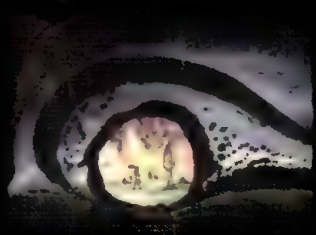
2 墓場鬼太郎名セリフ集 「お金、お金、お金……お金はそんなに大事なものなんですか?」(鬼太郎)第2話より

6 下宿屋でドラキュラの体の中にいた目玉親父が脱出!
「鬼太郎!」「なんだ? いまのは……」

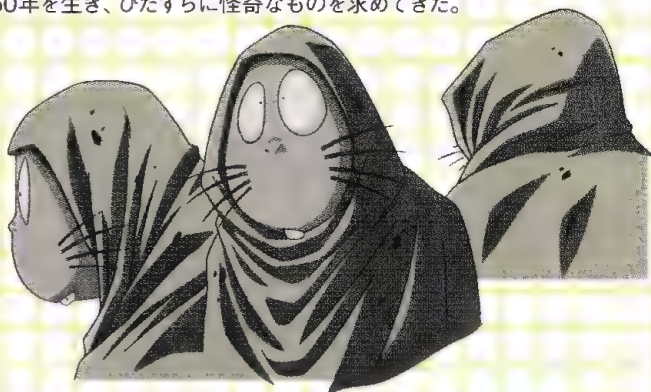
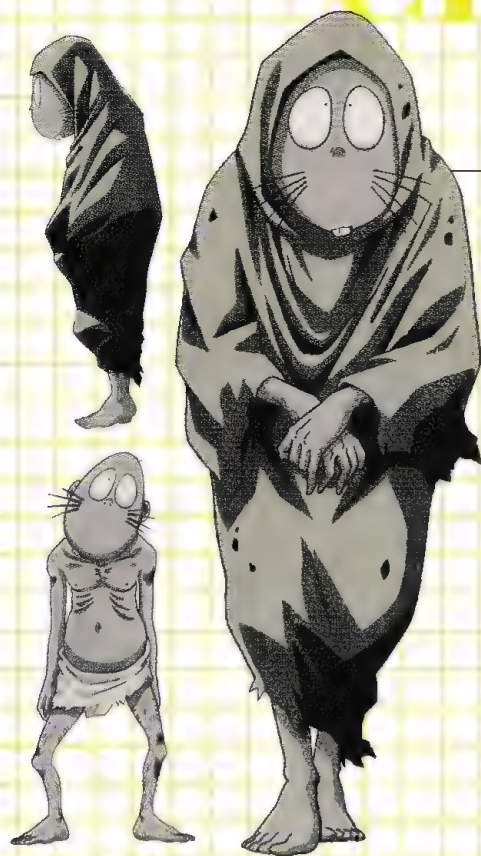
7 鬼太郎の魂は夜叉に奪われた。
「父さん!」「鬼太郎!」「鬼太郎は部下として使わせてもらう。永遠にな!」

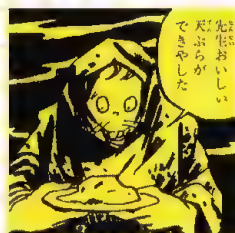
5 ねずみ男はドラキュラと街へ。下宿屋に立ち寄る。めしは食い放題、宿泊費タダ!
「先生、今夜はここに泊まりましょうよ。タダより安いものはないですからね」

8 鬼太郎を助けた社長は、ともに逃げ出す。そして社長は鬼太郎を警察に突き出そうと企む。

10 対決は引き分け。ねずみ男は2人を地面に埋める。
「墓でもつくってやろうか」

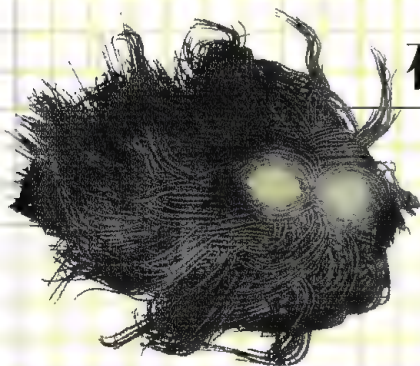
9 ドラキュラと夜叉が獲物を奪い合う。東西吸血鬼対決勃発!
「私を誰だと思っている!」

1 人間世界に帰ってきた水木と鬼太郎。社長のクルマからお金が振ってくる。
「父さん、お金です!」

2 水木と再会する社長。自分が地獄に堕ちたことを知る。
「なぜ私がこんな目に……」

1 社長は鬼太郎とともに不思議な場所に迷い込む。
「ここはどこなんですか?」

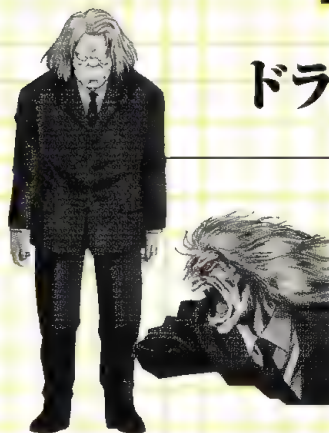
ねずみ男 Nezumi Otoko

怪奇大学不潔学科卒の自称天才。なまけ学を研究し、博士号をもっている。350年を生き、ひたすらに怪奇なものを求めてきた。

原作

「下宿屋」のエピソードがねずみ男の初登場。ドラキュラ四世の下僕として現われる。ふんどしをせず、お風呂にも入らない、不潔なキャラクターとして活躍。

夜叉 Yaksha

中国から1000年前に日本にやってきた吸血鬼。もとは古代インド神話に登場する鬼神だったが、いまや髪の毛だけの姿になっている。人間の魂を食べる。

ドラキュラ四世 Dracula IV

300年前にヨーロッパを恐怖のどん底に叩き込んだドラキュラ一族の四代目。貴族の子供であり、ねずみ男を高額のギャランティで雇い、エサになる人間を集めさせていた。

墓場鬼太郎 Q&A

Q ねずみ男って何者ですか？？

A 人間でもなく妖怪でもない不思議な存在。それがねずみ男です。彼の出生は、さまざまな説があります。人間と妖怪の間に生まれた説、ねずみだけが棲む島で突然変異的に生まれた人間説……。どちらにせよ、約350年前（自称）に生まれたことはたしかなようです。その長い時間を生きてきたことで、彼は幾多もの怪異と巡りあい、怪奇現象の専門家となりました。珍しいものや魔力を秘めたものに詳しく、幽霊族のチャンチャンコに興味をもったことが、鬼太郎との出会いになります。本来は、幽霊や妖怪が通う怪奇大学を卒業した自称天才。さまざまなクスリや料理を創作しては、ひと儲けをたくらんでいます。魔力や妖術

夜叉対ドラキュラ四世【第2話】

東西吸血鬼対決、ねずみ男登場とネタ満載の第2話。何よりも見どころなのは「墓場鬼太郎」らしい「お金」の描写である。

鬼太郎はのっけから「お金」という現実にぶち当たる。ガス料金の未払い、家賃の未払い、無職……お金がないということが、鬼太郎の居場所を失わせる。「お金、お金、お金はそんなに大事なものですか？」と思わず口をつくセリフ。シビアな現実の前には、たとえ幽霊族の子どもであっても、太刀打ちできないのだ。

一方、水木の会社の社長は、幽霊医療スキャンダルを起こし、トランクいっぱいの「お金」とともに逃げ出そうとする。たとえ何が起きようとも「お金」さえあれば何とかなるだろうという目論みが見え隠れしている。

ところが、ねずみ男は鬼太郎や社長よりも「お金」に対してシビアで現実的だ。「お金」をもらってドラキュラ四世に雇われていたはずなのに、それを遣わずに食事を川で拾った目玉親父を料理することでごまかしたり「タダより安いものはないですから」と夜叉の下宿屋に泊まったり……。いわゆる、せこい性格。つまり鬼太郎よりも、「お金」の大事さを知っており、同時に「お金」に頼りきらずに、自分の力で生きていこうとしているのである。

この三者三様の「お金」に対する姿勢が実に興味深い。原作の「墓場鬼太郎」は昭和30年代に描かれた。当時、作者の水木しげるは貧乏に苦しんでいたという。その「お金」に対する姿勢が浮き彫りになっているのが50年前の「墓場鬼太郎」であり、50年後のアニメのスタッフはその水木イズムをしっかりアニメ版「墓場鬼太郎」に詰め込んだのだ。ゆえに、この「お金」に対するエピソードは、普遍的なものになっている。言ってしまえば、鬼太郎は現代のニートであり、社長は株式上場でお金をつかんでリタイヤしたエグゼクティブ。ねずみ男は少ないお小遣いでやりくりしている貧乏サラリーマンみたいな構図になっている。この3人にどういう結末が待っているか……は本編を見て楽しんでほしいが、こうやって想像を膨らませるのもおもしろいだろう。

なお、東洋西洋吸血鬼対決はアニメ的に見れば、CG対作画。CGで描かれた夜叉と、作画で手描きされたドラキュラ四世の表現形式を超えたバトルシーンといえるだろう。CGで描かれた毛の表現と、手描きで誇張された迫力のドラキュラ四世のバトルぶりが実に見ごたえたっぷりだ。

もちろん、このCG＋作画を実現するためには、絵コンテやレイアウトの段階でCGと作画のスタッフが綿密に打ち合わせておく必要がある。アニメは分業制で仕事が進められるため、CGも作画もバラバラに作業が行なわれる。丁々発止のバトルシーンを実現するために、あらかじめ相手がどんなアクションをするのかを知っておかなくてはならないのだ。いわば、時代劇の殺陣のようなもの。相手の動きを理解したうえで、自分の動きをあわせて、迫力ある演技を決める。少しでもズレると動きがちぐはぐになってしまうため、作品によっては何度もテストを重ねて、CGと作画のマッチングを調整していくというケースもあるという。その綿密に突き詰められた、東洋西洋妖怪対決をじっくりと見てほしい。

を使うことはできませんが、人並みはずれた生命力とケタ違いな不潔さ（口臭やおなら）で妖怪たちともみごとにわたりあう実力の持ち主。平手打ち（ビンタ）が得意で「ビビのねずみ男」と呼ばれることもあります。

▲ねずみ男の硬くて太い「ねずみヒゲ」。このヒゲには不老不死の生命力が宿っているとか……。おそるべし！

▲誰でも一発で倒す、ねずみ男の悪臭屁。破壊力は絶大。目が見えなくなり、鼻が曲がり、気を失ってしまう。

▲「下宿屋」より

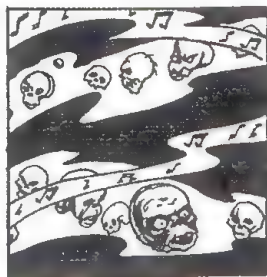
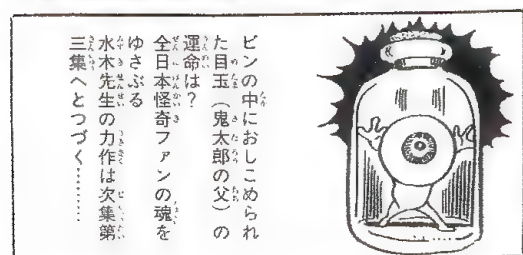
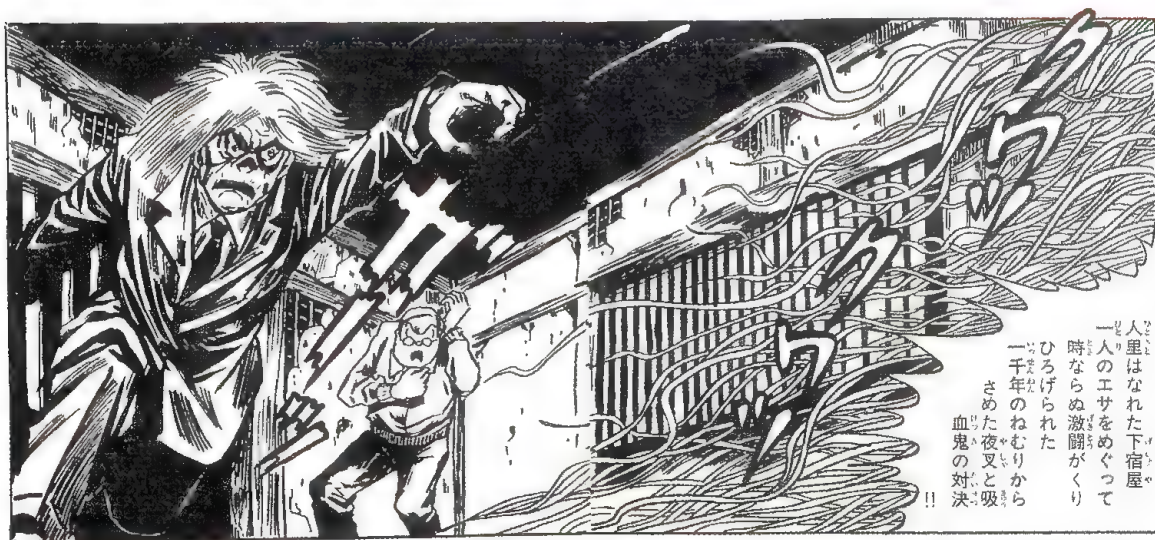
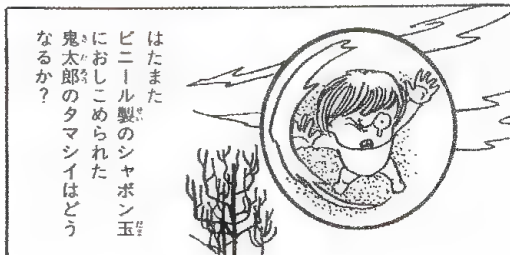
COMIC SIDE

アニメ版第2話「夜叉 対 ドラキュラ四世」出典

「下宿屋」

初出:「墓場鬼太郎」(兎月書房刊、1960年)

「あう時はいつも死人」

初出:「墓場鬼太郎」(兎月書房刊、1960年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(1)収録

▲「下宿屋」より

原作紹介

【下宿屋】

（「墓場鬼太郎」／兎月書房より）

理学博士・有馬汎は、死の間際に探し求めていた吸血妖怪「夜叉」の墓を見つける。1000年の眠りから復活を遂げた夜叉は、人間の血を吸うため、下宿屋をはじめる。鬼太郎はふとしたことから夜叉に魂を抜かれ、操られていた。

そんなある日、ハンガリーから日本へ密入国した四代目ドラキュラとその下男であるねずみ男、売れない漫画家の金野なし太が部屋を借りにやってくる。なし太の血をめぐり、鉢合わせした東西の吸血鬼は、互いに死闘を繰り広げる。

一方、鬼太郎の魂を取り戻すため奔走していた目玉の親父は、下宿屋で鬼太郎を見つけ、魂を取り返そうとするが、反対に夜叉に捕らえられてしまう。鬼太郎の魂は、夜叉のシャボン玉攻撃により大空へ飛ばされる。

この作品では、おなじみのねずみ男が初めて登場する。このときはドラキュラの下男という単なる脇役だが、その後の作品でも鬼太郎の前に幾度となく現われるようになり、〝鬼太郎〟シリーズになくてはならない重要なキャラクターになっていく。

【あう時はいつも死人】

（「墓場鬼太郎」／兎月書房より）

水木が働いていた血液銀行頭取・禿山にシャボン玉を拾われ、魂が戻って正気になった鬼太郎。禿山は、鬼太郎と親父こそが「幽霊の血」で会社の評判を落とし、水木を殺した張本人であると考え、警察へ突き出すためにドライブへと誘う。しかしそのドライブ中、禿山の車はどんどんとおかしな世界へと進んでいく。たどり着いたその先には意外な人物が待っていた。

その一方で、前回、激しい戦いを繰り広げていたドラキュラと夜叉は、もつれあって大きな毛玉となり死んでいた。ねずみ男がそれを地面に埋め、人間の血をまくと、あやしげな吸血木の芽が生えてくる。

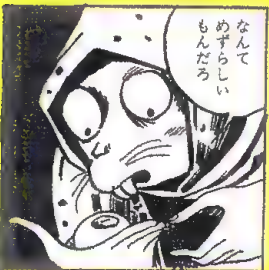
この吸血木が、次の物語へつながる伏線となるのだが、この作品を描き終えたのち、水木は原稿料を支払わない兎月書房に憤慨し出版社を移籍。「鬼太郎夜話」として三洋社より続編を刊行するが、驚くことに、もとの兎月書房でも作者を変更して続行された。当時、続きとなるストーリーが2つ存在していたのである。ただし、現在では、もう一方の作者の作品は散逸している。

原作版をもっと楽しむ小話

鬼太郎の目が逆になっている？

大半の「鬼太郎」作品では、鬼太郎は左目がつぶれているが、〝墓場鬼太郎〟シリーズの中には、たまに右目がつぶれているものがある。「下宿屋」では、同じ作品内で鬼太郎のつぶれた目が右になったり左になったりしている。のちに水木は「忙しかった。話がおもしろければかまわない」と、この件を笑い飛ばしたという。

ヨーロッパ出身のねずみ男

「下宿屋」で初めてその姿を現わしたねずみ男。作品中で彼が語るところによると、長い間ウイーンで生活していたのだという。また、350年生きてきたというセリフがあることから、その年齢も推測される。金に汚く、不潔で、マイペースなその性格は、すでに作品中にいかんなく発揮されている。のちに「鬼太郎」にはなくてはならない登場人物となるねずみ男のキャラクターは、この時点で固まっていたといえよう。

親父、初めて鬼太郎の目に入る

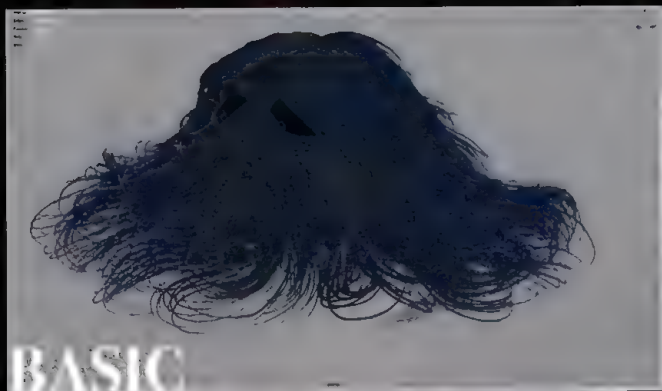
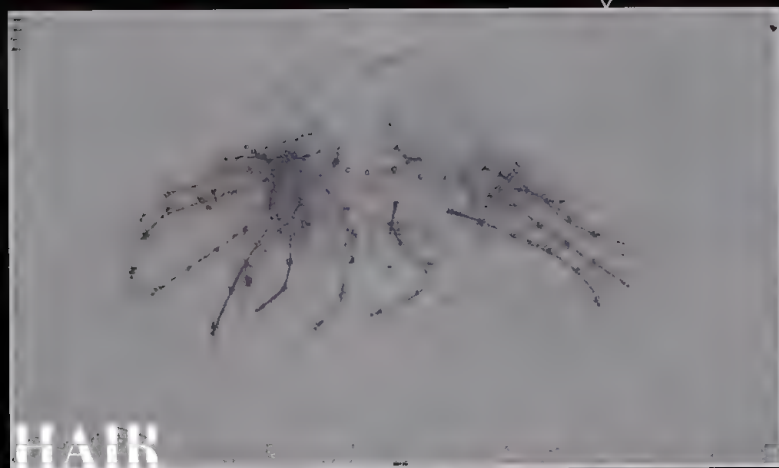
「下宿屋」冒頭で水木の家を追い出された鬼太郎と目玉の親父は、住む場所を探してあてもなくさまよい歩く。目玉の親父は人目につくのを恐れ、鬼太郎のへその中に自分を隠してくれと提案する。しかし、へそでは暑いだろうと気を使った鬼太郎が提案したのが、片目の中だったのだ。目玉の親父も「具合がよいぞ」とご満悦のようすだ。

CG WORKS

第2話に登場した人気妖怪「夜叉」はCGで制作されている。ゆらゆらと動く毛の表現やなめらか動きなどをリアルなタッチで表現することに成功しているのだ。CGで描かれたキャラクターと作画・背景美術のみごとな融合は注目だ。

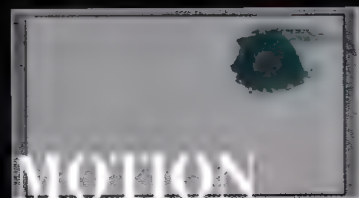
妖怪をCGで描くという試みは1999年の3DCG作品「ゲゲゲの鬼太郎〜鬼太郎の幽霊電車〜」などで試みた手法である。

今回の「墓場鬼太郎」では一歩進んだ挑戦として、3DCGで描かれたキャラクターを作画されたキャラクターと融合（バトル）という映像に挑戦している。

使用している3DCGソフトは「Maya」。夜叉の毛の一本一本をポリゴン（3DCG）で生成している。全身や毛のアップなど数種の3DCGモデルがつくられ、シーンごとに使い分けられている。

▲3DCGソフトMayaでつくられた夜叉の基本モデル。
無数の毛の組みあわせによって3DCGモデルがつくられていることがわかる。

▲全身の毛の構造。うねうねとした毛のアニメーションは、
デフォーマやエクスプレッション（数式による自動アニメーション機能）などによって制御されている。

夜叉のCG MODEL

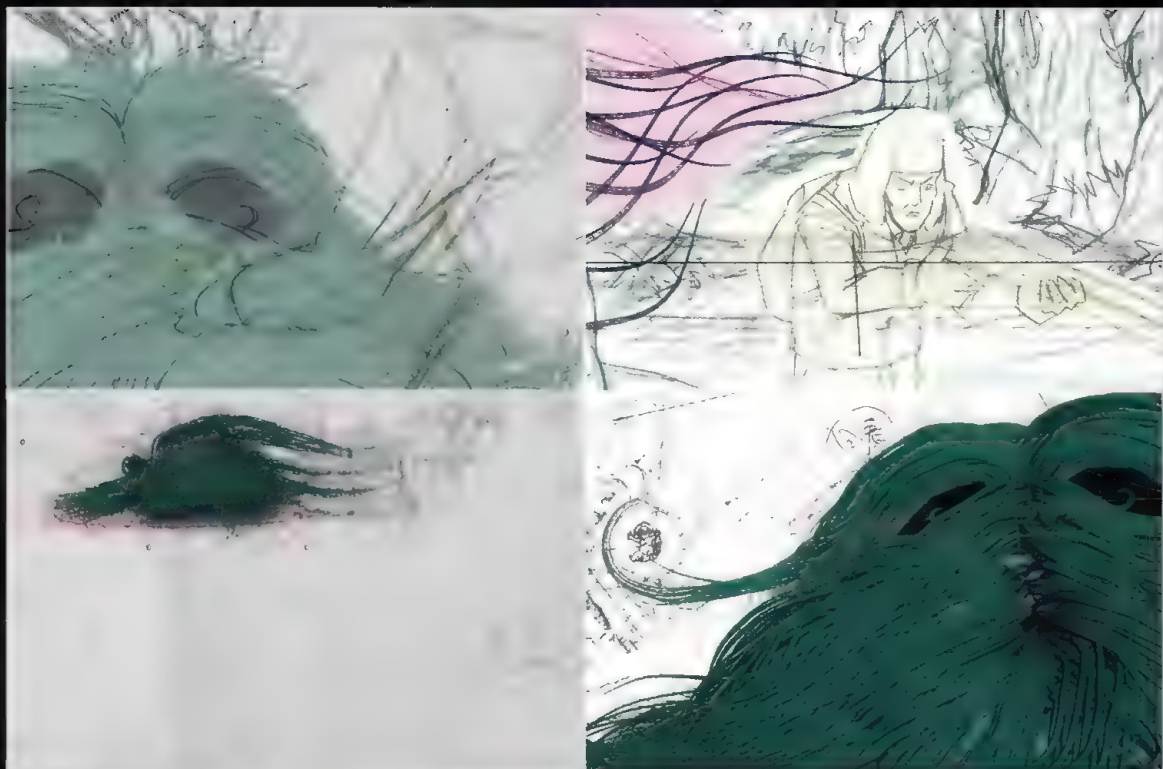
なめらかな毛の表現は、CGでは苦手とするところ。「Maya」で緻密につくり込むことによって、鮮やかな動きを再現している。

▲毛のクローズアップ。一本の毛が緻密につくられている。この毛が3DCGモデルに植毛されることで、夜叉の迫力が増す。

▲夜叉を配置した図。動きをプログラムした曲線データによって、実際の夜叉の3DCGモデルを制御することができる。

▲夜叉のデータを配置する。まず、動きのプログラムを入力した曲線のデータを配置。動きのタイミングをテストする。

動きのSIMULATION

▲レイアウト。キャラクターと背景の位置関係、動きなどが記される。

夜叉の3DCGモデルはレイアウト（作画用指示書）にあわせて配置され、コマ単位の動きをつけることになる。

LAYOUT

作画の指示書であるレイアウトにあわせて、夜叉の3DCGモデルの位置関係が決められる。
レイアウトには動きの指示も描き込まれている。夜叉のアクションが、レイアウトの段階でテストされる。

FINISH

完成したカット。作画で描かれたキャラクターと3DCGで描かれた夜叉がみごとに組み合わされている。
CGと作画は分業のため、動きのタイミングをあわせることは難しい。スタッフ同士の連携が重要になる。

ANIMATION SIDE

① 吸血鬼を埋めた地面から生えた"吸血木"を抜く、ねずみ男。
「これは血を吸うのだ！　まさしく吸血木の芽なのだ！」

② ねずみ男は、歌手のトランプ重井に吸血木を植えつける。
「僕の腕に木が生えている！」

③ 地獄から帰ってきた鬼太郎と水木は貸部屋を探す。
鬼太郎は、美しい歌声にひかれて寝子と出会う。初恋の予感!?

④ 地獄から帰ってきた水木は飲み屋で、トランプ重井と出会う。
「実は僕、2日前に地獄から帰ってきたんです」

第3話

吸血木

DVD第二集 収録
2008年1月24日放送
脚本：長谷川圭一
演出：うえだひでひと
作画監督：岡辰也
美術：増田竜太郎

【あらすじ】

地獄から戻った水木は安飲み屋で、流行歌手のトランプ重井と出会い、ある告白を聞く。なんと彼の肩に"吸血木"が生えているというのだ。その"吸血木"を植えたのはねずみ男だった。やがて、トランプ重井は鬼太郎の前で吸血木に変身してしまう。ねずみ男は、その吸血木を隠れ家の土地で育てて、一攫千金を企むのだった。鬼太郎がねずみ男の家を見つけたとき、吸血木の"実"からトランプ重井が再生した！

COMMENT

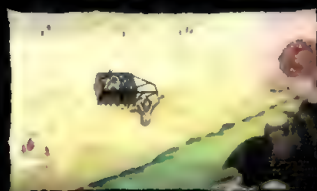
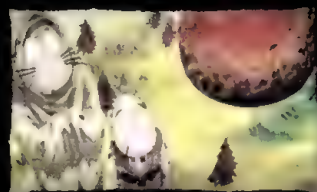
シリーズディレクター　地岡公俊

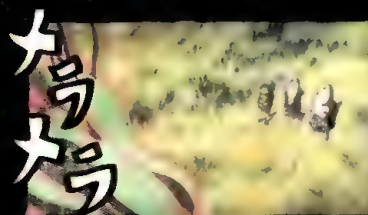
トランプ重井が吸血木になるという、非常に不条理な話ですね。原因がなくて、起きてしまう事件。やはり「原因がないのに結果がある」という話こそが、いちばん恐怖を感じる話なんじゃないかと僕は思うんです。「墓場鬼太郎」の怖さは、そういう不条理の怖さ。ねずみ男の行動には理由がないですから（笑）。同時に、鬼太郎の頭のネジが少しずつゆるんできています（笑）。鬼太郎がトランプ重井を助けたのは偶然ですからね。トランプ重井を見つけて、寝子ちゃんによいところを見せたいと思っているだけ（笑）。第1～2話と田舎の話でしたが、この第3話から徐々に都会に近づいていきます。

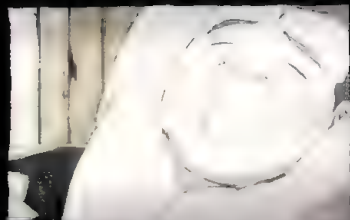
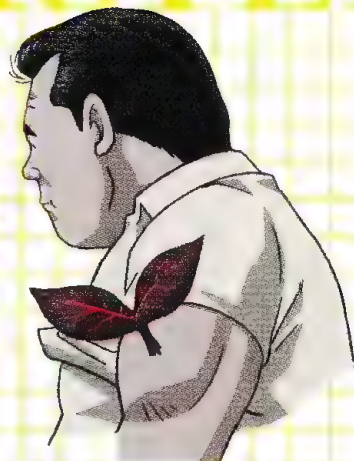
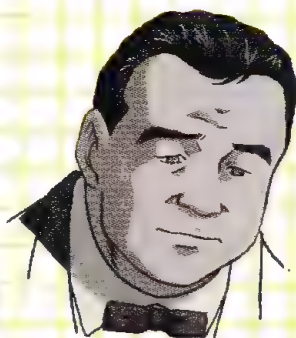
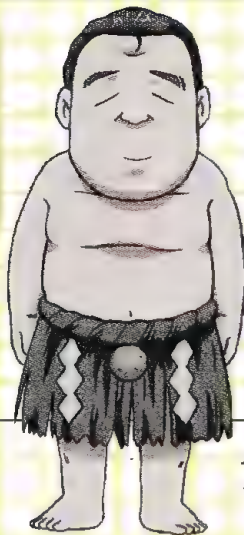
3 墓場鬼太郎名セリフ集 「何ということだ。この最悪のときに、更なる恐怖が訪れようとは！」(トランプ重井)第3話より

7 吸血木に血を吸われながらもステージを務める、トランプ重井。
「有楽町で溶けましょう」の甘くささやくような歌声が響く。

5 吸血木に体を奪われたトランプ重井。なんという哀しい運命……。
「もうじき完全な植物と化すでしょう」

6 歌のうまい寝子を紹介するために鬼太郎はトランプ重井をたずねる。
「この最悪なときに！」

9 ねずみ男は前話に鬼太郎から奪った金で家を買い、吸血木を植える。
「怪奇趣味な家。気に入った！」

10 ねずみ男の家には、物の怪が住んでいた。ねずみ男と物の怪は、ともに吸血木で一攫千金を夢見る。

8 ステージ上で悲鳴をあげるトランプ重井。全身が吸血木になってしまう。
「どうしたんです、トランプさん！　ウワッ！」

13 吸血木を燃やす一同。
「鬼太郎君、君たちも想像を絶する存在だ。よければ家に来て、いっしょにコーヒーを飲まないか？」

生まれたのはトランプ重井。ねずみ男はあわてて鬼太郎から逃げ出す。
「この場は、いちおう逃げまーす」

鬼太郎がねずみ男の居場所を突き止めた。そのとき実から人が現われる。
「おぎゃー！　おぎゃー！」

トランプ重井 Trump Omoi

ムード歌謡曲を歌う大スタア。持ち歌はヒット曲「有楽町で溶けましょう」。しかし、吸血木によって血を吸われてしまう。寝子の才能を見抜く。

物の怪 Mononoke

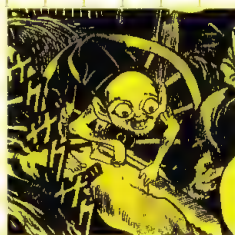
妖怪の一種。科学が発達したことで、人を脅かすことができなくなり、田舎屋敷に勝手に住み込み、貧乏生活をしている。人権もなく、保証もない。畑から盗んだ、干しタマネギばかりを食べている。

吸血木 Kyuketsuki

人間の血を吸って、育つ樹木。夜叉とドラキュラ四世のなれの果て。1日500グラムの血を吸い、全身に根を伸ばす。やがて、取りついた人間を木に変えてしまう。なお、取りついた相手は、木の実になって復活する。

原作の物の怪は、妖怪タッチ。水木しげるの妖怪ワールドの原点ともいえる、おどろおどろしいビジュアルが印象的だ。しかし、会話の内容はひょうひょうとしたもの。ギャップがおもしろい。

墓場鬼太郎 Q&A

Q 昭和30年代ってどんな時代？

A 「墓場鬼太郎」の舞台になっている時代は、昭和30年代（1955年～1964年）。昭和31年度の「経済白書」に「もはや戦後ではない」と記された、高度経済成長期です。白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫が「三種の神器」と言われ、多くの家庭が電化製品を購入した時代でした。「戦後値段史年表」（朝日文庫）によると、アニメ「墓場鬼太郎」のオープニング映像に登場する、あんぱんが昭和31年には「12円」。2008年ではだいたい「100円」ですから、だいたい10分の1ぐらいといってもいいでしょう。昭和30年代は物価の高騰も著しく10年間で価格は約1.5倍に跳ね上がっています。象徴的なのは、100円硬貨の登場。それまでは100円札が

吸血木

【第3話】

「最近はロカビリーやマンボに押され、三味線も流行らんらしい」

地獄から帰ってきて、都会に出てきた鬼太郎たちだが、やはり彼らに居場所はない。かろうじて見つけたのが、かつての三味線屋の空き部屋。いまや時代は高度経済成長期。長年愛されてきた和楽器・三味線も流行らず、エレクトリック・ギターやロックの時代が訪れようとしている。1955年にビル・ヘイリー&ザ・コメッツが「Rock Around the Clock」を発表し、全世界で6000万枚ものヒットを飛ばした、ロックンロール元年。石原慎太郎の小説「太陽の季節」が芥川賞を取ったのも、同年。いわば、時代の変わり目。東京タワーが建ち、街灯が並ぶことで、夜の暗闇も失われていった。おそらく妖怪や幽霊にとっては、住みにくい時代の到来である。

「人間のほうじゃ所得倍増とかで景気いいが、おいら、毎日たまねぎばっか食ってんだ」

「生活保護法なんかの適用は?」

「だめだ。人権がねえんだ」

「なるほど」

「このままじゃ我々が絶滅するのも、そう遠くないだろう」

物の怪とねずみ男の軽妙な会話がくすりと笑えつつも、哀しみを誘う。「墓場鬼太郎」の世界では、幽霊や妖怪は時代遅れの種族なのである。

だけれども、鬼太郎はいたってマイペースだ。学校に通う理由も、寝子ちゃんにひと目ぼれしたから。不純な動機の場面も「ふん!」と鼻息を吹き上げつつ、勉学に勤しむ、鬼太郎の姿がかわいらしい。

この「第3話」は原作では「吸血鬼と猫娘」「地獄の散歩道」「水神様が町にやってきた」の3つのエピソードにあたる。それぞれ吸血木とトランプ重井のエピソードを中心に再構成。ひとつのホラーエピソードとしてまとめあげている。この脚本を担当したのは、長谷川圭一。彼は同時期に放映中の「ゲゲゲの鬼太郎」(第五期)の初期シリーズ構成を担当しているベテラン。特撮作品から、王道のロボットアクションまで幅広いジャンルやターゲットに向けて脚本を書くことができる脚本家だ。

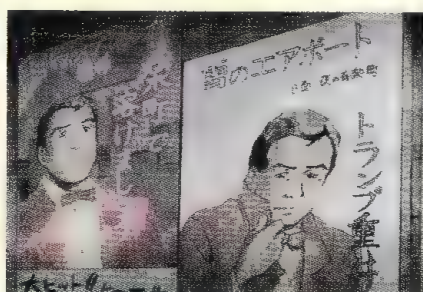
物の怪や鬼太郎、ねずみ男は時代に置いていかれても、あまり気にしていない。一方、妖怪に惑わされて、安居酒屋で酒びたりになるトランプ重井と水木。妖怪と幽霊ののん気さと人間のシリアスな悩みを対比的に見せている構成も、実におもしろい。

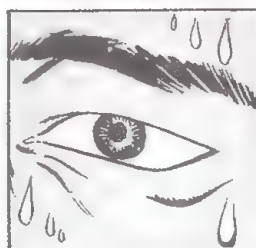
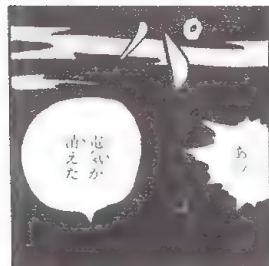
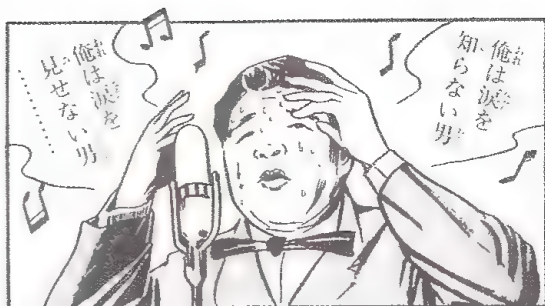
「この想像を絶する事件を誰に説明してもわかるはずもない。そして鬼太郎君、君たちもまた想像を絶した存在だ。よければ我が家に来て、いっしょにコーヒーでも飲まないか」

結果的に、偶然、トランプ重井は救われる。この最後のトランプ重井のセリフからは「人間、どれだけ悩んでもムダ。偶然にはかなわないのだ」という、水木しげるイズムが感じられる。さすがは「ゲゲゲの鬼太郎」のシリーズ構成の面目躍如だ。

たとえ時代から取り残されようと、たとえ不条理な苦しみを味わおうと、それを受け入れたところに幸せがある。だからこそ、この第3話「吸血木」は、アニメ〝墓場鬼太郎〟シリーズの中でも印象的なハッピーエンドの結末になりえたのである。

使われていましたが、昭和32年に100円硬貨が発行されたのです。経済成長期に入り、街は変わりました。小川は埋め立てられ、道は舗装されました。少しずつ自然は失われ、街から暗闇がなくなっていったのです。

▲当時のコンサート・ショウは、劇場や学校などに生バンドを招いて行なわれた。

▲昭和歌謡がヒットした昭和30年代。都会派なスタアたちがヒット曲を次々とリリースしていた。

俺は涙を知らない男
俺は涙を見せない男……

▲「吸血鬼と猫娘」より

COMIC SIDE

アニメ版第3話「吸血木」出典

「吸血鬼と猫娘」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

「地獄の散歩道」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

「水神様が町にやってきた」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(3)収録
定価780円(税込)
文庫判

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(2)収録
定価820円(税込)
文庫判

▲「吸血鬼と猫娘」より

原作紹介

【吸血鬼と猫娘】

（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

終電車で奇妙な男——ねずみ男に、木の芽を植えつけられてしまった歌手・トランク永井。その木はしっかりと根を張り、しだいにトランクの体を蝕んでいった。トランクは、地獄からこの世へ戻ってきた水木とひょんなことから知り合い、互いの不思議な体験を語り合う。

水木は、この世に戻ってからは鬼太郎とともに「ねこや」の2階に下宿していた。「ねこや」の孫・寝子は魚やねずみを見ると猫になってしまう性質をもっており、鬼太郎は落ち込む寝子を励ますためにトランク永井の歌謡ショーへ連れて行く。しかしそのステージ上で、トランクは不気味な吸血木へと突然変異し、鬼太郎と寝子にあとを託して姿を消す。

三洋社に移籍後、兎月書房での「妖奇伝」「墓場鬼太郎」の続編として発刊された「鬼太郎夜話」第一巻では、トランク永井と出会った水木の回想により、鬼太郎の出生譚が再び描かれている。また、この吸血木のエピソードとともに、いくつもの話の伏線が散りばめられており、一大長編漫画の様相を呈している。

【地獄の散歩道】

（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

「鬼太郎夜話」では、時間軸にそって、いくつものストーリーが絡み合っているため、この「地獄の散歩道」での吸血木のエピソードは少ない。しかし、ここでは新キャラ・物の怪の登場などもあり、今後のストーリーにつながる大切な部分となっている。

「吸血鬼と猫娘」でステージ上から姿を消し、生け花作家の勅使河原蒼風に拾われて喫茶店「ザ・パンティ」のオブジェになっていた吸血木（トランク永井）は、元凶であるねずみ男にすっかり忘れられていた。ねずみ男は、猫娘化した寝子に脳の一部をかじられ、吸血木の記憶がなくなっていたのだ。

ニセ鬼太郎が、地獄に堕ちた寝子から預かってきた脳を入れ直し、吸血木のことを思い出したねずみ男は、家と土地を買い、吸血木を育てる。そしてその物置で「物の怪」と出会うのだが……。

ちなみに作品中、何度か登場する「ザ・パンティ」は名前がヒワイなだけで、普通の喫茶店のようである。

【水神様が町へやってきた】

（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

物置でねずみ男が出会った「物の怪」は、ねずみ男とともに吸血木をいっしょに育てることになった。吸血木に与える血を集めるため、2人は蚊を訓練する。血をふんだんに与えられ、成長した吸血木はやがて実を結ぶ。

そこへ金貸しの森協真茶光に雇われた鬼太郎が物の怪の借金の取り立てにやってくる。物の怪は、鬼太郎をもうひとりの債務者である「水神」のもとへ案内することで借金を見逃してもらう。2人が水神のもとから戻るころには、吸血木の実は巨大に成長。その中から出てきたのは——。

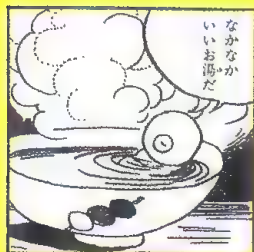
吸血木関連の話題は一件落着し、ここからストーリーは、おそろしい「水神」に焦点が当てられていく。

原作版をもっと楽しむ小話

ムード歌謡歌手・トランク永井

吸血木と化してしまうトランク永井のモデルは、「墓場鬼太郎」が描かれた昭和30年代に一世を風靡した歌手・フランク永井である。フランク永井のヒット曲「有楽町で逢いましょう」は、作中では「有楽町で笑いませう」になっている。後年の月刊「ガロ」版「鬼太郎夜話」では三島由美夫という名前で登場。これ以外にも、「墓場鬼太郎」には、当時活躍していた実在の有名人をモデルとした人物が数多く登場する。

初めての茶碗風呂

「吸血鬼と猫娘」では、目玉の親父を象徴するアイテム「茶碗風呂」が初めて登場する。記念すべき初風呂となった茶碗には串団子がデザインされている。親父が風呂を堪能したあと、外から帰ってきた水木は、その親父の残り湯を気づかずに飲んでしまう。

トランプ重井×ピエール瀧

INTERVIEW

「墓場鬼太郎」

「墓場鬼太郎」を代表するスーパースタア・トランプ重井。彼を演じるのは、電気グルーヴのピエール瀧。ムード歌謡「有楽町で溶けましょう」も歌う彼は、はたしてアニメ「墓場鬼太郎」にどんなアプローチをしたのか。アグレッシブインタビュー。

――原作の貸本漫画「墓場鬼太郎」はお読みになったことはありましたか？

瀧：貸本漫画の時代はまだ生まれていないので読んだことはないです。[illegible]う物があるということは知っていました。

――原作「墓場鬼太郎」を読んだときの感想は？

瀧：鬼太郎出生の秘密など興味深いエピソードが読めておもしろかったです。

――「ゲゲゲの鬼太郎」のアニメをごらんになっていたそうですが、当時はどんな印象でしたか？

瀧：「恐い、でも見てしまう」そういった不思議な魅力のアニメでした。その"恐さ"はあらがえない感じを今でも覚えています。

――「墓場鬼太郎」の出演オファーがあったときは、どんなお気持ちでしたか？

瀧：自分が水木先生の作品に関われるなんて光栄だと思いました。

――「墓場鬼太郎」を演じるにあたり、台本を読んだときの、トランプ重井の印象をお聞かせください。

瀧：しっかりとした"大人"のキャラク

悪い鬼太郎は、奇妙に見えるけれど、本質をついている

ターだったので正直「大丈夫かな？ 俺で」と思いました。

――今回の「墓場鬼太郎」で演していて、おもしろかったセリフやエピソードがあればお教えください。

瀧：野沢さんにボールペンを借りたときに「はい、これ書きやすいですよ」と鬼太郎の声で言われたこと。田の中さんの座布団が目玉親父だったこと。

――今回「墓場鬼太郎」を演じてみて「ゲゲゲの鬼太郎」との違いをどこに感じていましたか？

瀧：ダークさがかなり上ですよね。そういう鬼太郎が好きです。

――若いスタッフが演出する「墓場鬼太郎」の映像をご覧に[illegible]

瀧：作品としては[illegible]いちばんモダン[illegible]と思いまして。

――「有楽町で溶けましょう」をトランプ重井は歌っていますが、「有楽町で溶けましょう」は瀧さんにとってどんな印象をもつ曲ですか？

瀧：昭和の[illegible]曲[illegible]ンガの世界の話なの[illegible]少し。

――「有楽町で溶けましょう」をレコーディングしたときの思い出をお聞かせください。

瀧：仮歌を歌ってくれた人の声[illegible]「その人が歌えばいいのに」と思いました。

――オープニングテーマ「モノノケダンス」を電気グルーヴが演奏していますが、「モノノケダンス」は瀧さんにとってどんな印象をもつ曲ですか？

瀧：電気グルーヴの新作アルバムを出す[illegible]後押ししてもらった曲。感謝しています。

――「モノノケダンス」をレコーディングしたときの思い出をお聞かせください。

瀧：「ああ、これはよい曲だなぁ」と思いました。

――演じてみて、フィルムをご覧になって、トランプ重井とはどんな人物だと思いましたか？

瀧：スターなのに電車に乗っているところ[illegible]昔は今よりもっとスターが身近[illegible]

[illegible]

――トランプ重井は、驚きの怪奇現象に出会います。もし瀧さんが[illegible]

瀧：[illegible]ぎします。

――「墓場鬼太郎」のDVDをご覧になるファンのみなさんに、メッセージをお願いいたします。

瀧：悪い鬼太郎は奇妙に映るかもしれませんが、それはそれで本質をついていると思います。楽しんで恐がってください。

モノノケダンス
電気グルーヴ

価格：1020円
発売：2008年2月14日
発売元：キューンレコード
収録曲：モノノケダンス
有楽町で溶けましょう
[illegible]

トランプ重井 with [illegible]
「有楽町で溶けましょう」
作詞：ピエール瀧
作曲：石野卓球

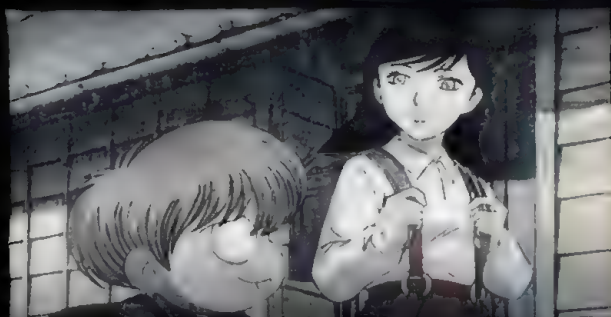
今宵 ナイトクラブで
甘い 唄をささやく
あなた とても逢いたい
[illegible]

トロリ 溶けて [illegible]
街は やさしく
トロリ 溶けて 夜の[illegible]
ひとり 寂しい

酒場 いつもの場所で
こころ 癒すカクテル
あなた 辛く恋しい
涙を グラスで 飲み干す

トロリ 溶けて [illegible]
[illegible]
トロリ 溶けて 午前[illegible]時
ひとり 切なく

ピエール瀧
Pierre Taki

●ぴえーる・たき／1967年4月8日生まれ。静岡県出身。1989年、石野卓球と電気グルーヴを結成。1991年、アルバム「FLASH PAPA」でメジャーデビュー。最新作は「モノノケダンス[ALBUM MIX]」も収録されているアルバム「J-POP」。春には今年2枚目となるニューアルバムのリリースも予定されている。また俳優としても数々の映画に出演。ゲームのディレクター、CMのナレーション、漫画の原作、タレント業などジャンルを超えて幅広く活躍。

朝、寝子といっしょに登校する、鬼太郎。
「寝子さーん！　お、お早うございます」

あやしい影を追う鬼太郎。寝子が使用中のトイレのドアを開ける。
「レディの使用中に……鬼太郎さんのスケベ！」

鬼太郎がお弁当を食べる。お弁当は目玉親父特製のドブネズミ。
「あなたの食べているのはドブねずみでしょう」

第4話
寝子

DVD第二集 収録
2008年1月31日放送
脚本：高橋郁子
演出：中村哲治
作画監督：袴田裕二・窪秀己
美術：杁浦正一郎・斉藤信二

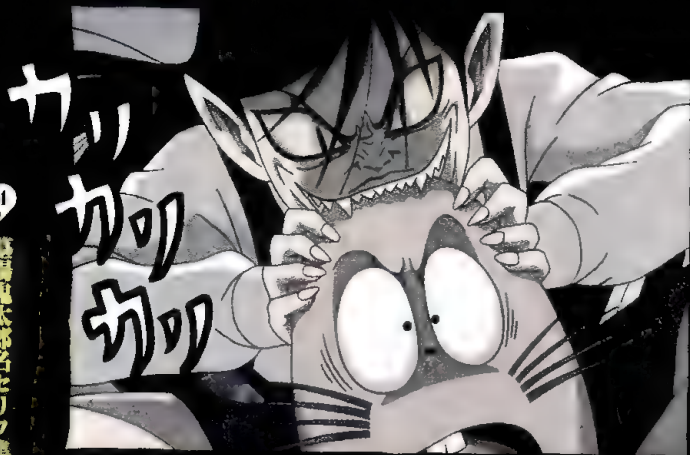
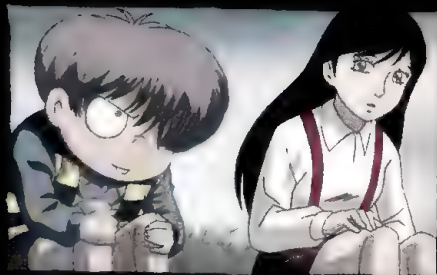
【あらすじ】

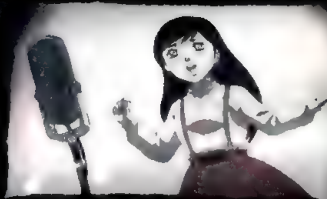
鬼太郎が恋心を寄せる少女・寝子。彼女は、ねずみを見ると豹変してしまう秘密をもっていた。正体を知った鬼太郎は、彼女を元気づけるために、人気歌手のトランプ重井に紹介する。トランプ重井が寝子をステージにあげると、彼女はたちまちスターに！　ところがニセ鬼太郎とねずみ男の妨害により、寝子はステージで化猫に変身してしまう。ステージを台なしにした寝子はニセ鬼太郎に導かれて、川へ飛び込む。

COMMENT

シリーズディレクター　地岡公俊

ニセ鬼太郎という謎の人物がいきなり登場するわけですが（笑）。「彼はいったい何者なのか」を考えたら、負けだと思うんです。何者かわからないのが、おもしろいわけですから（笑）。この第4話のポイントはやっぱり寝子の変身ですね。寝子の歌の見せ方と、寝子が死んでしまったあとのくだりをどうやってもっていくか。「とにかくすっごく後味を悪くしてください」とスタッフに伝えました。海外のドラマでも、すっごく後味の悪いものってありますよね。この話は鬼太郎にとっての救いは一切ない。鬼太郎の喪失感を描こうと思っていました。

9 墓場鬼太郎名セリフ集 「父さんの作るおかずはセンスがないからなぁ」（鬼太郎）第4話より

落ち込んでいた寝子が変身。そこには、ねずみ男がいた！
「悔しい……。いつかきっと食べてやるんだから！」

寝子は鬼太郎に弁解する。ねずみを見ると寝子は凶暴な猫に変身してしまうのだ。
「あんな姿を見られて、私もう学校へ行けないわ」

テレビに登場するアイドルになる寝子。その寝子の成功をうらやむ男がいた。寝子に頭をかじられたねずみ男である。

トランプ重井の前座としてビュー。芸名はキャット寝子。
「君にメロロン」を披露する。

落ち込む寝子を元気づけるため、トランプ重井のもとに行く、鬼太郎。寝子は歌を披露。
「猫なで声が人をひきつけます!」

ねずみを見て、化猫に変身してしまう寝子。コンサート会場にいるファンは大騒ぎ。
「哀しい運命に……私は逆らえ……ない」

鬼太郎に変装したニセ鬼太郎が、寝子と心中をしようと、迫りはじめる。
「いっしょに死にましょう！」

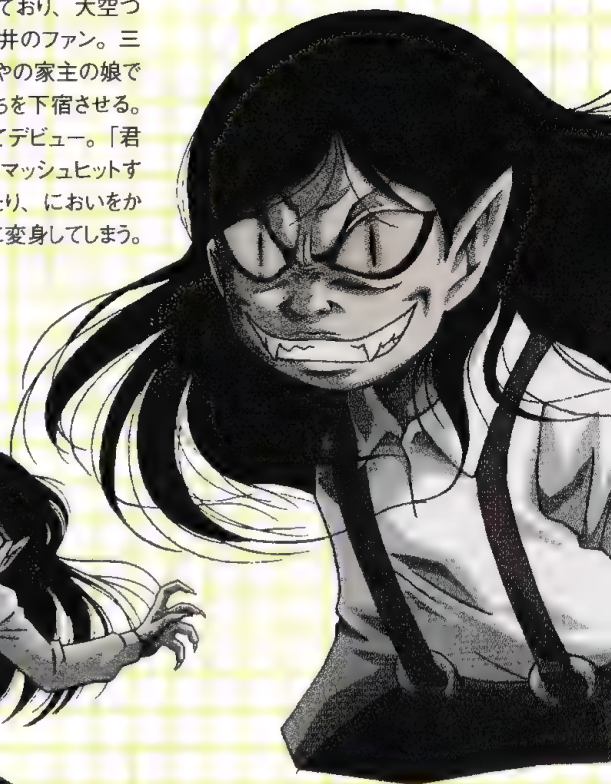
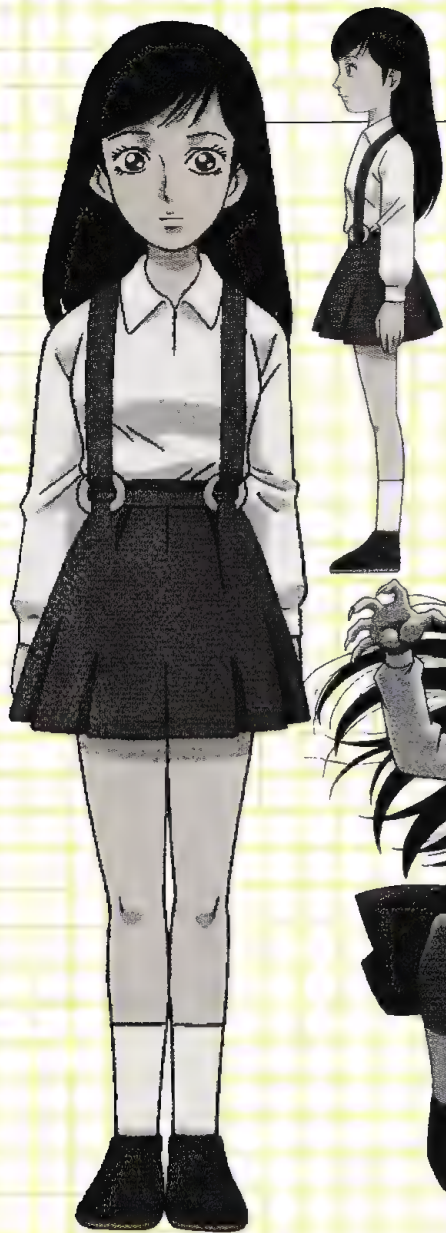
寝子は死んでしまった。ショックで深い悲しみにとらわれる鬼太郎。水木は鬼太郎を見守ることしかできなかった。

新人歌手キャット寝子のコンサート会場。寝子のメロメロ〜な美しい歌声に、鬼太郎は聴き惚れていた。

そしてもうひとり。鬼太郎の存在をうとましく思う少年——ニセ鬼太郎がいた。ねずみ男とニセ鬼太郎は手を組む。

そこにニセ鬼太郎がねずみを放つ。ねずみは寝子のいるステージへ向かう。
「しっかり頼むぜ」

寝子 Neko

鬼太郎の初恋の女の子。歌手になることを夢見ており、大空つばめやトランプ重井のファン。三味線職人のねこやの家主の娘であり、鬼太郎たちを下宿させる。キャット寝子としてデビュー。「君にメロロン」がスマッシュヒットする。ねずみを見たり、においをかぐと、凶暴な猫に変身してしまう。

原作

原作の寝子は、アメリカンコミックふうのおしゃれな女の子。猫なで声で「♪コラソンレメロン」とフランス語ふうの楽曲を歌った。アニメ版にくらべてあか抜けている印象。

墓場鬼太郎 Q&A

Q 寝子は人なの？妖怪なの？

A 清楚なお嬢様なのに、なぜか、ねずみを見ると、くるりと表情を変えて暴れはじめる。彼女は決して妖怪や幽霊ではありません。「ひとりの少女に何かの霊が憑いている」という状態なのです。古来から「狐憑き」といわれ、狸、蛇、犬神などの霊が人に憑依することで、不思議な言動をする例が確認されていました。まさしく寝子が豹変する現象は、この「狐憑き」にあたります。したがって、彼女自身は何かの霊が憑いてしまった、かわいそうな少女にすぎないのです。おそらく彼女の実家「ねこや」が原因なのではないでしょうか。「ねこや」はもともと三味線職人の店。三味線をつくるために、何匹も猫を殺して、皮をはいできました。そ

寝子

【第4話】

第4話「寝子」と第5話「ニセ鬼太郎」は、ひと続きの話になっている。この一連のエピソードの脚本を担当したのは、高橋郁子。アニメ「モノノ怪」に参加し、東映アニメーションの「墓場鬼太郎」制作チームの独特な作品づくりに精通しているスタッフである。

「モノノ怪」（2007年放送・全12話）という作品は、まさしく「墓場鬼太郎」の兄弟ともいえる作品。「墓場鬼太郎」のシリーズディレクターの地岡公俊が「モノノ怪」のオープニングとエンディングの映像の絵コンテ・演出を担当していたことは有名だ。

「モノノ怪」の監督は中村健治。彼は今回の「墓場鬼太郎」ではオープニングとエンディングの絵コンテ・演出を担当している（インタビューはP96参照）。地岡と中村はプライベートでも仲がよく、作品を超えてバトンタッチをしたかたちになっているといえるだろう。

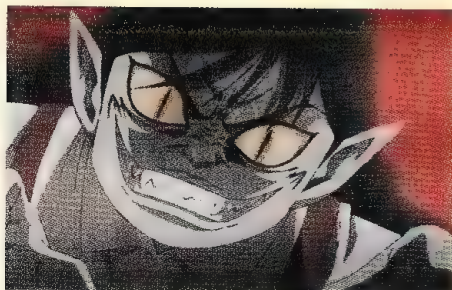
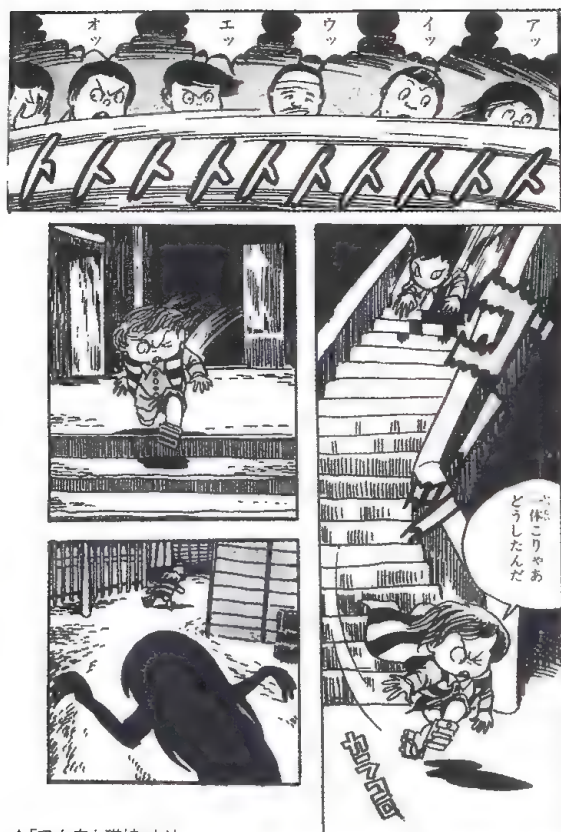
両作品の接点はスタッフ面だけでなく画面づくりにも感じられる。「モノノ怪」の画面は3DCGとCGによるエフェクトやフィルターを効果的に多用した、絢爛豪華でアバンギャルドなものだった。画面にフィルターを重ね、まるで和紙や千代紙のような質感を生み出す、独特のテイストをつくりあげていたのだ。こういった映像面のインパクトを「墓場鬼太郎」も受け継いでいる。メインスタッフには「モノノ怪」と共通する顔ぶれが多く、CGディレクターの森田信廣や美術ボードの倉橋隆は「モノノ怪」でもその腕前をふるっていた。当時の経験をいかして「墓場鬼太郎」では「モノノ怪」からさらに一歩すすんだフィルターが用意されているのである。

今回使われたフィルターは、通称「墓場フィルター」と呼ばれているもの。アニメーターと美術スタッフが描いた原動画・背景美術をデジタル撮影処理する段階で、この「墓場フィルター」をくわえることで、独特の質感あふれる映像ができあがるのだ。「墓場フィルター」は画面全体に重ねるものと、キャラクターにのみ重ねるものの数種類があり、あまりに独特な質感のために、背景やキャラクターにつけた色が変色してしまうほどのものになっている。色彩設計や彩色スタッフは、この「墓場フィルター」の変色をあらかじめ逆算しながらキャラクターへの色づけをしているのだ（墓場フィルターがかかっていない段階のキャラクターたちには、完成映像とは全然違う色が塗られている。P64参照）。

また、高橋郁子が書いた「寝子」「ニセ鬼太郎」の脚本においても「モノノ怪」の影響がうっすらと感じられる。「モノノ怪」で彼女が書いたのは「座敷童子」（第1話、第2話）というエピソード。彼女は「座敷童子」で、女性の出産というかなりシリアスな題材をたくみに「悲恋もの」に仕上げていた。今回の「墓場鬼太郎」の「寝子」においても、寝子のアイドルデビューから心中にまで追い詰められる、急転直下の感情の移り変わりを丁寧に描いている。こういったキメの細かい仕事が、キャラクターへの感情移入度を高めていくのだ。

鬼太郎に関わった人間は不幸になっていく。しかし、今回は鬼太郎自身までが不幸になってしまうという、衝撃の悲恋話。まさに傑作「モノノ怪」にかかわっていたスタッフたちの新機軸と呼ぶことができるだろう。

の猫の未練が、ひとり娘の寝子に宿ってしまったのではないかと想像できます。おそらく寝子自身は「罪のない、不幸な被害者」にすぎないはず。だからこそ悲劇のヒロインなのです。

▲やさしい歌声に清楚なイメージ。
たちまち、寝子ちゃんは日本のアイドルになった！

▲ねずみを見ると、凶暴な猫に変身してしまう。
たとえ歌を歌っている最中であっても……。

▲「吸血鬼と猫娘」より

▲「吸血鬼と猫娘」より

COMIC SIDE

アニメ版第4話「寝子」出典

「吸血鬼と猫娘」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

「地獄の散歩道」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

「水神様が町へやってきた」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(3)収録

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(2)収録

原作紹介

【吸血鬼と猫娘】

（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

「吸血鬼と猫娘」では、吸血木に体を乗っ取られてしまうトランク永井、猫娘の寝子、墓場鬼太郎に代わって本物の鬼太郎の座を奪おうと企むニセ鬼太郎という三者のストーリーが同時に展開していく。

その中で、鬼太郎の初ロマンスの相手として登場するのが、鬼太郎たちが下宿する「ねこや」の孫・寝子である。寝子は、ねずみや魚を見ると狂暴な猫娘になってしまう悲しい秘密をもっていた。

ある日寝子は、鬼太郎が弁当として持ってきたドブねずみの匂いにつられ、同級生の目前で猫娘化してしまう。学校へ行けないと嘆く寝子に、責任を感じた鬼太郎は、歌が得意だという寝子をトランク永井と引き合わせようとする。

この作品中には、恋に浮かれた鬼太郎の純情な一面が描かれている。歌謡ショーへ向かう道すがら、鬼太郎が寝子と手をつないで顔を赤らめる場面がある。また、その後、楽屋付近でトランクのファンにもみくちゃにされ、ニセ鬼太郎にチャンチャンコをすり替えられてしまうのだが、やはり寝子のことばかり気を取られていた鬼太郎は、そのことにはすっかり気づかないのである。

寝子は、吸血木となり姿を消したトランク永井の代打としてステージに立ち、たちまち人気者となる。しかし、ねずみ男とニセ鬼太郎の謀略により、大観衆が見守る中で猫娘と化してしまう。それればかりか、その後、ニセ鬼太郎に強引に入水自殺させられ、地獄へ堕ちるというなんとも不幸な結末を迎えるのだ。

原作版をもっと楽しむ小話

アイウエオを習う鬼太郎

鬼太郎は寝子と同じ学校に通う小学1年生である。授業では「アイウエオ」を教わるのだが、寝子の隣で彼女を眺めているのに夢中で、教師の話を聞いておらず、教室の後ろに立たされる。

ちなみに、昼休みに鬼太郎のドブねずみ弁当に反応し、猫娘化した寝子の素早い動きに驚く子供たちの叫び声も「アイウエオ」である。

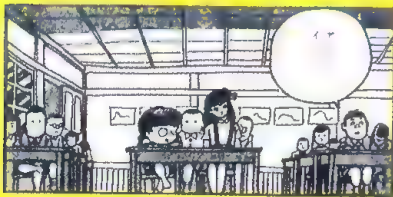
寝子の歌にみる昭和の歌謡シーン

寝子がトランク永井の代わりに歌ったステージは、錦糸町に実際にあった「江東劇場」だといわれる。また、彼女が街頭のテレビで歌っているのは、1960年に森山加代子が歌ってヒットを飛ばした「メロンの気持ち」（原題：「Corazon de Melon」）である。観衆の前で猫娘化してしまう日比谷公会堂の「新進十大歌手立会歌よう大会」では、1958年にヒットしたニール・セダカの「おお！　キャロル」を歌っているようだ。

こうした楽曲のほか、「墓場鬼太郎」には当時の大衆文化を生き生きと感じさせる要素がたっぷりとつまっている。そんなところも、この作品が世代を超えて愛される魅力のひとつなのだろう。

まぼろし探偵と山口オトヤ

「新進十大歌手立会歌よう大会」に潜り込んだニセ鬼太郎は、赤い帽子に黒いマスクといういでたちで登場する。これは、1959年当時に放映されていた桑田次郎の漫画を原作とする特撮テレビ番組「まぼろし探偵」のコスプレだと思われる。まぼろし探偵は、赤い帽子、黒マスク、黄色いマフラーがトレードマークであった。

また、同じ回で舞台の一番前に座ったニセ鬼太郎を「山口オトヤのように」と表現しているが、これは日比谷公会堂で日本社会党委員長の浅沼稲次郎を暗殺した右翼活動家の少年、山口二矢のことである。

INTERVIEW「墓場鬼太郎」

寝子×中川翔子

薄幸のヒロインにして鬼太郎の初恋の人、寝子を演じるのは、しょこたんこと中川翔子。3~4歳のころに「墓場鬼太郎」を読んだという、生まれながらの大ファンは、どのようにアニメ「墓場鬼太郎」に挑んだのか。ドラマチックインタビュー。

——原作の「墓場鬼太郎」を読んだのはいつごろですか?

中川：3歳か4歳ぐらいです。

——読んだときの感想は?

中川：お皿にいっぱい入れた目玉を食べるシーンを見たときは衝撃的でしたね。そのシーンのイラストを描いたりもしました(笑)。

——「墓場鬼太郎」はお父様(中川勝彦)が買ってきたそうですね。当時の思い出を聞かせてください。

中川：全巻一気に買ってもらったということがうれしかったです。これを読まないと大人になれないといわれましたね(笑)。

——今回「墓場鬼太郎」のオファーがあったときは、どんなお気持ちでしたか?

中川：かってに運命だと思ってしまいました。人生で初めて読んだ漫画は「墓場鬼太郎」と「ゲゲゲの鬼太郎」だったのですが、すごく衝撃で、一生の思い出であり、トラウマであり、それが後の人生に与えた影響も大きいんです。

——台本を読んだときの、寝子の印象をお聞かせください。

snow tears
中川翔子

価　格：1575円
発　売：2008年1月30日
発売元：ソニー・ミュージックレコーズ
収録曲：snow tears
君にメロロン
Winter Wish
snow tears－instrumental－

キャット寝子 sings
「君にメロロン」

歌：中川翔子
作詞：meg rock
作曲：meg rock

[illegible]
[illegible]
早く気づいてよ この気持ち
メロメロメロロン

見上げれば 星空のシンフォニー
指でたどった 愛の星座
月の光 窓を開けたら
迎えにきたの 恋のメロディ

君にメロメロメロメロメロロン
よく見えるように この目をこらそう
早く気づいてよ この気持ち
メロメロメロロン

流れ星のリボン 飾って
三日月の上 腰かけるわ
君がくれた キスの魔法で
星屑さえも甘いメロディ

君にメロメロメロメロメロロン
悲しいのにね 涙がメロロン
早く気づいてよ この気持ち
メロメロメロロン

君に君にメロメロメロメロメロロン
よく見えるように この目をこらそう
早く気づいてよ この気持ち
メロメロメロロン
メロメロメロロン

中川：なんてしっかりしているんだろうと思いました。しっかり夢をもっていて、すばらしい女の子です。こんなに大人びているのに、小学1年生というギャップがかわいいです。地獄でたくさんの猫に囲まれて、好きな歌を歌って幸せになってほしいですね。

――今回の「墓場鬼太郎」で演じていて、おもしろかったセリフやエピソードがあればお教えください。

中川：ねずみ男を追いかけて、脳みそをかじりとるところが原作でも好きだったので今回そのシーンを再現できたのがうれしかったです。「今度、会ったときは絶対食べてやるんだから」といいたいです（笑）。

――今回「墓場鬼太郎」を演じてみて「ゲゲゲの鬼太郎」との違いをどこに感じていましたか？

中川：「墓場鬼太郎」は昭和にしかないどんよりとした暗い感じがあって、今の時代だからこそ表現できるものなのかと思いました。「ゲゲゲの鬼太郎」は、おばけたちが運動会をしてるぐらい明るくて、本当に陰と陽の関係だと思います。個人的には「墓場～」の寝子が「ゲゲゲ～」の猫娘に生まれ変わっているんだと思いたいです。

――「君にメロロン」は中川さんにとってどんな印象をもつ曲ですか？

中川：原作の「コラソンレメロン」とはまったく違うのですが、すごく私が好きなのは昭和の世界で、月だったり星だったり、恋だったり、片思いだったり、女の子の一途な気持ちというのがまっすぐ表われていて、メロメロメロロンという不思議なフレーズも一度聞いたら耳に残ってしまうし、初めて聴いたときからも、これはキターと思いました（笑）。

――「君にメロロン」をレコーディングしたときの思い出をお聞かせください。

中川：信じてもらえないと思うのですが、「メロロン」を録り終わって部屋から出ようとしたとき、足音がしたんです。振り返ったんですが、何もなくて。ドアにむかって歩いたらまた足音がついてきたんです。不思議でした。さすが「墓場鬼太郎」です！

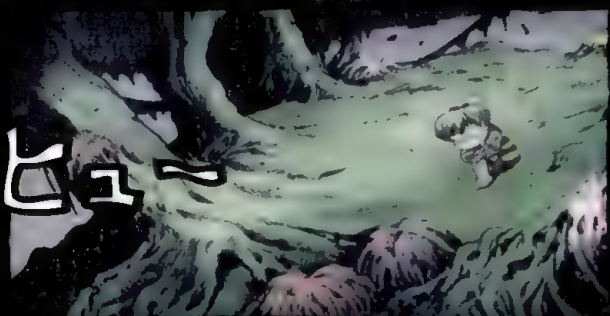
――ファンのみなさんに、メッセージをお願いいたします。

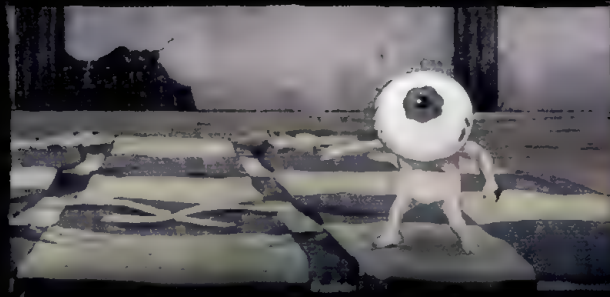
中川：数十年のときを超えて、今だからこそ表現できた、怖ろしいけど、美しい世界。やっぱり、野沢さん、田の中さん、大塚さんの3人がそろったときの威力はすばらしいです。この作品が形になり残せることが本当によかったと思います。いつの日か、自分の子供には絶対見せたいです。見せたときに寝子のところでおびえたら、ママが寝子なんだぞといっておどかすのが夢です（笑）。

いつの日か、自分の子供に「ママが寝子なんだぞ」といっておどかしたいです（笑）

中川翔子 Shoko Nakagawa

●なかがわ・しょうこ／1985年5月5日生まれ 東京都出身。ワタナベエンターテインメント所属。父はミュージシャン・俳優の中川勝彦。2001年に16歳でタレントとしてデビュー。2006年「Brilliant Dream」で歌手としての活動を開始。2008年ファーストアルバム「Big☆Bang!!!」をリリース。グラビア・漫画・声優・ブログなど多方面で活躍。「しょこたん☆ぶろぐ」
http://blog.excite.co.jp/shokotan/

1 ねずみ男はＴＶ番組に出演していた。
「あなた方は現代科学を根底から反省せねばなりませんがね」

2 寝子と心中したニセ鬼太郎は地獄に堕ちていた。
「ここはどこなんだ？ いったい俺はこの先どうなるんだ」

3 寝子は死んでいた。葬式が行なわれる。鬼太郎は嘆く。
「寝子ちゃん、僕のフィアンセと決めていたのに………」

4 鬼太郎の着ていた、チャンチャンコは偽物だった。鬼太郎は驚かない。
「模様がずれたかな？」

第5話

ニセ鬼太郎

DVD第二集 収録
2008年2月7日放送
脚本：高橋郁子
絵コンテ：地岡公俊
演出：羽多野浩平・地岡公俊
作画監督　橋本敬史・窪秀巳
美術：北村芳子

【あらすじ】

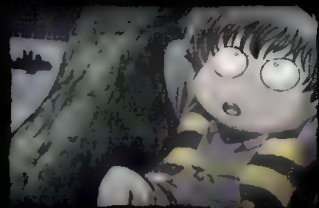
ねずみ男はＴＶ番組の中で死後の世界を証明して、一攫千金を企んでいた。彼は、寝子とともに地獄に堕ちたニセ鬼太郎に“地獄の砂”をもってくるように命じていたのである。一方、寝子が死んで落ち込む鬼太郎は、幽霊族のチャンチャンコが盗まれていることに気づく。チャンチャンコを盗んだ、ニセ鬼太郎は地獄で、寝子と再会する。寝子は地獄で生きることを覚悟していた。悲恋の物語。

COMMENT

シリーズディレクター 地岡公俊

第４話と対のエピソードです。ＴＶ収録シーンからはじまり、最後は寝子との別れで終わるという、前半と後半のテイストがまるで違う話。各キャラクターの個性の強い部分を連ねていったような構成になっています。時間軸も組み変えることで、大人向けな映像になっています。目玉親父が鬼太郎に説教をすることで、彼は自分の無力さを知る。アフレコ収録のとき、目玉親父役の田の中勇さんがすごく楽しそうで(笑)。「ゲゲゲの鬼太郎」では、鬼太郎を叱るシーンは珍しいですからね。モノクロの寝子にはひと工夫あります。色彩設計の辻田邦夫さんの発案で寝子の影の境界線がぼけているんです。さすがです！

墓場鬼太郎名セリフ集「……僕も幽霊族として頑張って生きていきます……」（鬼太郎）第5集より

地獄に堕ちたニセ鬼太郎は、現われた目玉親父のあとについていく。
「もうこの目玉にすがるしか方法はないのだ」

チャンチャンコを盗んだ、ニセ鬼太郎は地獄で迷子になってしまった。

鬼太郎のチャンチャンコは、地獄を行く神通力があった。
「これはこの世にない動物の毛だ」

絶望するニセ鬼太郎。
「きっと悪いことをしたと思ってらっしゃるんだわ……」

⑩ チャンチャンコがあれば、猫娘は生き返ることができる。しかし、猫娘はニセ鬼太郎にゆずる。その広い心に、ニセ鬼太郎は号泣。

地獄の一丁目には猫娘、かつての寝子の家があった。
ニセ鬼太郎は恐怖におびえて、逃げ出していく。

⑫ 鬼太郎は地獄へ猫娘に会いに行く。しかし、猫娘は泣きながらも、鬼太郎に会おうとしなかった。2人の別れ。

ニセ鬼太郎は髪の毛をそり、丸い頭で、深い反省をした。
「一日に三回は反省します」

ニセ鬼太郎 Nise Kitarou

鬼太郎にそっくりな人間の子ども。日本国民として戸籍登録をしており、税金を払おうとしない鬼太郎を憎んでいる。鬼太郎のように出っ歯がなく、目の位置も微妙に違う。水木しげる著の「妖奇伝」などの漫画を読むことで、鬼太郎の行動パターンを追っているらしい。

原作

原作のニセ鬼太郎は、ねずみ男に煙草をたかるほどのがめつさ。ねずみ男よりも尊大でわがまま。鬼太郎に成り代わることで一攫千金を企んでいる。

Q 鬼太郎のチャンチャンコの秘密とは？

A 鬼太郎がいつも着ている、黄色と黒のシマのチャンチャンコ（袖無し羽織）。これは世界でたったひとつしかない貴重な品。地獄と人間界を生きたまま行き来することができます（生きている人間が地獄に行くには、切符がなくてはいけません）。幽霊族は死ぬときに一本だけ「霊糸」と呼ばれる毛を残します。この「霊糸」でつむいだ、チャンチャンコは、神通力を秘めているのです。幽霊族は長命なため、この「霊糸」を集めるには、膨大な時間がかかったことでしょう。まさしく目玉親父の愛の結晶であり、幽霊族の最後の生き残りだからこそ着る資格のあるものなのです。ちなみに、チャンチャンコを顕微鏡で見

ニセ鬼太郎【第5話】

鬼太郎にとっては初恋。そして初の失恋となるエピソード。「墓場鬼太郎」前半戦のクライマックスだ。原作の「吸血鬼と猫娘」のねずみ男TV出演エピソードと、「地獄の散歩道」の地獄でのエピソードの2つをうまく組み合わせたことで、テーマの反復と情報圧縮がなされ、よりはっきりと「墓場鬼太郎」らしいテーマが浮き彫りになっている。短時間でひとつの物語を描かなくてはいけない、アニメならではの構成の妙といえるだろう。

さて、この「寝子」のエピソードで多角的に語られているテーマは「墓場鬼太郎」的な「死生観」だ。

幽霊族の鬼太郎たちは地獄を往復することができる。彼らにとって地獄とは死後の世界ではなく、いつでも遊びに行ける、ちょっと遠くの異国のようなもの。彼らにとって地獄は恐ろしい場所ではない。むしろ、まるで何もない、退屈な場所のように描かれているのである。

鬼太郎は幽霊族特有ののんきさがゆえに、寝子の死を軽く思っていたふしがある。しかし、目玉親父に叱られたことで、その重みをあらためて痛感する。夜の街を彷徨しても、道行く人のスカートめくりをしても、外で寝ても、何をしてもむなしい。おそらく、人が死ぬ＝帰ってこないということの悲しさを、むなしさというかたちで初体験していたのだろう。

一方、第5話の冒頭で人間たちは「死後の世界は存在するか」という公開討論をTV放送している。このTV放送は、ねずみ男の発案によるもの。ねずみ男にとっては、死後の世界はお金儲けのネタぐらいにしか考えていないのだろうが、人間にとっては「死後の世界」の有無はとてつもなく大きな話題だ。なぜなら、人間の目からは、地獄も極楽も見えないから。だから、死を恐れる。わからないからこそ、恐れ、おびえる。その感覚がまさに人間そのものなのだ。

そして寝子は、鬼太郎とも、人間とも違う「死生観」をもっている。彼女は現実社会に絶望する。彼女にとっては、人間界こそが、見えない悪意を感じる場所であって、何もない地獄が安全な場所に感じるのだ。だから、自分の意志で地獄に止まることを選ぶ。寝子にとって（妖怪になった猫娘にとって）、死後の世界（地獄）は退屈でもなく、恐怖の場所でもない。救いの場所になりえたのだ。

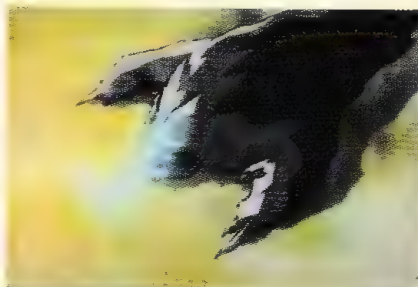
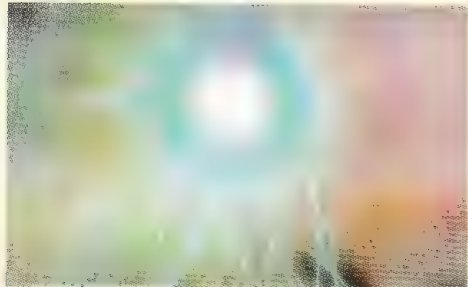
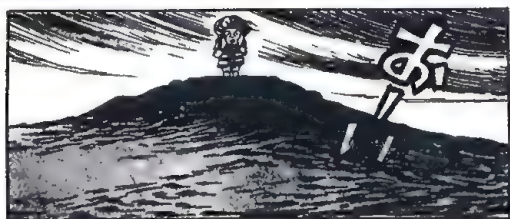
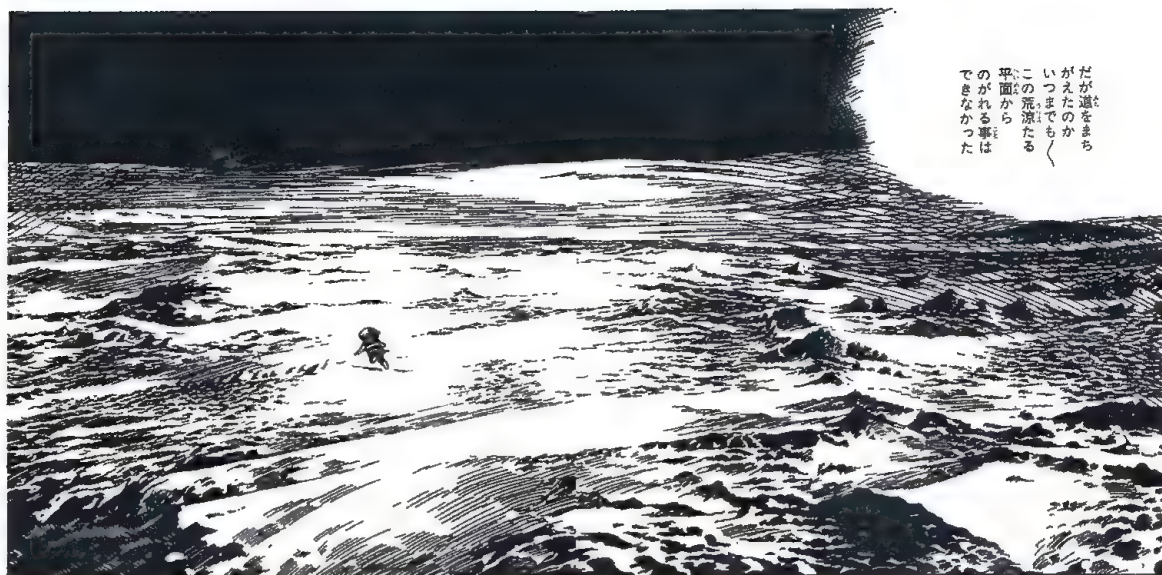
この寝子の決意を、いまの鬼太郎は理解できない。第1話で鬼太郎は人間界で退屈を味わい、地獄で遊ぶ子供だった。しかし、徐々に「人間はおもしろい」ということに気がついてしまった。ましてや第3話で寝子に出会ったことで、人間界を楽しむことを知ってしまう。いまや鬼太郎にとって死後の世界（地獄）は退屈な世界だ。人間界に戻りたくないという寝子の気持ちが理解できないのだ。

ここに鬼太郎と寝子の断絶がある。鬼太郎は寝子と別れを告げなくてはいけない。

「……僕も幽霊族として頑張って生きていきます……」

寝子との別れを経て、鬼太郎は絶対わかりあえないことがあることを知ってしまった。そして、わからないことが、恐ろしいことだということを知ってしまった。それは鬼太郎が人間に一歩近づいてしまったことの証明にほかならない。

彼は夜のネオン街に消えていく。寝子と別れ、人間と生きていくという覚悟とともに。ほろ苦い成長がここに描かれているのだ。

ると、「霊糸」が生き物のように、うごめいています。チャンチャンコがみずからの意志で動くこともあり、幽霊族の生命力はすさまじいばかり。死してなお、鬼太郎の身を守っているのです。

▲幽霊族が死ぬと、身体から一本の「霊糸」が出てくる。「霊糸」は青白く光り、ふわりと自分で動きはじめる。

▲霊糸が集まってくると、自然と衣服のかたちとなり、チャンチャンコが生まれる。世界でひとつのちゃんちゃんこの誕生。

▲「地獄の散歩道」より

▲「地獄の散歩道」より

COMIC SIDE

アニメ版第5話「ニセ鬼太郎」出典

「吸血鬼と猫娘」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

「地獄の散歩道」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

「水神様が町へやってきた」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(3)収録

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(2)収録

原作紹介

【吸血鬼と猫娘】
（「鬼太郎夜話」 三洋社より）

原作でニセ鬼太郎が初めて登場するのは、脳を猫娘にかじられたねずみ男をニセ鬼太郎が介抱するシーンである。市松模様のチャンチャンコを身につけているニセ鬼太郎は、ねずみ男に、日本国籍をもっているれっきとした人間の自分こそが、本物の鬼太郎であると主張する。何故か友情が芽生えた2人は、鬼太郎の神通力の正体を探るべく水木しげる作〝墓場鬼太郎〟シリーズをテキストに研究をはじめるのであった。

鬼太郎の神通力の秘密が、幽霊族に代々伝わる霊糸でつくられたチャンチャンコにあることを突き止めたニセ鬼太郎は、人ごみにまぎれて、チャンチャンコをすり替えることに成功。その後、なりゆきでテレビ討論番組「地獄（死後の世界）は本当にあるか」に、地獄からの旅行者として出演することになる。ニセ鬼太郎とねずみ男は、地獄からやって来た証拠として、地獄の砂を持ってくるという約束をする。

ニセ鬼太郎が地獄の砂を取りに行くために寝子は利用され、心中するハメになったのだ。

【地獄の散歩道】
（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

ニセ鬼太郎は、地獄の砂を得るために川へ飛び込んだあと、地獄のはずれに投げ出されていた。寝子の霊はまっすぐに地獄にたどりついたらしく、すでに地獄一丁目に居を構えていた。

霊力をなくした鬼太郎の代わりに、目玉の親父は寝子の霊を連れ戻そうと地獄へ渡る。ニセ鬼太郎が身につけている本物のチャンチャンコを寝子の霊が着れば、現世に戻れるのだ。しかし、寝子は親父の提案を拒否し、地獄へ残るという。寝子のやさしさに触れたニセ鬼太郎は感激し、それまでの行ないを反省する。

すっかり改心したニセ鬼太郎は、頭を丸め、鬼太郎の家に下男として住み込みはじめる。

その一方で、寝子の帰りを待ちわびていた鬼太郎は、失恋の痛手と、ねずみ男にニセ鬼太郎と間違えてバットで殴打された衝撃からか、突然タガが外れたように非行に走っていた。親父はそんな鬼太郎の行ないをとがめたりはしないのだが、夜遊びに出かける鬼太郎を寂しそうに見送る。反省し、毎晩修養を欠かさないニセ鬼太郎と、「うちへかえってもおもしろくない」と若者らしい鬼太郎が対照的に描かれる。

原作版をもっと楽しむ小話

不良少年、鬼太郎

「地獄の散歩道」で「人生楽しまなきゃ」と非行に走った鬼太郎は、喫茶店で〝ビート族〟の若者と出会う。ビート族とは、ヒッピーの元祖ともいわれ、1950年代にアメリカから発生した、体制に反抗し、無軌道で反逆的な行動をとる若者たちのことである。

ビートに利用され、さんざんコケにされた鬼太郎は、深大寺で行なわれる妖怪たちのスキヤキパーティーに彼を連れていく。そのどさくさで、鬼太郎はビートの青年の貯金通帳を奪うのだが、すぐねずみ男にとられてしまうのであった。悪銭身につかず、ということか。

このエピソード以外にも、漫画〝墓場鬼太郎〟シリーズには、子供のはずの鬼太郎やニセ鬼太郎がスパスパとうまそうにタバコを吸うシーンが登場する。鬼太郎は「ピース」、ニセ鬼太郎は「しんせい」を吸っている。

未来を予言したひとコマ

「吸血鬼と猫娘」ニセ鬼太郎登場の回には、その後の鬼太郎の運命を予言するかのようなシーンがある。正式な鬼太郎として世間に登場せんとするニセ鬼太郎に、ねずみ男が「今にテレビや映画にひっぱりだこになってコッテリもうかるぜ」と告げるのだ。のちに〝鬼太郎〟シリーズはこのことばどおり、何度もブレイクし、現在に至るまでまさに〝テレビや映画にひっぱりだこ〟状態になるのである。

ニセ鬼太郎×伊倉一恵

INTERVIEW

「墓場鬼太郎」

鬼太郎そっくりなのに、人間、鬼太郎をライバル視して、人々を混乱に陥れるトリックスター・ニセ鬼太郎。本名不明、正体不明のキャラクターだけど、どうにも憎めない。「墓場鬼太郎」を代表するキャラクターを演じた、伊倉一恵に話を聞いた。

──原作の貸本漫画「墓場鬼太郎」はお読みになったことはありますか?

伊倉:いえ、読んだことはありませんでした。

──「墓場鬼太郎」の出演オファーがあったときはどんなお気持ちでしたか?

伊倉:「ゲゲゲの鬼太郎」は大好きでしたので、その原点となる作品と聞いてとても光栄に思いました。鬼太郎役は野沢雅子さんの声で育っている世代でしたので、マコさん(野沢雅子さんを私たちはみんなこう呼びます)と共演できたこともうれしいことでした。

──「墓場鬼太郎」を演じるにあたり、台本を読んだときの、ニセ鬼太郎の印象をお聞かせください。

伊倉:第4話はニヒルな登場で「クールな役なのかしら?」と思いましたが、第5話では計画どおりに進まない事態に苦しみ、慌て、心配し、ゴマをすり、恐怖し、最後には寝子のやさしさに触れ、感激し、恥じいり反省するという、人間のもっているさまざまな感情が書かれていておもしろいと思いました。

──今回の「墓場鬼太郎」で演じていて、おもしろかったセリフやエピソードがあれば教えてください。

あわて、心配し、ゴマをすり、恐怖する、人間らしさがおもしろい

伊倉:恐いなあ……と思ったセリフは、寝子の「ニセ鬼太郎さんは、きっと悪いことをしたと思ってらっしゃるんだわ……」に続くニセ鬼太郎が逃げて逃げて逃げた後に言う「お――い……どこにも辿り着けない……まるで終わりのない世界だ……何もない、何もないことが終わらない……」です。

──今回「墓場鬼太郎」を演じてみて「ゲゲゲの鬼太郎」との違いをどこに感じていましたか?

伊倉:絵もそうだったのですが、静かに、生々しく怖いなぁと感じました。

──アフレコの現場はどんなようすでしたか?

伊倉:大ベテランのマコさん、田の中さん、大塚さんに、紅白も控えてて大忙しだった中川翔子さんも一同に会し、みんないっしょに録音できて感激しました。しょこたんは歌もお芝居も上手で、みんなともすぐに打ち解けられて(ブログに私の演じたキャラクターの似顔絵を上手に書いてくださったり……)俄然ファンになりました。

──演じてみて、フィルムをご覧になって、ニセ鬼太郎とはどんな少年だと思いましたか?

伊倉:子どものずるさももち、純粋さももち、冒険心ももち、楽しい少年でした。

──ニセ鬼太郎は、あっけない最期を迎えます。その最期をどのような印象をおもちになりましたか?

伊倉:人生、終わるときは突然なんですね。きっと計画どおりにはいかないんでしょうね。勉強になりました。何かうらやましくも思います。

──水木しげる作品に出演される御感想をお聞かせください。

伊倉:子どものころに見て育った作品に出られて、しかもその役に囲まれて演じることができ大変光栄でした。

──「墓場鬼太郎」のファンのみなさんに、メッセージをお願いいたします。

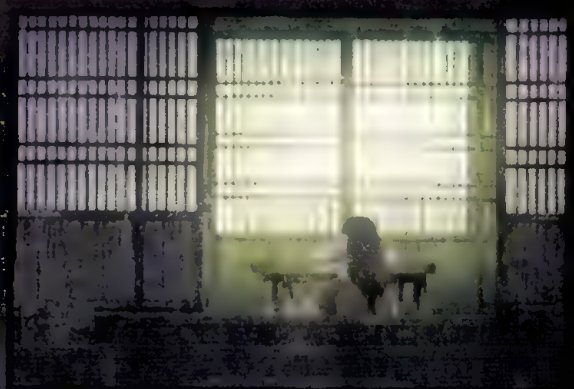
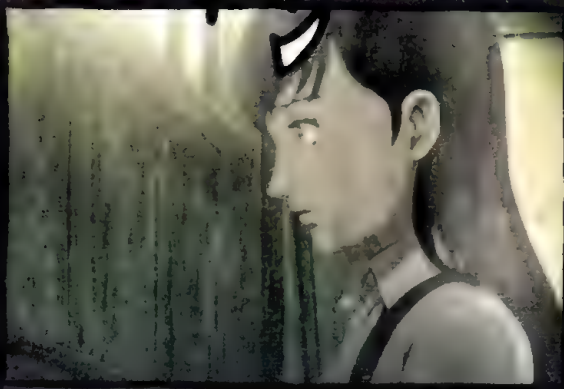
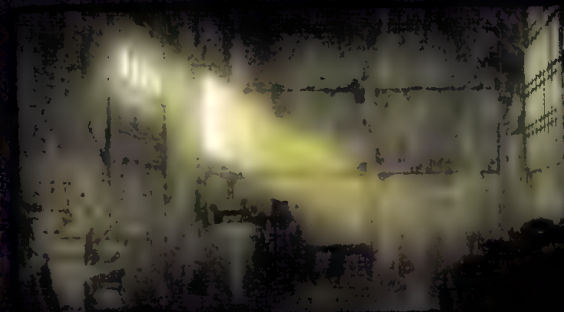
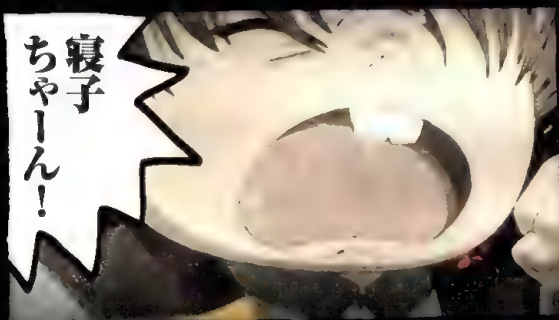
伊倉:どうぞいろいろな角度からお楽しみください。

伊倉一恵
Kazue Ikura

●いくら・かずえ/ 3月23日生まれ、長野県出身。青二プロダクション所属。「シティーハンター」の槇村香役、「三つ目がとおる」の写楽保介役、「燃えろ!ロボコン」のロボコン役など幅広い役柄で活躍する。

寝子との別れ

地獄に堕ちた寝子は、そのまま地獄にとどまることを選択する。人間界は彼女にとって哀しい思い出しかなかった。その選択を理解できない鬼太郎は、地獄へ迎えに行く。寝子の家の扉をたたく、鬼太郎。しかし、寝子は涙を流したまま、沈黙を守るのだった。鬼太郎はただひとり、人間界へ帰っていく。

……僕も幽霊族として
頑張って生きていきます……。

大塚周夫

野沢雅子
（鬼太郎役）

田の中勇

祝！鬼太郎40周年「墓場鬼太郎」
墓場会談

まさに夢のような再会。野沢雅子さんが鬼太郎を演じ、大塚周夫さんがねずみ男を演じ、田の中勇さんが目玉親父を演じる。「ゲゲゲの鬼太郎（第二期）」以来、37年ぶりの組み合わせ。「墓場鬼太郎」は「ゲゲゲの鬼太郎」オリジナルキャストによる、奇跡のアフレコが実現した。オリジナルキャストのみなさんによる「墓場鬼太郎」のアフレコの模様をお聞きした。

──「墓場鬼太郎」を制作するということを知ったときは、どんな印象でしたか？

野沢：私は大分前にお話をうかがったんです。「うわ、やった！」という気持ちですね。思わず「いつごろですか」と聞いてしまいました。「これからじっくりと進めていきます」と言われて、ドキドキしながら収録の日を楽しみに待っていました。

大塚：なんせ「ゲゲゲの鬼太郎」にしても、40年前の作品（★1）でしょ。自分は自分の仕事をかえりみないほうなんですよ。しかも、3代目、4代目のねずみ男（★2）がいますからね。これは「どうやって演じようかな、ちょっと考えなきゃいけないね」と思いましたね。僕たちはいくつになっても「あのとき、こう演じればよかった、ああ演じればよかった」と毎日、思っているんです。満足がいく仕事なんて、ひとつもありませんから。だから、また演じることができて、すごくありがたいことだと思いました。

田の中：昼間に「ゲゲゲの鬼太郎」（★3）で目玉親父を演じているでしょ？　さらに映画「ゲゲゲの鬼太郎」（★4）もやってるでしょ？　だから「墓場鬼太郎」の話がきたときは「またかよ！」って（笑）。

一同：ハハハハ（爆笑）。

田の中：こんなこと言っちゃダメか（笑）。

野沢：本当に大変そうですよね。

田の中：いやぁ、もう外を歩くのもしんどいんですよ。新しい目玉親父の話がきて、正直、最初はすごく重荷に感じていたんですよ。

──今回、オリジナルキャストが結集したことは驚きでした。原作の「墓場鬼太郎」はご存じでしたか？

大塚：実は40年前に「ゲゲゲの鬼太郎」を演じていたころは全然知らなかったんです。なんせ最初は、水木しげる先生を存じていなかったからね。

野沢：私は「墓場鬼太郎」というものがあるのは聞いていました。お父さんとお母さんがいて、鬼太郎が生まれたんだという話は聞いていたんです。ただ「ゲゲゲの鬼太郎」は鬼太郎が成長してからの話ですから、あくまで参考に聞いた程度でした。

大塚：当時は、原作の「ゲゲゲの鬼太郎」を読んで「気持ち悪い絵だねえ」なんてびっくりしてましたよ（笑）。でも、アニメ化するのは、水木先生にとっても初めてのこと（★5）だったでしょう？　よくスタジオにいらしてましたね。

──水木先生も「ゲゲゲの鬼太郎」の収録にいらしていたんですね。

大塚：ええ。アフレコを後ろからじっと見てましたよ。

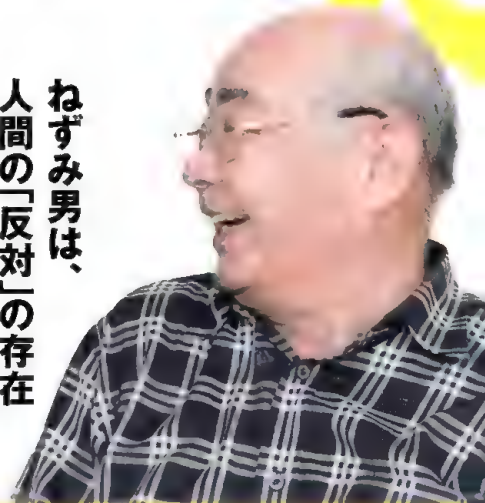
田の中：オーディションのときも水木先

「墓場鬼太郎」墓場会談

ねずみ男は、人間の「反対」の存在（大塚）

ドキドキしながら、この日を待っていました（野沢）

野沢雅子 MASAKO NOZAWA

●のざわ・まさこ／1936年10月25日生まれ、東京都出身。オフィス野沢所属。3歳のころから子役として映画で活躍。初の主演作は、1968年の「ゲゲゲの鬼太郎（第一期）」の鬼太郎役。鬼太郎役は1971年の第二期まで演じる。ほかにも「ドラゴンボール」の悟空役、「銀河鉄道999」の星野鉄郎役などを歴任。

大塚周夫 CHIKAO OHTSUKA

●おおつか・ちかお／ 1929年7月5日生まれ、東京都出身。青二プロダクション所属。俳優として活躍しつつ、洋画の吹き替えを担当。1968年の「ゲゲゲの鬼太郎（第一期）」でねずみ男を演じる。ねずみ男役は1971年の第二期まで。「ルパン三世」の石川五右エ門役など幅広い役柄で活躍する。

生がいらしたでしょ?

野沢:先生が、私たちを鬼太郎役、ねずみ男役、目玉親父役に決めてくださったんです。

大塚:そうそう。水木先生はかなり力を入れていたんです。僕はアフレコの合間に、ちょくちょく水木先生と話しをしましたよ。「大塚君、ねずみ男のいいかげんな感じを、もっと出していいよ」って言ってくれたんです。アドリブをすると「おもしろい、おもしろい」って喜んでくれて。だもんで、調子に乗りすぎたところもありますね(笑)。

――「ゲゲゲの鬼太郎」の第一期が1968年、第二期が1971年ですから、もう37年もの前のことになります。

田の中:もう親の世代だよね。

野沢:時間が経ちましたね。

大塚:うちのせがれ(大塚明夫★6)が小学校で、ねずみ男の子供だから「子ねずみ男」とからかわれたんですよ。そのせがれが、いまや48歳ですからね(笑)。

――当時のアフレコはどんな様子でしたか?

田の中:緊張感はいまのほうがあるね。当時は若かったしね、みんな。

野沢:お互いが相手のことをよくわかっているから、楽しく演じていました。

大塚:田の中ちゃんなら、こう演じるだろうな。マコ(野沢)ちゃんならこうするだろうなってよくわかってるからね。それとね、当時は1本のフィルムを、たくさんに分割してね。納得いくまで、何度も何度も録り直していたんですよ。

野沢:ひとつの作品を13ロールぐらいにわけてたよね。小さく分けて、少しずつ録ってた。

田の中:でも、いきなり収録するんです。一度もフィルムを通して見ないまま、こっちは演じなきゃいけなかった。あれ、なんでそうしていたんだろう?

大塚:最後どうなるかわからないまま、録りはじめるんだよ(笑)。

野沢:いま、考えれば、不思議よね。

田の中:当時は、少しも気にしないで収録してたけど。いまから比べれば、昔のほうがずっと大雑把でしたよ。

――昔はリールのテープ(★7)なので、失敗すると最初から録り直さなければいけなかったと聞いていますが。

野沢:そうでしたね。当時は失敗すると、最初から録り直しをしていました。

大塚:僕らはそういう収録に慣れていたんですよ。外国映画の吹き替えをしていたから。海外ドラマの「ローハイド」(★8)は、1時間ものですから、朝10時から収録をはじめて、夜ずっと録り直しをして、翌朝9時に終了……なんてこともザラでしたよ。

野沢:そういう時代を超えてきたから

「墓場鬼太郎」の話がきたときは「またかよ!」って(笑)(田の中)

田の中勇 ISAMU TANONAKA

●たのなか・いさむ/ 1932年7月19日生まれ、東京都出身。青二プロダクション所属。1968年の「ゲゲゲの鬼太郎(第一期)」以来、アニメ版の第五期にいたるまで、目玉親父の役をほぼすべて演じる。実写映画版などでも、目玉親父役をつとめる。「スター・ウォーズ エピソードI」のジャージャー・ビンクス役などを歴任。

★1 40年前の作品
「ゲゲゲの鬼太郎」の最初のアニメ作品は、1968年1月3日から1969年3月30日まで放送された。当時の映像は白黒。日本中に「妖怪ブーム」を巻き起こすヒット作となった。

★2 3代目、4代目のねずみ男
ねずみ男役は、1985年10月12日から1988年2月6日に放送された、第三期の「ゲゲゲの鬼太郎」で交代。富山敬が演じた。なお、第四期(1996年1月7日 ～ 1998年3月29日)では千葉繁が、第五期(2007年4月1日～)では高木渉が演じている。

★3 昼間に「ゲゲゲの鬼太郎」
2007年4月1日から第五期の「ゲゲゲの鬼太郎」が展開。日曜日朝9時からフジテレビ系列で放送されている。田の中勇はこちらでも、目玉親父を演じている。

★4 映画の「ゲゲゲの鬼太郎」
2007年4月28日に公開された実写映画「ゲゲゲの鬼太郎」、2008年7月12日に公開された実写映画第二弾「ゲゲゲの鬼太郎 千年呪い歌」。それぞれ目玉親父役は田の中勇が務めている。

★5 水木先生にとっても初めてのこと
水木しげるにとってアニメ化されたのは「ゲゲゲの鬼太郎」がはじめて。なお、TVドラマ化は1966年に放送された「悪魔くん」が最初の作品。なお、制作は東映が務めた。

★6 大塚明夫
大塚周夫の長男にして声優／俳優。1959年11月24日生まれ。「機動戦士ガンダム0083」アナベル・ガトー役、「攻殻機動隊」シリーズのバトー役、「メタルギアソリッド」のソリッド・スネーク役などを演じる。父との共演も多い。

★7 リールのテープ
いまのアフレコはデジタルで録音されるが、1970年代の作品ではオープンリールのテープレコーダーで録音されていた。編集するときは直接、テープを切り貼りすることで行なわれた。

「墓場鬼太郎」墓場会談

「ゲゲゲの鬼太郎」でも落ち着いて演じていられたんでしょうね。
大塚：当時は多少トチっても、アドリブでごまかしちゃう（笑）。
――そういうテクニックが、ねずみ男を形づくっていったんでしょうね。
大塚：そうそう。そういう現場で生まれたの。でも、今回の「墓場鬼太郎」では少しね、歳をとったから……おとなしかったかな？
野沢：そんなことないでしょう！
田の中：昔みたいにバカ騒ぎはしなかったけどね（笑）。
――今回「墓場鬼太郎」を演じてみて、いかがでしたか？
野沢：「ゲゲゲの鬼太郎」と「墓場鬼太郎」って全然違うじゃないですか。でも、そこがいいんですよ。
大塚：「ゲゲゲの鬼太郎」の鬼太郎は、ええかっこしいだからね。「墓場鬼太郎」は、ええかっこしいじゃないところがいいね。
野沢：それが、すごく新鮮なんですよ。水木先生の鬼太郎の世界は、まさに「墓場鬼太郎」が原点なんだと思います。
大塚：いわゆる普通の作品とは全部、反対の方向を向いている作品なんですよ。「人間、誰とでも仲よく」「道徳的でなきゃいけない」「怖くて毒々しい絵はいけない」という、しきたりみたいなものに逆行してる。それをアニメでやるっていうのがよかったですね。
――それぞれ役柄とのつき合いも40年になって、今回の「墓場鬼太郎」ではどんなふうに演じましたか？
田の中：今回はあまり老人ことばを使わないでくれっていわれたんです。だから、あんまり「〜じゃ」って言っていないんです（★9）。
野沢：目玉親父も「墓場鬼太郎」では、まだ生まれたてですからね。若いのかしらね（笑）。
田の中：そうかもしれない（笑）。「墓場鬼太郎」の目玉親父は、目玉の黒目の大きさが小さいの。だから、かわいらしいんだよね。
大塚：ねずみ男ははじめから、普通の人間じゃない。人間の世界に絶対入れてもらえない存在だし、お化けの世界にも入れない存在。妖怪でも、人間でも、お化けでもなく、300年以上生きている。それって、とてつもなく孤独でしょう。きっと、何を言われても、動じることがないと思う。人間的な感情の全部「反対」が、ねずみ男なんですよ。その「反対」の部分を強烈に打ち出したほうがおもしろいですからね。当時から、その気分でやっていました。
野沢：鬼太郎は……「ゲゲゲの鬼太郎」では優等生なんですよ。でも、今回は全然違うんです。その部分を気をつけていました。今までさんざんお世話になった恩のある人にも「こづかいくれよ」っていうような（笑）（★10）。
田の中：義理人情がないんですよね。こういうセリフがあると、鬼太郎は人間じゃなくて、幽霊族なんだなと思いますね。「ゲゲゲの鬼太郎」の鬼太郎よりも、ちょっと低い声で演じていたよね。今回の鬼太郎は、ワルでしょ？
野沢：そうそう。自分で意識していたわけじゃないんですけど、「墓場鬼太郎」のセリフを演じようとすると、自然とそうなっちゃうんですよ。そういう意味では

こんなアニメ、ほかにないですよ（野沢）

れた水木に対しても容赦なくお金をせびる。義理人情をまったく感じていない、がめつい態度が「墓場」テイストである。

★11「新大久保の角で見たやつはどうだろう」
「墓場鬼太郎」のアフレコは、新大久保のタバック（スタジオ）で行なわれた。

★12　鬼太郎の誕生のエピソード
第三期の「ゲゲゲの鬼太郎　地獄編」（1988年2月8日〜1988年3月21日）において、鬼太郎の誕生のエピソードや、目玉親父誕生のエピソードが語られた。

「墓場鬼太郎」の鬼太郎のほうが演じるのは楽かもしれない。やはり、優等生を演じるのって大変なんですよ。型にハメなきゃいけないから。

大塚：マコちゃん本人が、鬼太郎なんだよ。人間社会でも同じことかもしれませんが、優等生の芝居って、おもしろくないんですよ。逆に、どこか普通じゃないほうがおもしろい。「あいつは何を考えているんだろう」「どうしてこうするんだろう」と感じさせるデカダンス（退廃的）が魅力につながるんです。日常生活でも普通じゃない人に目がひきつけられるでしょ。役者の役づくりに必要なことって、いろいろな人をいつもの30倍ぐらい見ること。それで、人間の普通じゃないクセや特徴をどんどん覚えておく。それで自分が役を演じるときに、クセや特徴をうまく組み合わせるんです。台本を見たときに「どこかでこういうヤツいたなあ」「新大久保の角で見たやつはどうだろう」（★12）、そんなことが積み重なって、ねずみ男の演技が何とかできていきましたね。

――今回は鬼太郎をめぐって、目玉親父やねずみ男の活躍が目立ちましたね。

田の中：でもね、「墓場鬼太郎」は「ゲゲゲの鬼太郎」よりもセリフは少なかったんですよ。

野沢：「ゲゲゲの鬼太郎」では、しゃべってるもんねえ。

大塚：このあいだ見たら、びっくりするほどしゃべってたよ（笑）。

田の中：鬼太郎と目玉親父の親子関係が「ゲゲゲの鬼太郎」と「墓場鬼太郎」では、まるで違うんですよ。「ゲゲゲの鬼太郎」は親子関係が濃密なんですよ。「墓場鬼太郎」はシビア。

野沢：どこかシビアなのに、鬼太郎は親父を頼りにしているんです。やはり、そこが親子の絆ですよね。

田の中：目玉親父も、弁当にいっしょうけんめい、ねずみを入れているからね（笑）。

野沢：だけど、鬼太郎は「お父さんの弁当はセンスがないからなあ」なんて言ってるの（笑）。

――全11話と短いけれども濃密な作品でしたが、印象に残っているシーンをお聞かせください。

野沢：個人的には、やはり鬼太郎の誕生ですね。幽霊族の赤ちゃんを演じるのは楽しかったですね。

田の中：実は、鬼太郎の誕生のエピソード（★12）を「ゲゲゲの鬼太郎」でやったことがあるんですよ。たしか第三期、戸田恵子さんが鬼太郎を演じているころ。でも、お母さんはこんなに怖くなかった（笑）。「ゲゲゲの鬼太郎」ではキレイなお母さんでしたよ。

野沢：「ゲゲゲの鬼太郎」では、美人なんだ？（笑）「墓場鬼太郎」では幽霊だったけれど（笑）。残念だったのは、ねずみ男と鬼太郎のやりとりするシーンが少なかったことかな。

大塚：鬼太郎とねずみ男の初対面のシーンは、おもしろかったですね。マコちゃんも僕も鬼太郎とねずみ男の出会いを演じるのは初めてだったから。

野沢：初対面で鬼太郎が「父さん、こいつ殴っていいですか？」って言うんです。そんなセリフ、「ゲゲゲの鬼太郎」では、ありえないでしょ？（笑）

大塚：それを、ねずみ男はしらーんぷりしてるわけですから。最初に、ねずみ男が鬼太郎に会ったときに、目玉親父をチラッと見るんだよ。そこが、じつによくてね（笑）。

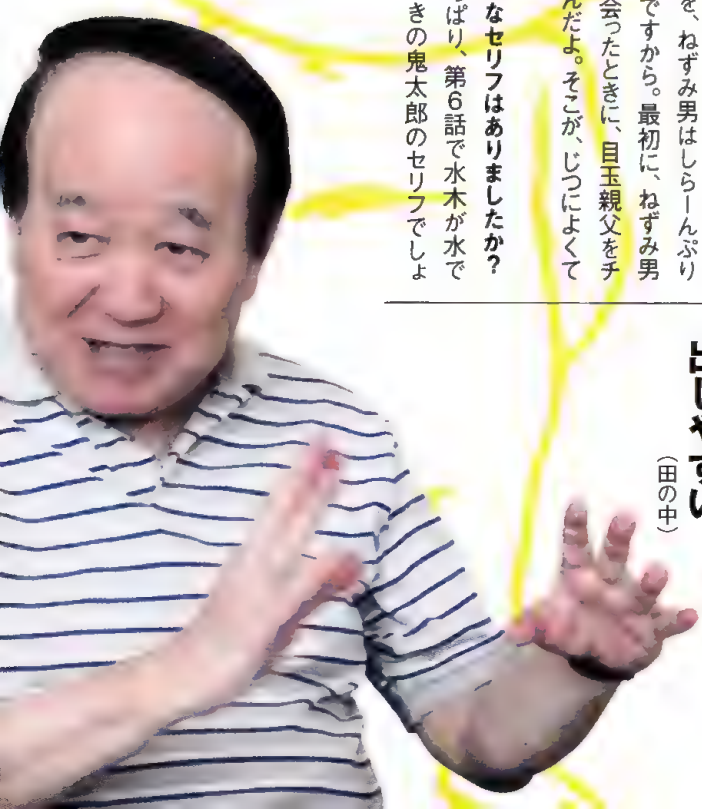
――印象的なセリフはありましたか？

田の中：やっぱり、第6話で水木が水で流されるときの鬼太郎のセリフでしょう。

目玉親父の声は、普通の声よりも出しやすい
（田の中）

★8　海外ドラマの「ローハイド」
1959年から1965年にかけてアメリカで制作されたTVドラマ。南北戦争後のアメリカを舞台にしたカウボーイたちの西部劇。クリント・イーストウッドの出世作。日本でも同時期に放送された。大塚周夫は斥候役のクレイ・フォレスターを演じた。

★9　「～じゃ」って言っていないんです
「ゲゲゲの鬼太郎」において、目玉親父は老人のように、語尾に「～じゃ」をつける。

★10　恩のある人にも「こづかいくれよ」っていうような（笑）
「墓場鬼太郎」において、鬼太郎は自分を育ててく

野沢：「じゃア」ですね。あのセリフ、私も大好きなんです。「ゲゲゲの鬼太郎」だったらありえない!!　いままでの鬼太郎だったら、水木を絶対助けにいくんだけど（笑）。今回はあっけなく見捨てて「じゃア」！

田の中：「ゲゲゲの鬼太郎」だったら、真っ先に水に飛び込むのに！

大塚：僕が印象に残っているのは第7話。ねずみ男が深夜に切符を買いに行くシーン。「北奥多摩霊園まで2枚……え、もう電車行っちゃったの？　臨時列車があるの？　んじゃ、それに乗るよ」って。ねずみ男がひとりでずっとしゃべるの。あれじゃ落語ですよ。普通だったら、間に誰かがしゃべるものなんだけどね。しかも、すごくテンポが速いし。このシーンはかなり大変だったね。

田の中：きっと原作漫画のコマがそうなってるんだよ。

野沢：アニメの「墓場鬼太郎」は原作にかなり忠実だからね。

大塚：こういうのはほかの番組ではちょっとないね。ひとりで2人分のセリフをしゃべっているようなものだから。実は今回はね、なるべくセリフを日常会話にしようと思って、アフレコのときに、随所に普通のことばをまぜてるんです。「あーやだ、やんなっちゃったな～」って（笑）。

――今回、鬼太郎は人間と常識が違うように描かれていますが、演じていて難しい部分はありましたか？

野沢：さっき大塚さんが言いましたけど、アフレコの現場で、私は鬼太郎になってるんです。だから、何があっても当然なんです。違和感もないです。あたりまえって感じ。

――じゃあ、アフレコ中に水神様に襲われたら、野沢さんは……。

野沢：「じゃア！」って、みんなを見捨てますね（爆笑）。実はアフレコ中に「じゃア！」って言ったときに、みんなが大笑いしたんですけど、私は何で笑っているのか気がつかなかったんですよ。ふと、我に返って、ああ、このセリフ、おかしいんだなって気がついたんです。

大塚：ぜんぜんおかしくないよ！

野沢：私たち、アフレコ中は幽霊族ですから。

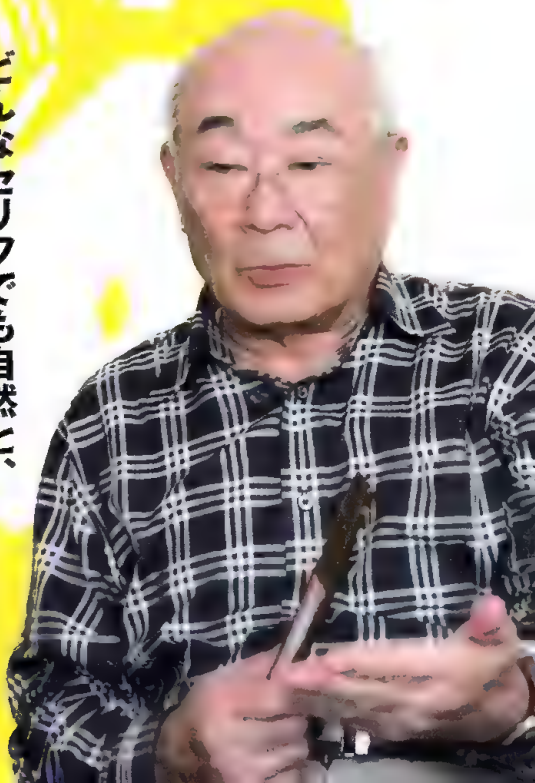
大塚：毎週「墓場鬼太郎」の収録を重ねていたでしょ。次の日に別の仕事でアフレコに行くと大変でしたよ。どんなセリフでも自然と、ねずみ男になっちゃう。

田の中：私もね、目玉親父の声がいちばん出しやすくなっちゃった。普通の声を出すほうが緊張しちゃう（笑）。

――完成した「墓場鬼太郎」をご覧になった感想はいかがでしたか？

野沢：絵がいいんですよね。こんなアニメ、ほかにないですよ。

「墓場鬼太郎」墓場会談

どんなセリフでも自然と、ねずみ男になっちゃう（大塚）

田の中：画面が和紙のような感じになっているのがすばらしいね。

大塚：そういうところが「墓場鬼太郎」らしさですよ。ほかのアニメの常識の反対側を行く。

野沢：アニメというと、パーッと明るいものだと思いがちなんだけど「墓場鬼太郎」は違うんですよ。そこが、すばらしいと思いました。

――舞台もわざと昭和30年代にしていて。

田の中：昭和30年よりも、前なんじゃないの？　だって、コッペパン（★13）なんて

昭和30年のころはそれほど珍しいものじゃなかったから。

野沢：そうね。たしかにもうちょっと前かしら。

大塚：戦後なんだろうね。昭和25年ぐらい？

——当時を知らない、若いキャストも参加していますね。たとえば、中川翔子さんやピエール瀧さんのような、鬼太郎に育てられたような世代の方々も参加しています。

野沢：普通ゲストの方って別録りになるものなんですよ。でも、いっしょに録ることができたのがよかったですね。それに一生懸命演じていらして。体当たりで演じていらしたのがよかったです。

大塚：地をぶつけてきたのがよかったですよ。素材のまま直接、声をだしていたのがいいですね。

野沢：中川さんは「墓場鬼太郎」の前にラジオ（★14）でごいっしょしたんですけど、猫娘の衣装をもっていらしてね。

田の中：コスプレですよ。コスプレ（笑）。

大塚：ぜひ、今後も声優を続けていかれるんでしたら、勉強を重ねてほしいですね。僕も若いころは「役のことだけ考えろ」って言われたんですよ。一日中、毎日、役のことだけを考えるんです。自然と、その役を自分自身だと思って、その役のまま日常の生活をおくる。そうして、いつしか自然と、その役とぴったりのセリフが言えるようになるんです。

——みなさんの考える「墓場鬼太郎」のおもしろさはどこになるでしょうか？

野沢：やはり「ゲゲゲの鬼太郎」との違いですよね。絵もキレイだけれど、子供たちにとってはおどろおどろしいものになってる。「優等生じゃなくてもいいんだ」って。アニメってもっと幅が広くて、奥が深いものなんだと感じてもらえればうれしいですね。

大塚：やはり役者の演技を楽しんでほしいですね。役者は文字どおり、死ぬほど苦しみながら役づくりをして、ありきたりじゃない演技をしようと必死になっているんです。少しでも、見ている人の胸にグッとくるような演技ができればそれでいいと思っています。悪いやつでも「あ、ここで少し後悔してるな」って一瞬をまぜたりね。そういう一瞬を感じてもらいたいですね。

田の中：たしかにアニメで、こういう芝居ができるのは珍しいかもしれないね。

大塚：今回の「墓場鬼太郎」は3人のセリフの掛け合いが楽しいんですよ。ほかのアニメと違うところは、ここじゃないですかね。

野沢：「息が合う」というのは、まさにこのことですよね。どんなセリフの渡し方をしても、必ず受けて、返してくれる。その安心感があるから、おもしろさを追求できるんです。

大塚：やっぱり、昔からの演技の積み重ねがあるから、今の「墓場鬼太郎」があるんだろうね。昔、2年間にわたって、鬼太郎やねずみ男、目玉親父も演じて、培ってきたものがあるから、今演じるときに、過去の経験をすべて総動員できるんです。ねずみ男、鬼太郎、目玉親父は、もって生まれた地の僕や、野沢雅子さんや田の中勇さんとは全然違うものになっている。その完全に違う姿になりきるから、おもしろいんですよ。

——まさしく40年の総決算ですね。

大塚：さらに今しかできない演技がプラスされてますからね。役づくりというものは、キリがないものなんです。

野沢：今回で「墓場鬼太郎」の原作のほとんどが、アニメ化されちゃいましたけど、たとえ原作がなくても続けてほしいですね。京極（夏彦）先生が「水木先生になりかわって、続きを書く！」と、おっしゃっていたんですよ（笑）。

大塚：僕らも、まだまだ何本も演じたいですよ。

田の中：今度は深夜じゃなくてもいいからね。

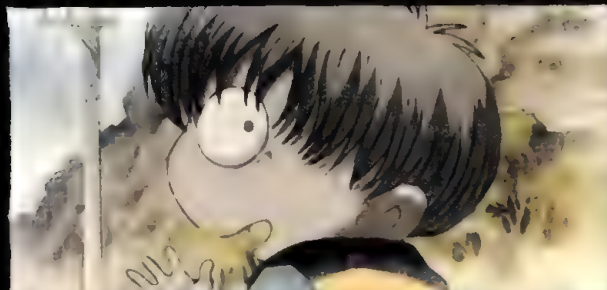
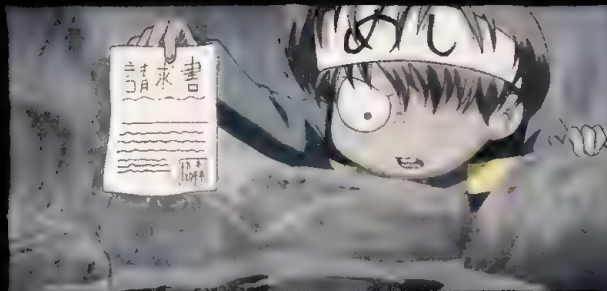
——みなさんとまたお会いできるときを、楽しみに待っています！ 本日はありがとうございました。

★13 コッペパン
日本で生まれた平たいパンのこと。和製外来語。第二次世界大戦時の配給制度のなかで考案され、戦後の学校給食用パンに採用された。「墓場鬼太郎」では第7話に、鬼太郎やニセ鬼太郎が食べている。

★14 ラジオ
2006年8月11日に放送された、深夜放送ラジオ「ゲゲゲの鬼太郎のオールナイトニッポン」のこと。鬼太郎（野沢雅子）、目玉のおやじ（田の中勇）、ねずみ男（大塚周夫）が出演し、中川翔子がナビゲーターを務めた。少年マガジン版第1話「墓場の鬼太郎」「手」をラジオドラマ形式で披露した

ANIMATION SIDE

1 近ごろは何でも値上げ。鬼太郎たちは数少ないコッペパンを食べるだけの貧しい毎日を送っていた。
「金さえあればな〜」

2 金を稼ぐには金をもっているところで働けばいい。鬼太郎は金貸しの会社で働くことに。

3 自分の働きがお金になることを知った鬼太郎は、借金回収に奔走する。
「1000万取り立てれば100万円……ボロい！」

4 物の怪の案内で、水神のもとにきた鬼太郎。請求書を突きつける。
「コッペパンのためだ！」

第6話

水神様

DVD第三集 収録
2008年2月14日放送
脚本：成田良美
演出：石黒育
作画監督：清水昌之・曾我篤史
美術：倉橋隆

【あらすじ】

ニセ鬼太郎という新しい家族を得た、鬼太郎と目玉親父、水木は金欠に悩んでいた。鬼太郎はお金を稼ぐために、金貸しから借金回収を引き受ける。借金取りとなった鬼太郎が、無理やり水神から借金を回収しようとした結果、水神は大暴れ。街をパニックに陥れる。やがて、水神は街中に大洪水を起こし、水木を溶かしてしまう。今生の別れ。一命をとりとめた鬼太郎は、ねずみ男と合流するのだった。

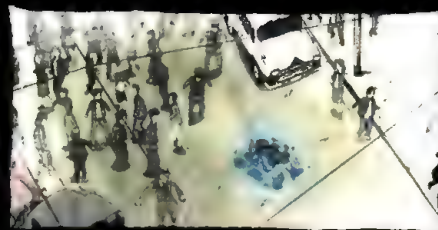
COMMENT

シリーズディレクター 地岡公俊

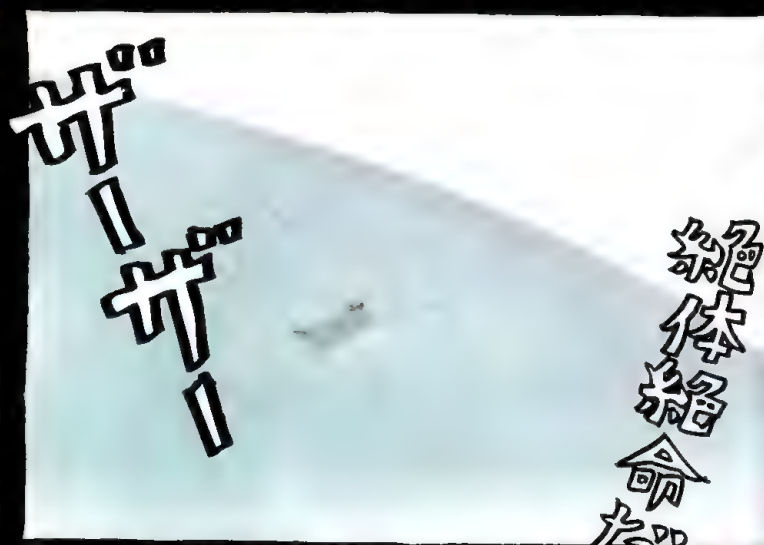
おそらく前話から時間が空いているんだろうなと思っています。だから鬼太郎とニセ鬼太郎がいっしょに生活しているし、水木サンにいたっては慣れてきているんですよ(笑)。前話で幽霊族として生きていくことを誓ったはずなのに、次の話ではまるで人間のように就職しようとする。このギャップを楽しんでほしいです。3話でねずみ男と物の怪の掛け合いがありましたが、ここでも物の怪と鬼太郎の掛け合いがあります。アフレコ現場では爆笑でした。後半は大スペクタクル。水木が水にのまれ、アドバルーンでねずみ男が飛んでくる。不条理な飛躍の連続。最初に脚本があがったとき、スタッフ一同「いける！」と確信しました(笑)。

6 墓場鬼太郎名セリフ集 「ボロイ!」(鬼太郎)第6話より

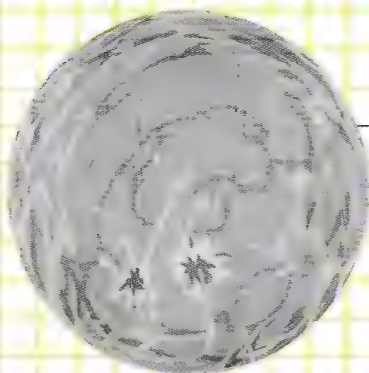
⑤ 鬼太郎にしびれ薬を混ぜられた水神は麻痺してしまう。一度は鬼太郎にビニール袋詰めにされて、捕まってしまう……。

⑥ 脱出した水神は街へ行き、無差別に攻撃をしはじめる。犠牲者第一号は、女優の大空つばめ。水に飲み込まれる。

⑦ 大空つばめの身体は溶けてしまった。水神の水に触る者は、次々と溶けていく。街は大パニックに。

⑧ 水木の家にも水神の洪水が迫る。水木は水神に飲まれてしまう。

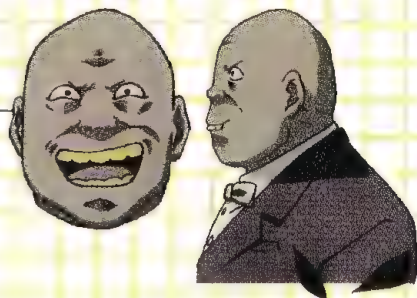
⑨ 水木と今生の別れ。鬼太郎は「じゃァ」とひと言、言い放つ。見捨てられた水木は溶けてしまう。

⑩ 地上を水神が支配してしまった。鬼太郎とニセ鬼太郎、目玉親父だけがぽつんと海に浮いている。

⑪ やがて空からやってきたのは、ねずみ男。「生涯ねずみ男様の召使いになるというなら、助けてやるぞ!」

⑫ 目玉親父を人質にして、鬼太郎とニセ鬼太郎は、ねずみ男とともに空へと逃げる。海には水神の気配がする……。

水神 Mizugami

透明な細胞をもち、水に紛れて人を食べる妖怪。日本各地で水神を神として祭っているが、本物の水神の潜む土地へは7つの山、7つの森を越えて行かねばならない。東の大ナマズが暴れて以来、深い眠りについていたが、鬼太郎に眠りを妨げられる。借金総額1000万円。

協森社長 Kyoumori Shacho

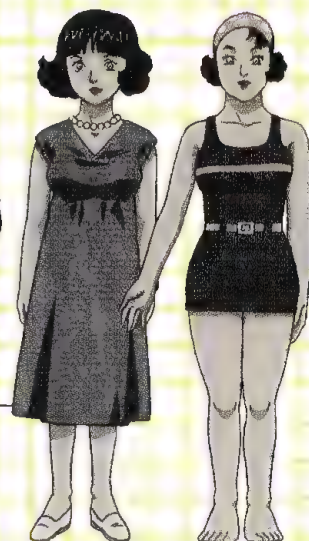
謎の金貸し会社の社長。数十年前から、妖怪たちにもお金を貸している。しかし、取り立てることができず、長年、焦げついた借用書だけがたまっていた。鬼太郎に借金回収を依頼。回収した金額の1割を鬼太郎に支払う約束をした。

警視総監 Keishi Soukan

水神が街を襲い、次々と人を飲み込む事態になり、警視総監も前線に駆けつけた。大空つばめの水着に触れて、溶けてしまう。

大空つばめ Tsubame Ozora

時代をリードする有名歌手。トランプ重井と人気を二分するほど。運転手つき自動車に乗り、プールつきの豪邸に住む。多くのおつきの人を従えているが、水神に溶かされてしまう。

墓場鬼太郎Q&A

Q 昭和30年代の芸能界は?

A 原作「墓場鬼太郎」ではしばしば実在の人物が登場します。ちょっとした社会批評的な一面も「墓場鬼太郎」の見どころなのです。トランプ重井や大空つばめのように、明らかにモデルがいるような人気歌手も次々と登場します。昭和30年代当時はラジオの普及により、国民的なヒット曲が連発した時代。ジャズや声楽的な歌い方から、こぶしを回す、個性的な歌い方が人気を集めました。歌手では、フランク永井、美空ひばり、石原裕次郎、春日八郎、島倉千代子、橋幸夫、三橋美智也などが人気。作曲家では演歌の船村徹、遠藤実、都会派ムード歌謡の吉田正、ジャズの中村八大らがヒット曲を生み出しています。一方で洋楽に影響を

水神様【第6話】

「あれは何?」「アドバルーン?」「人がいるぞ!」。水神様が空中に浮かび、街を襲撃する。群衆が逃げ惑い、警察が包囲。しまいには戦車まで出動する、まさかのスペクタクル展開。

アニメ版「墓場鬼太郎」はたくさんのエピソードを詰め込んでいるだけに、Aパート（前半）とBパート（後半）のテイストをガラっと変えるエピソードが多い。無軌道に暴走するストーリーを投げっぱなしのまま次回へ。と思ったら、次回はまた日常からはじまる……。

要するに、昔ながらの一話完結ギャグアニメのような大胆さがあるのだ。もともと原作「墓場鬼太郎」も、かなり自由に執筆されている。その大風呂敷を広げる物語のおもしろさを、アニメ版ではギュッと圧縮。コッペパンひとつをめぐる些細なケンカが、わずか20分後に、大海原にぽつんと取り残されるラストに発展していくダイナミズムは、ほかのアニメには類をみないだろう。とくに第6話はネタ満載、スピード感満載の楽しい回である。

第5話までの前半戦を終えて、鬼太郎も世慣れして、お金にがめつい性格になった。いわば、第6話からは墓場鬼太郎「都会編」。ちょうど昭和30年代というと、日本中が貧乏だったが、未来の可能性に夢をはせていた時代。

モーレツ社員が会社で大活躍し、経済は高度経済成長期を迎える。東京に東京タワーが完成し、関東に首都高速道路が開通、日本を縦断する東海道新幹線が猛スピードで走り抜ける。そんな時代の中で、鬼太郎もまたお金稼ぎに夢中になって生きていく。「ボロイ」と儲けを皮算用し、モーレツ借金取りとなって、妖怪たちからお金をもぎ取ろうとするのだ。鬼太郎に追い込まれ、妖怪たちも裸足で逃げ出すありさま。げに、借金取りは恐ろしい。物の怪は思わず肥だめに飛び込み、水神はしびれ薬を飲まされて、お金を奪い取られる。これは、鬼太郎と妖怪だから、ユーモラスなエピソードに感じられるけれど、相手が人間だったら洒落にならない。

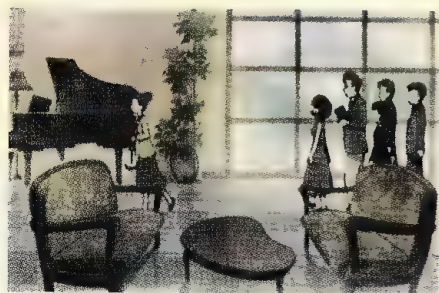
なけなしの財産を奪われた水神が大暴れして、街を破壊していくシーンはただの怒りではない。欲に駆られた借金取りや、芸能界の成功者のような、拝金主義の金持ちに対する水神（水木しげる本人）の怒り。高度経済社会の歪みに対する、痛烈な反論といえるのではないだろうか。いわば、神の鉄槌——。

あれから40年以上、長すぎる平成不況といわれる現代で「墓場鬼太郎」がアニメ化されることは、ちょっとしたシンクロニシティを感じる。第2話のレビューでも記したが、やはり鬼太郎たちは現代のニート的な存在であり、彼らの貧乏生活や精神状態は、いまの若者に通じるものがあるのではないか。おそらく現代に水神が現われたら、僕らは水木を助けるだろうか。あっけなく見捨てるだろうか。

「金が欲しいなら、金のあるとこへ行かなきゃ」

焼き芋屋の親父のことばが身にしみる。第6話を見ながら、いま「墓場鬼太郎」がアニメ化された意味を考えてみると、よりおもしろく作品の細部を見つめることができるだろう。

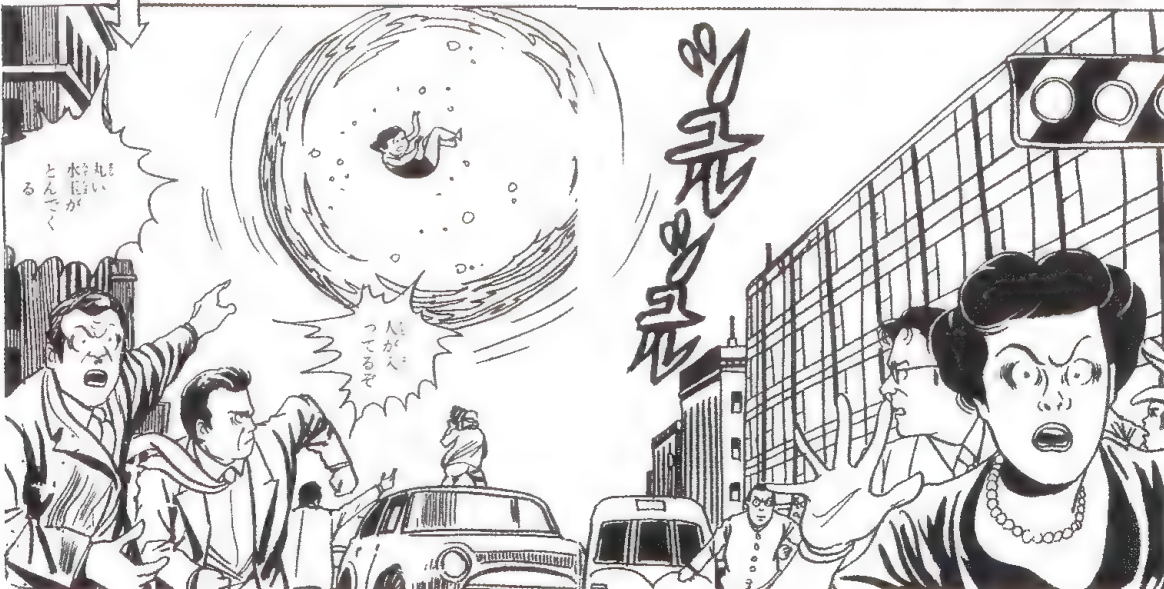
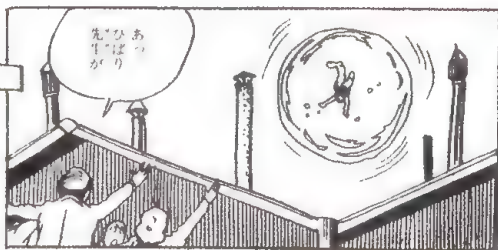
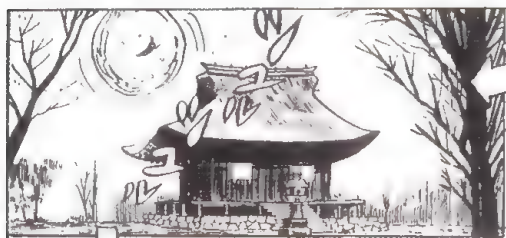
受けた、水原弘、坂本九などのロカビリー・ロックンロール歌手が登場。芸能界は都会的に、アメリカ的に洗練され、ファッショナブルになっていきました。大空つばめの金持ちぶりにも納得です。

▲都会ふうのセットの中でムーディに歌い上げる大人気スタア・トランプ重井。甘い歌声にとろける。

▲大空つばめの屋敷は大豪邸。なんとプールつき。トランプ重井と人気を二分する人気スタア。

アニメ版第6話「水神様」出典

「水神様が町へやってきた」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(3)収録

▲「水神様が町へやってきた」より

▲「水神様が町へやってきた」より

原作紹介

【水神様が町へやってきた】

（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

「ねこや」の賃料値上げにともない、鬼太郎たちの家計は逼迫していた。金がないなら働こう、という至極まっとうな考えに至った鬼太郎は、金貸しの森協真茶光のもとで、特別取立係として妖怪の借金の取り立てをすることになる。

ここで、森協から借金をしていた妖怪というのが「物の怪」と「水神」であった。今でこそ鬼太郎は、悪の妖怪を倒す勧善懲悪のヒーローだが、「墓場鬼太郎」時代は、金に汚く、善悪の基準も特にもち合わせていない。取り立てた金額の1割を報酬として与える、と森協にいわれた鬼太郎は、道すがら金の計算をして「ボロイ！」と、借金取り立ての仕事への意欲を新たにするのだ。

そうこうしているうちに、物の怪の案内で、鬼太郎は水神のもとへ向かうことになる。（ねずみ男と吸血木を育てていた物の怪は水神のところへ鬼太郎を連れていくことで借金を見逃してもらう約束をしたのだ）。

7つの山と7つの森を越え、水神のもとへ辿り着いた鬼太郎だが、ここでの彼の行動もまたひどい。しびれ薬を使ったり、マッチの火を近づけたり。あまつさえ、しびれて身動きがとれず、水面にさざ波をたてることしかできない水神をバカにしてあざ笑うのだ。これでは水神が怒るのも無理はない。

そして物語後半から、怒涛の水神の逆襲がはじまるのである。水蒸気となって逃げ出した水神は手はじめに国民的大スター大空ひばりを取り込み、東京上空に巨大な水玉となって現われる。取り込んだ者をすべて溶かす水玉の脅威は、自衛隊をも動かす大事件に発展。さらに、豪雨を利用し強大化した水神は、ついに鬼太郎が住む「ねこや」を探り当てる――。

原作版をもっと楽しむ小話

物の怪の正体は？

「地獄の散歩道」で初登場となり、鬼太郎を水神のもとへ案内する「物の怪」。彼は、彼自身が語るところによると、聖徳太子のころから生きており、藤原鎌足の時代には、神として祀られたこともあったという。人生（？）経験豊富ということもあり、道中、まだ子供の鬼太郎にいろいろなことを教えてくれる。ところで、この風体はどこかで見たことがないだろうか。どうやら、物の怪のデザインは「桃山人夜話」の通称で知られる江戸時代の妖怪画集「絵本百物語」に登場する「小豆洗い」をモデルにしているようだ。「小豆洗い」は、のちの〝ゲゲゲの鬼太郎〟シリーズにも登場する。

高利貸し・森協真茶光

鬼太郎を妖怪の借金取り立て係として雇う森協真茶光のモデルは、戦後日本の金融業界に君臨した〝高利貸しの帝王〟森脇将光である。独自の調査で入手した政界の裏情報が記された「森脇メモ」は、1954年の贈収賄事件「造船疑獄」の火付け役にもなった。この事件では政治家や官僚が数多く逮捕され、「泣く子も黙る森脇メモ」とまでいわれるようになる。

経済評論家の三鬼陽之助は、森脇の印象を「とにかく正体のわからない人」と述べており、森脇自身がまさに妖怪めいた怪人物だったようだ。

あっ、ひばりちゃんのパンツ！

水神に取り込まれてしまう大空ひばりのモデルとなったのは、いわずとしれた昭和の大スター、美空ひばりだろう。水神は、ひばりをはじめとする人間やダンプカーまでもあとかたもなく溶かしてしまう。しかし、そんな水神でも溶かせないものがあったようだ。それは、ひばりが身につけていた水着（水木はパンツと呼ぶ）である。水木はその理由を欄外で「ひばりちゃんのパンツはイタリア特製の強いパンツであったのでとけなかった」と解説している。

墓場フィルター＋色彩設計

HAKABA FILTER＋
COLOR CONSTRUCTION

通称・墓場フィルター その画面づくりの妙

ダークでシブイ「墓場鬼太郎」の映像。暗いところで闇は深く、明るいところで白黒に見えるような、ざらざらした質感のフィルターがかけられている。これらのフィルターは通称・墓場フィルター。墓場フィルターはキャラクター用、背景用と複数の種類をかけることになる。
色彩設計のスタッフは、この墓場フィルターがかかったあとも、色味が映し出されるように、キャラクターの色づけをしなくてはいけない。フィルターを超えて、色づけするにはどんな色を使えばいいのか。試行錯誤を重ねた。

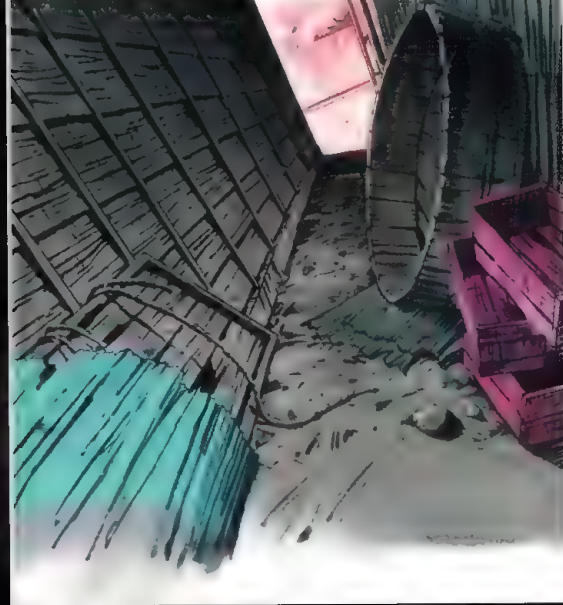
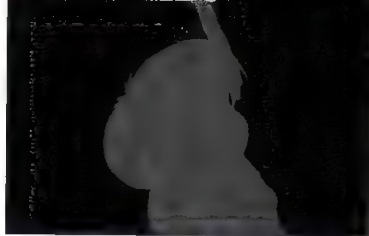
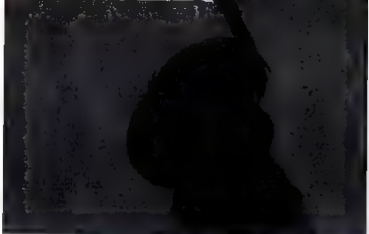
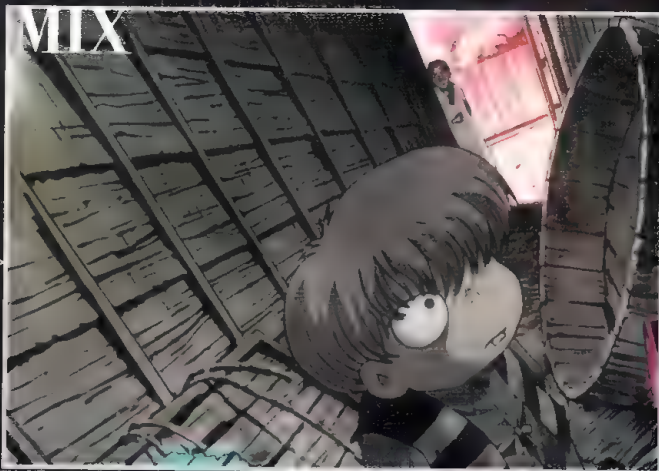
CHARACTER

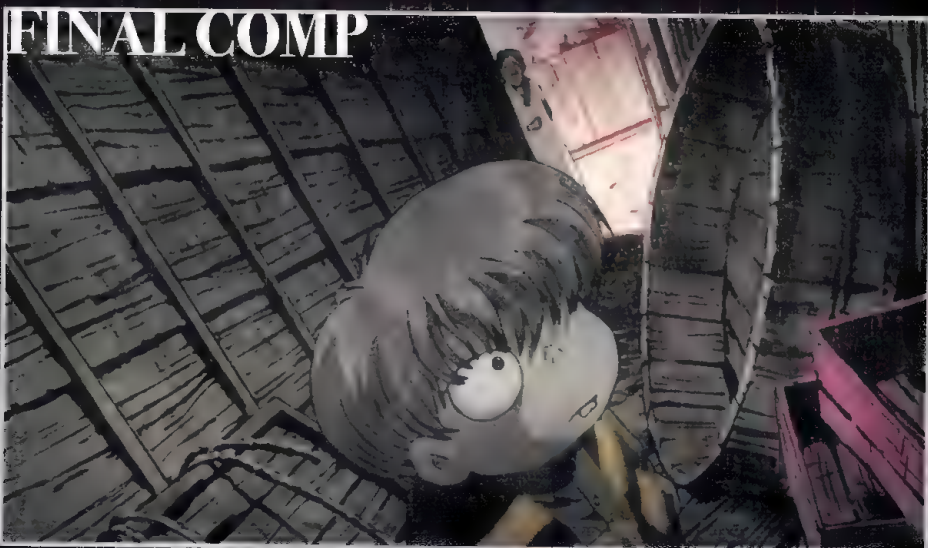
▲墓場フィルターがかかる前の、鬼太郎の色味。

▲キャラクター本来の色味。墓場フィルターがかかる前。くっきりと鮮やかな色味が使われている。

LINE

▲ライン（輪郭線）のみを抽出し、チョーク機能を使って、線を太らせている。手描きのようなラフな強弱（ラフエッジ）がつけられる。

BACKGROUND

▲背景美術の本来の色味。墓場フィルターがかかる前。アバンギャルドな色味がはっきりと使われている。

▲キャラクターと背景にはそれぞれ異なるテクスチャ（フィルター）を合成する。また、その上から鬼太郎のチャンチャンコの黄色を重ねる。チャンチャンコのマスキングをズラすことで、印刷ミスのような版ズレをわざとつくっている。

▲キャラクターと背景を合成する。なお、この際にキャラクターの彩度を抜いている。また、輪郭線に、ラフエッジをかけたものを重ねる。

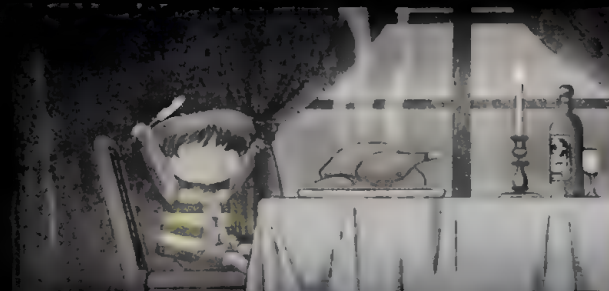
▲セピアふうの色調整、画面隅に黒味・ボケ追加などをし、最終調整をしている。

▶トリミングしてできあがった完成画像。画面のあちこちに手触りのある質感がくわえられ、「墓場鬼太郎」テイストを演出している。

第7話

人狼と幽霊列車

① 鬼太郎は秘書、ニセ鬼太郎はメイドとして、ねずみ男に仕えていた。そこに口にチャックのついているガマ令嬢が挨拶にやってくる。

② ガマ令嬢が隣に引っ越してきた。たちまち恋に落ちる、ねずみ男。「あのなやましいチャックの音！」

③ 水神の突然の襲撃。コーヒーを飲んだニセ鬼太郎が溶けてしまった。「きっと水神は水道の水源地にいるんだ！」

④ あわてて逃げ出した鬼太郎は、焼き肉のにおいに釣られ、下宿の別の部屋へ。そこは謎の紳士の部屋だった。

DVD第三集 収録
2008年2月21日放送
脚本：成田良美
演出：芝田浩樹
作画監督：大西陽一
美術：杦浦正一郎・大谷正信

【あらすじ】

ねずみ男がガマ令嬢にひと目ぼれした。そのころ水神の襲撃でニセ鬼太郎を失った鬼太郎は、謎の紳士と出会う。紳士は水神退治を条件として、ガマ令嬢へラブレターを渡すよう、鬼太郎に依頼するのだった。紳士の正体は人狼。人狼とねずみ男は手を結び、恋の邪魔をする鬼太郎をヤってしまうことを決意。やがて、倒したはずの鬼太郎から連絡が届く。２人は幽霊列車に乗って、鬼太郎のもとをめざすが……。

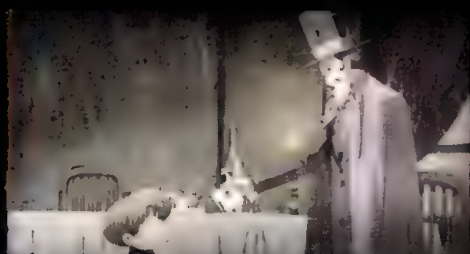
COMMENT

シリーズディレクター 地岡公俊

第７話は絵コンテがあがった時点でスタートショットの長回しにびっくりしました。人狼の視点のカメラが大迫力です。ガマ令嬢や人狼といった、謎のキャラクターがたくさん登場する回。恋のさや当てをしながら、鬼太郎が入ることで混乱に向かっていくという話ですね。ポイントはニセ鬼太郎があっけなく溶かされるのですが、鬼太郎もねずみ男も動じていないこと。鬼太郎に至っては目の前の焼き肉に夢中、と（笑）。即物的なおもしろさがありますね。幽霊列車に乗ってからは、人狼に視点を移しています。ねずみ男は怖がっていないけど、人狼は怖がっている。さりげない視点移動は演出家の腕の見せどころです。通常のアニメの3倍ぐらいのネタが入っている話です。

7

墓場鬼太郎名セリフ集「おおおっ、すばらしきチャックの音！」（ねずみ男）第7話より

謎の紳士は、水神の隠れ家に石油を散布。火葬にしてしまう。
「油は浮くから、水神の外面は火に包まれ、逃げられないのさ」

鬼太郎は紳士にガマ令嬢宛のラブレターを託される。
「僕、それどころじゃないんです。水神という奴に狙われて、明日をも知れない命なんで」

ガマ令嬢にラブレターを渡す鬼太郎。しかし、そのラブレターの出し主がねずみ男と人狼だということをあかす。

水神を倒した紳士の正体は、人狼だった。
「なんてこった、あのゼントルマンは人狼だったんか」

ガマ令嬢は引っ越してしまった。ねずみ男と人狼はともに手をとって、鬼太郎をこらしめることを誓う。

しかし、鬼太郎から小包が届く。ねずみ男と人狼は深夜の臨時列車に乗り、小包の宛先をめざすが……。
「いったいどこへ連れて行かれるんだ？」

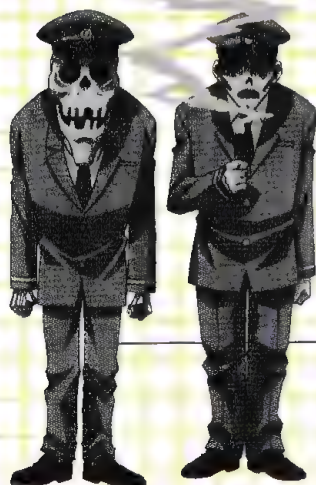
この列車は鬼太郎が運転している幽霊列車だった。ねずみ男はびっくり。人狼は倒れた……。
「ご乗車ありがとうございます」

鬼太郎を棺桶に閉じ込め、水に沈める。
「男の純情をもてあそんだむくいだ！」「これで幽霊族は全滅だ」

ガマ令嬢 Gama Reijo

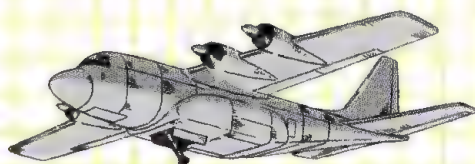
口にチャックがついている女性。大人の男をメロメロにするほどの魅力をもつ。どうしてそんなにもてるのか、誰にもわからない。

人狼 Hito-Okami

イギリスのロンドン出身のゼントルマン(紳士)。月夜には人狼と化して、人を襲う。医学的には100年にひとり生まれるかわからない、まれな奇病。ブドー酒をたしなむ、お金持ち。

ガイコツ駅員・幽霊列車の乗務員

鬼太郎の運転する幽霊列車の乗務員はお化け。手は灰色で、線香を持ち、死を賛美する歌を静かに歌いだす。しかし、ねずみ男と人狼は彼らの正体に気づかなかった。

謎の紳士の呼ぶ飛行機

墓場鬼太郎 Q&A

Q 幽霊列車の行き先は？

A ねずみ男と人狼が新宿駅で乗った深夜の電車。それは北奥多摩霊園行きの臨時列車でした。原作では、実際にある京王線の多磨霊園行きということになっています。しかし、ひとたび列車に乗ると、その中は怪奇の世界。停車駅は「臨終」「火葬場」「骨壺」……。「骨壺」からは地獄行きの地下鉄があり、「北奥多摩霊園」では極楽行きの電車が出ているのだとか。駅では「蝙蝠の毛と魔法使いのミイラがガマの胃袋に入っている駅弁」を販売中。窓の外から見える風景は、賽の河原の石山や卒塔婆が並び、まさしく墓場そのもの。鬼太郎が車掌を務める「幽霊列車」は死後の世界へ向かう列車なのです。

人狼と幽霊列車【第7話】

元祖・幽霊列車がついに登場！

人狼とねずみ男が乗った列車は、死後の世界行きのお化け列車だった。乗客は自分以外すべてお化け、途中で止まる駅は「臨終」「火葬場」と死をイメージするものばかり。原作のエピソードをそのままなぞりながら、CGの特殊効果で表現された、濃厚な霧。極彩色のビジュアルで包み込む恐怖。原作どおりの構成でありながら、原作以上の迫力が再現されていた。

そもそも、この幽霊列車のエピソードは「終電車のあとに、誰も乗せていない電車が走る」という都市伝説を、水木しげるがふくらませたのが原点。原作「墓場鬼太郎」「ゲゲゲの鬼太郎」でもたびたび登場し、アニメ版でも定番的なエピソードのひとつとなっている。

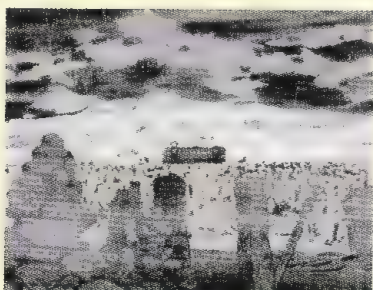
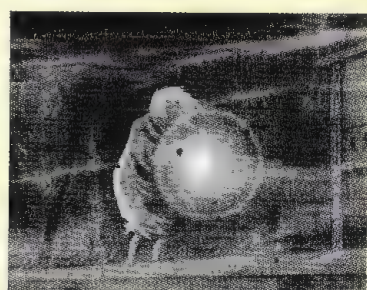
最初に「幽霊列車」がアニメで登場したのは第1期の「ゲゲゲの鬼太郎」（1968年）、第7話の「ゆうれい電車」だ。ターゲットは、妖怪をバカにした男2人組。妖怪たちは、金儲けのためにお化け屋敷をはじめる。からかい半分の男たちをこらしめるため、鬼太郎は「ゆうれい電車」に乗せて、本気で怖がらせようとするのだ。白黒の画面ではあるが、人魂が窓を叩いたり、男の隣に座った美女がのっぺらぼうだったりと、怖がらせるためのアイデアは満点。

次に「幽霊列車」が登場するのは、第三期の「ゲゲゲの鬼太郎」（1985年）第6話「地獄行！　幽霊電車!!」。鬼太郎とねずみ男に「妖怪なんているわけがない」とからんだサラリーマン2人組が「幽霊列車」に乗ることになる。「このまま乗ってけば、あの世に行ってしまうぜ！」とあわてて列車から飛び降りる、サラリーマンたち……。

おもしろいのは1999年に立体CG映像で描かれた「ゲゲゲの鬼太郎～鬼太郎の幽霊電車～」だ。これは全国の遊園地で上映された立体映像。細田守監督（代表作「時をかける少女」）がビジュアルサイエンス研究所というCGプロダクションとともに制作した作品である。テストで0点を取ってしまった少年が、昨日に戻りたいと妖怪ポストに手紙を出す。すると「きのう」行きの電車がやってきた。しかし、この電車は妖怪たちが乗っていた……というジェットコースター的な作品。不気味な乗客が一瞬でガイコツになったり、電車が海に飛び込んだりとCGならではの大胆な表現が印象的。「おととし」「きょねん」と過去を振り返りつつ、少年が反省していくドラマも見ごたえたっぷりだ。これぞ、新解釈の「幽霊列車」と言えるだろう。

そして第四期の「ゲゲゲの鬼太郎」（1997年）第53話「霊園行・幽霊電車！」や第五期の「ゲゲゲの鬼太郎」（2007年）第9話「ゆうれい電車　あの世行き」にも「幽霊列車」が登場した。ちなみにこの第五期の「ゆうれい電車」は、ヒーローのはずの鬼太郎が人間を怖がらせる側にまわる異色作。お約束の構成や「奥多摩霊園」や「臨終」など「幽霊列車」などのキーワードを外さずに、どんでん返しの衝撃のクライマックスを用意している。

「幽霊列車」というモチーフは、制作者も刺激する題材なのだろう。原作どおりに展開したアニメ版「墓場鬼太郎」に対して、「ゲゲゲの鬼太郎」のアレンジシリーズを振り返るのも楽しい視聴方法だ。

▲幽霊列車の正体は、明治時代の古い電車だった。すべては鬼太郎の見せた幻影だった。

▲幽霊列車の外の風景は、卒塔婆と墓石などが立ち並ぶ、荒涼とした墓場……。

▲乗客はお経を読み上げるといった怪しい行動をとり、ねずみ男と人狼を追いつめる。

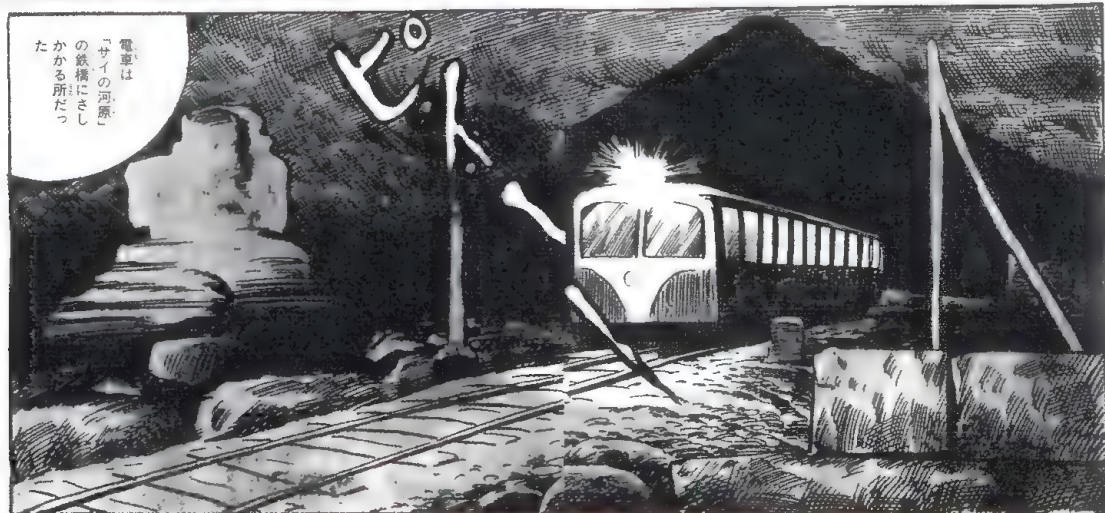
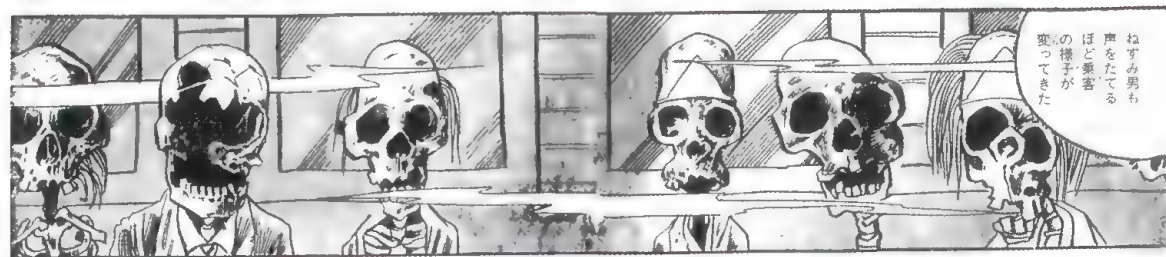
COMIC SIDE

アニメ版第7話「人狼と幽霊列車」出典

「顔の中の敵」

初出:「鬼太郎夜話」(三洋社、1960年)

▲「顔の中の敵」より

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(3)収録

▲「顔の中の敵」より

原作紹介

【顔の中の敵】

（「鬼太郎夜話」／三洋社より）

この作品では「水神様が町へやってきた」から引き続き、鬼太郎が水神に狙われているようすが描かれる。しかし、話の大きな流れは、ねずみ男と新登場のキャラクターである「人狼」「ガマ令嬢」によって別の方向へと変化していく。

ねずみ男の救出によって、水神の魔手から逃れた鬼太郎は、ねずみ男のアパートで秘書として仕えることになった。ある日、ねずみ男は隣に引っ越してきた女性――口にチャックをもつガマ令嬢に恋をする。しかしガマ令嬢の部屋を挟んで並びに住んでいる英国出身の紳士(ゼントルマン)もまた、ガマ令嬢にぞっこんであった。

実はこの英国紳士、月夜に凶暴な狼へと変身してしまう「人狼」なのだ。人狼は水神を倒すかわりに、ガマ令嬢との仲を取りもつよう鬼太郎にもちかけ、鬼太郎もそれを承諾する。鬼太郎は2人の男から、恋のキューピッド役を命じられたかたちになるのだが、もちろんどちらの約束も守るわけはない。

ガマ令嬢はアパートから姿を消し、鬼太郎に男の純情を踏みにじられたねずみ男と人狼は、結託して鬼太郎を海の藻屑にしようと企てるが――。

ここで、のちに〝ゲゲゲの鬼太郎〟シリーズでも同様の設定が何度か描かれる「幽霊電車」のエピソードが登場する。終電車のあとに出発する霊園ゆきの臨時列車。「臨終」「火葬場」「骨壺」といった不気味な名前の駅を通り過ぎるうち、乗客のようすもしだいにガイコツ姿の死装束へと変わっていって――というのが「幽霊電車」の設定である。

この作品では、鬼太郎を亡きものにしようと企てたねずみ男と人狼が「幽霊電車」の被害者(?)となっている。人狼は電車の走行中に窓から飛び降り、大きな石に頭をぶつけて絶命する。

ちなみにこの作品で、鬼太郎といっしょに水神から逃げていたニセ鬼太郎は、序盤であっさり水神に溶かされてしまい、自衛隊を動かすほどの脅威だった水神も、人狼の手で意外なほど簡単に消滅する。

前回までは主要なキャラクターでも、いつどんな形であっさりと消えてしまうかわからない……そんなドライな視点をもつ独特のテンポと展開で、いつの間にか病みつきになってしまうのが「墓場鬼太郎」マジックなのである。

原作版をもっと楽しむ小話

魔性の女、ガマ令嬢

ねずみ男と人狼、2人の怪人から同時に愛される「ガマ令嬢」。彼女は、一説によると、1930年代に生まれたアメリカのアニメーション映画のキャラクター「ベティ・ブープ」がモデルになっているのではないかといわれている。口がチャックになっており、ねずみ男はそのチャックが閉まる際の「ギギギギギ……」という音に胸をときめかせ、恋情を燃え上がらせるのだ。

どう考えても不気味で尋常ではないのだが、それは妖怪にしかわからない魅力なのだろう。「口にチャックがついてる女なんて化け物じゃねえか」というニセ鬼太郎のことばは至極もっともである。

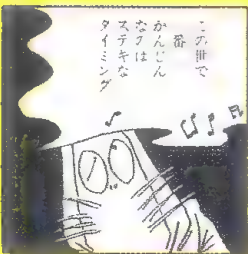
のちに吸血鬼となる人狼

ふだんは平凡な紳士だが、月夜の晩になると狂暴な狼と化してしまう「人狼」。この作品で登場した人狼の造形は、のちに「ゲゲゲの鬼太郎」で「吸血鬼ラ・セーヌ」として受け継がれる。

ステキなタイミング

ガマ令嬢がアパートから姿を消し、失恋のショックを受けているねずみ男の耳に流れてきたのは、坂本九の1960年のヒット曲「ステキなタイミング」であった。このシーンでは、坂本九が実名で登場し、ねずみ男と恋の〝タイミング〟について談議をする。彼が一番ソンケイしていると語る「ムスターフワ」は、坂本九の最初のヒット曲「悲しき60歳」に登場する男の名前でもある。

鬼太郎聖地巡礼

▲墓から生まれてきた鬼太郎を目玉親父が導く感動的なシーン。水木しげる記念館前の広場にある。

鳥取県境港で妖怪体験

水木しげるの故郷・鳥取県境港市は、妖怪のサンクチュアリ（聖域）であり、鬼太郎ファン、水木漫画愛好者にとってあこがれの地だ。駅前メインロードの水木しげるロードには妖怪たちのブロンズが並び、水木しげる記念館が建つ。妖怪グッズで満ち溢れた商店街。境港に行って妖怪と出会い、鬼太郎と遊ぼう!

TRIVIA 2 境線を走るねこ娘列車。4種類ある妖怪列車のうち、どれが走るかは時刻表にも載っていない。

TRIVIA 1 境線の終点が境港駅。駅前の水木先生執筆中の像は、画稿を傾けているのがリアリティあり。

TRIVIA 3 水木しげるロードの賑わい。妖怪ガイド（100円）に20個以上のスタンプを集めれば記念品ゲット！

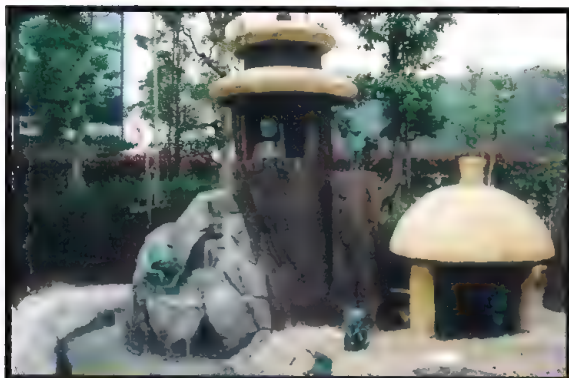
境港とは?

鳥取県の西の外れから日本海へ突き出した弓ヶ浜半島の最先端に位置する。中世から漁業、回船業の湊として発展し、いまでもイカや松葉ガニなど、海の幸がふんだんに味わえる。境水道を挟んでの対岸は島根半島で、松江市までも車で30分と近く、出雲大社を参拝し、松江で小泉八雲に触れ、境港で妖怪に親しむといった観光が手軽に楽しめる。

妖怪電鉄

米子から境港へのJR境線の各駅には本来の駅名とは別に妖怪名の愛称がふられ、鬼太郎、目玉親父、ねずみ男、ねこ娘の妖怪列車4車両が運行している。ちなみに米子駅はねずみ男駅といい、境線は0(霊)番ホームから出ることが多い。次の博労町駅はコロポックル駅で、以下鬼太郎駅の境港まで各地を代表する妖怪名が北の妖怪から順に続く。

妖怪と出会う

水木しげるロードに並ぶブロンズ像は133体。一反木綿、ぬりかべ、ぬらりひょんなど有名妖怪はもちろんだが、境港出身の宮川大助寄贈の「妖精花子さん」像という珍品もあるからじっくり見て歩こう。ほかにも妖怪神社、妖怪の泉、妖怪酒造りの小径（千代むすび酒造）、水木しげる記念館、その裏の妖怪楽園など、妖怪名所がずらり。

TRIVIA5 2008年春に完成した妖怪の泉。水に縁のある妖怪が集まっており、ときどき、怪しい霧につつまれる。

TRIVIA 4 水木ロード中ほどの妖怪神社。鳥居は一反木綿。ここで結婚式を挙げた妖怪好きのカップルもいる。

鬼太郎と遊ぶ

観光境港のキャッチフレーズのひとつに「鬼太郎とあえるまち」というものがある。数種のブロンズをはじめ、鬼太郎列車、鬼太郎フェリー、着ぐるみ姿の鬼太郎が何気に歩いていたりもする。Tシャツ、お土産品、鬼太郎パンなど、あらゆるところで見かける鬼太郎。妖怪ポストに手紙を入れなくても境港に行けば、鬼太郎に会えるぞ。

TRIVIA 6
米子駅0番ホームの鬼太郎ブロンズ。手にしたのぼりには、「妖怪のまちへようこそ」の文字が。妖怪たちに会いに行くには、妖怪列車で入るのが妖怪好きとしては正しい入り方だ。

水木しげるを知る

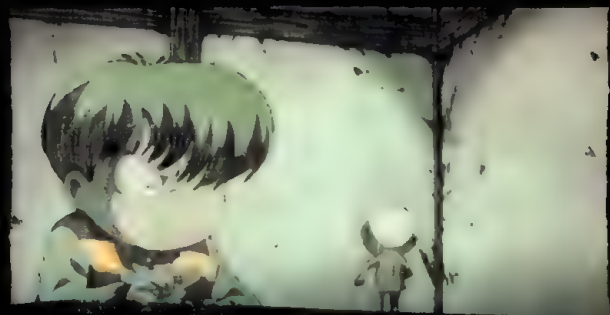
TRIVIA 7
左は墓地で先祖の武良一族の墓を調べる、「墓場の水木サン」だ。上は海岸通りにある生家。

境港は水木しげるの故郷。いまも境港を愛してやまない水木しげるは、年に数度は帰郷して都会の疲れを癒すためにくつろぐ。生家、昭和の面影を残す路地裏、異界に興味をもつきっかけになった正福寺の地獄極楽図など、水木ワールドを知るのに好適な場所はいくつもあるが、絶対に欠かせないところとなると、水木しげる記念館だ。ここには、水木が少年時代に制作した絵本や習作絵、紙芝居の下絵、世界中から集めた仮面や像、なつかしの鬼太郎グッズ、貸本など、貴重な品々が展示されている。

TRIVIA 8
水木しげる記念館

〒684-0025
鳥取県境港市本町5番地
（本町アーケード通り）
TEL：0859-42-2171
FAX：0859-42-2172
HP：www.sakaiminato.net/mizuki

ANIMATION SIDE

1 村田はおそるおそる金丸の話を聞く。「幽霊？」
「俺がアメリカに行ってるあいだに家に住み着いたという話なんだ」

2 金丸の家に住み着いた幽霊の正体は、鬼太郎だった。
「この部屋に人間が入ったんですね」

3 家に幽霊たちが押し寄せる。今夜ダンスパーティが行なわれるのだ。
「ふざけるなこの家は俺の家だ」

4 「ハヒフへ、ホー」のクサイ息をあびて、気絶する金丸と村田。
目が覚めると黒の世界にいた。謎の案内人が現われる。

第8話

怪奇一番勝負

DVD第三集 収録
2008年2月28日放送
脚本：堤泰之
演出：角銅博之
作画監督：窪秀巳・袴田裕二
美術：北村芳子

【あらすじ】

売れない漫画家の村田は、裏社会に生きる金丸の助手を引き受ける。金丸の家に幽霊が棲みついたというのだ。幽霊の正体は鬼太郎だった。金丸と村田は鬼太郎を冷蔵庫へ閉じ込める。しかし、そのとき切り落とした鬼太郎の手が動きだす。手を捕まえて、捨てにいく村田だが、女の霊に襲われる。鬼太郎は女の霊を鎮めるために金丸の家にいたのだ。村田が金丸の家に戻ると……鬼太郎が待っていた。

COMMENT

シリーズディレクター 地岡公俊

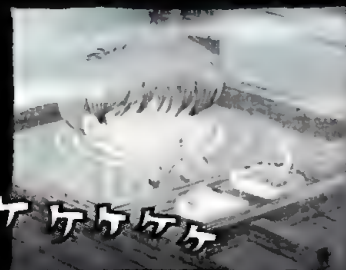
「怪奇一番勝負」をアニメ化できる！　というだけで僕らはうれしかったです。「墓場鬼太郎」の中で最も恐い話としてつくりたかったので、演出は今回の話にピッタリの角銅博之さん（代表作「デジモンアドベンチャー」シリーズディレクター）にお願いしました。このエピソードはほぼ2人芝居で進行します。そのおもしろさを大事にしたいと思っていました。オールラッシュで見たとき、僕は後半の障子から金丸の顔が見えるカットで「ギョッ」と驚きましたね。やはり、映像で見ると衝撃でした。この話では鬼太郎は悪役で、ある種、コロシにも関係しているかもしれない。むしろ、ねずみ男が正しいというか、含蓄のあることを言っているのがおもしろいです。

たどり着いた先は家だった。
帰り道に村田はねずみ男と会う。
「鬼太郎の『夢じらせ』という術だよ」

次の夜、村田と金丸は鬼太郎を冷蔵庫に閉じ込めることに成功する。しかし、鬼太郎の手が取れて……。

案内人に連れられ、村田たちは黒の世界を歩く。案内人に村田は約束をする。
「鬼太郎に逆らわないと誓え！」

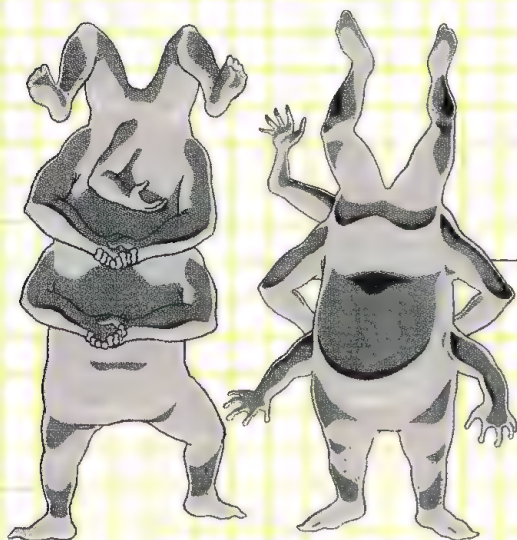
金丸の家の地下には古い女のミイラがあった。鬼太郎は女の霊をなぐさめるために、家で女に話しかけていたのだ。

鬼太郎の手が襲いかかってきた。金丸は手を釘で打ちつける！
「村田……これを遠いところへ捨ててこい」

お風呂場には復活した鬼太郎が、暖をとっていた。悲鳴を上げる村田……。
「こんだけ冷えたのは初めてですよ」

村田が目を覚ますと、家には金丸と妻の死体が……。女の霊が死体のまわりに飛び交っている。

女の霊に襲われ、手を奪われる。
「妖怪たちのことは妖怪たちに任せておくことだね」

鬼太郎の右手 Kitaro's Right Hand

鬼太郎の右手は切られても、動かすことができる。どうやら痛みは伝わっているようで、釘を打ちつけられると苦しそうにもだえる。右手ゆえに器用で、モノを拾ったり、道具を使ったりする。

案内人 Guide

暗闇に迷い込んだ人間を出口まで案内する。人生は一冊の漫画だと説く。鬼太郎の幻術「夢がえし」に現われる。複数の肉体が複雑にからみあった身体であり、目も口も鼻もない。

金丸 Kanemaru

裏社会の人物。銃をもち、妻は外国人。自家を幽霊に乗っ取られたため、村田を雇う。

金丸の妻 Kanemaru's Wife

アメリカに住んでいる金丸の妻。このたび日本に移住するために金丸の家にやって来た。

村田 Murata

売れない漫画家。漫画の仕事がなくなり。家賃も滞納中。大家から働き口として、金丸を紹介される。

ミイラと髪の毛 Mummy

金丸の家にいた女の人のミイラ。成仏しておらず、鬼太郎と将棋を指していた。鬼太郎を退治することで、女の霊が動きだす。

墓場鬼太郎Q&A

Q 幽霊たちの「ハヒフヘホー」とは？

A 墓場鬼太郎の家にやってきた、幽霊たち。彼らは鬼太郎の家で行なわれるダンスパーティに集まってきた、陽気な幽霊たちです。「いっしょにツイスト踊らない？」とかなりモダンな趣味をおもちのようす。彼らがクサイ息を吐きかけるときの掛け声が「ハヒフヘホー」。この「ハヒフヘホー」とは独特な音節をもっています。無音の摩擦音であり、空気を吐き出しながら発音することばなのです。たとえば、緊張しているときに「ハヒフヘホー」とつぶやくと自然に空気が吐き出され、リラックスできると言われています。また「ははは」「ふふふ」「ほほほ」と連続することで笑い声になるため、感情豊かな音節だという説もあります。はたして幽霊たち

怪奇一番勝負【第8話】

ダークで救いのない物語。まさか「怪奇一番勝負」をアニメで見られるとは思ってもいなかった。主人公の鬼太郎が思いっきり悪役として登場しているのが痛快。アニメ版「墓場鬼太郎」が深夜放送だったことが、さらに恐怖の相乗効果をあげている。

原作は1話読み切り。アニメ版では、原作どおりのストーリー展開を守りながらも、細かいアレンジが施されており、よりタイトでリズミカルな構成になっている。スタッフもベテランを投入した総力戦。演出を『デジモンアドベンチャー』の角銅博之、作画監督を『ゲゲゲの鬼太郎』などで活躍する窪秀巳と『ワンピース』などで実力を発揮した袴田裕二のコンビ（2人は『モノノ怪』でも組んでいる）。脚本は劇作家としても知られる堤泰之が担当。それぞれの持ち味が随所に現われている。

さて、本編の見どころを一気に振り返っていこう。売れない漫画家の村田が、アメリカ帰りの裏稼業者・金丸に出会い、幽霊退治に協力することになる。原作では8ページにわたって説明される冒頭のシーンを、わずか1分のアバン（幕前芝居）に圧縮。小気味よいテンポでオープニングがはじまる。この超高速リズムこそが、現代のセンスを感じさせる。

金丸の家の中は、闇が濃い。いや、画面上では白いフィルターがかかり、霧がかかったかのような演出がなされている。その霧が濃すぎて、画面の透明度は低いのだ。しかし、その透明度の低さが「鼻をつまれてもわからない暗闇」の雰囲気を出しているのである。この表現は、金丸と村田が迷い込む、黒の世界でも同様。画面が白ければ白いほど、闇を濃く、深く、黒く、感じる。これぞアニメならではの、表現と言えるだろう。

黒の世界で出会う、案内人も強烈だ。この案内人に金丸と村田が会うシーンは、原作では長いセリフが書かれている。アニメ版では、多彩なカメラ角度を使い、線画のイラストをオーバーラップさせることで、緊張感を維持したまま、長ゼリフを一気に聞かせるのだ。絵づくりのアイデアが、作品に密度を与える好例だ。

鬼太郎を冷蔵庫に閉じ込めてから、動き回る「手」はCGと作画で描き分けられている。手描きならではの大胆なアクション。CGならではの縦横無尽に走り回るアクションは、見せ場のひとつ。

そしてクライマックス。画面では「吊された身体」しか描かれていないが、金丸も金丸の妻も殺されている。その衝撃がさめやらぬうちに、村田と鬼太郎が風呂場で再会する。原作では、鬼太郎から「最後のばんさんはいかが?」と誘われ、「ぼくがマンガを描いているころは妖怪なんかすべてウソと思ってたのに」と涙を流しながら後悔するのだが、アニメ版では鬼太郎の笑い顔を見て、村田が悲鳴をあげて、終わりとなる。余韻を残さないアニメ版のラストは、村田の結末を視聴者にゆだねている分、より深く、恐ろしくなっているといえるだろう。

“墓場鬼太郎”シリーズの中で、もっとも後味が悪く（笑）、尾を引くホラーストーリー。「怖さ」というものに向かって脇目もふらず全力疾走している一作だ。ギリギリまでリミッターをかけずに原作の世界を再現した、アニメ版「墓場鬼太郎」の白眉である。

が感情豊かかどうかはわかりませんが、空気を吐き出すことばを唱えることによって、クサイ息を吐きかけるのは、意表をついた攻撃方法だといえるでしょう。

かつて幽霊族は絶滅寸前といわれていました。ならば、この鬼太郎の家に遊びに来た幽霊たちは、どこからやってきたのでしょうか。もしかしたら、鬼太郎の見せた幻影なのかもしれません。どちらにしても、彼らの正体は不明です。もし幽霊のような人がいたら「はひふへほ」と唱えさせてみれば、その人の正体が分かるかもしれませんね。

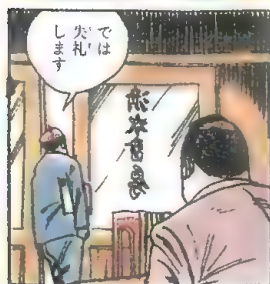
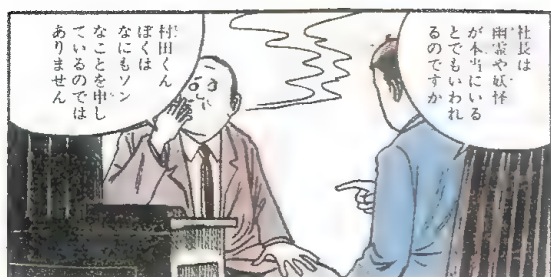
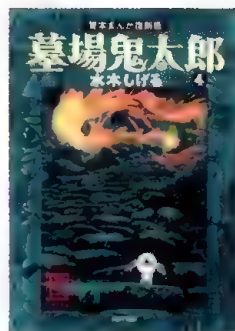
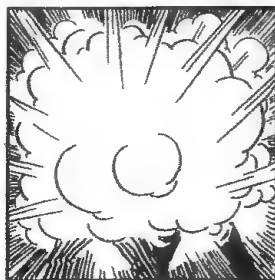
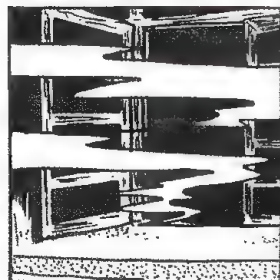
▲「ハ、ヒ、フ、ヘ、ホーッ」はとてもくさい息であるといわれている。はたしてどんなにおいがするのだろうか?

▲「怪奇一番勝負」より

COMIC SIDE

アニメ版第8話「怪奇一番勝負」出典

「怪奇一番勝負」

初出:「墓場鬼太郎」(兎月書房、1962年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(4)収録
定価740円(税込)
文庫判

▲「怪奇一番勝負」より

原作紹介

【怪奇一番勝負】

（「墓場鬼太郎シリーズ」／兎月書房より）

「怪奇一番勝負」は原稿料の未払いで決別していた兎月書房と和解し、復帰した第一作である。三洋社での鬼太郎は、どんどんコミカル路線に傾いていったのに対し、この作品では、原点に立ち戻ったかのように、ダークで残酷な鬼太郎の姿が描かれる。

原稿が没になり、家賃が払えなくなった漫画家の村田は、下宿先のばあさんの勧めで、殺し屋・金田の助手になる。金田の依頼とは、自分の留守中に自宅に住み着いた〝幽霊〟を追い出すということであった。

草木も眠る丑三つ時。カランコロンというゲタの音を響かせ、金田の家にやってきたのは、左目がつぶれ、みにくい顔をした子供――墓場鬼太郎だった。捕まえようとしたものの、家の中で鬼太郎を見失った村田と金田は、いつしか黒一色の世界に迷い込んでいた。そこで2人を待ち構えていたのは、生と死の分かれ道だった。

やがて不思議な姿の案内人に出会い、鬼太郎にさからわないことを誓って、元の世界へ戻った2人だったが、翌日、ふたたび家にやってきた鬼太郎を電気冷蔵庫の中に閉じ込めてしまう。しかしそのとき、鬼太郎の手首から先がぽろりと落ちた。切り離された鬼太郎の「手」は、意思をもったように家中を這いまわり、人間たちを追い詰めていく――。

この作品で鬼太郎は、金田とその妻、そして村田と、3人の人間を殺している。カサカサカサという音をたてて動き回る「手」がなんとも不気味な、〝墓場鬼太郎〟シリーズの中でも特にホラー色の強い作品といってもよいだろう。作中、ねずみ男が「妖怪のすることは妖怪たちにまかしとくことだ」と村田に忠告をするのだが、それを聞かなかったばかりに、人間たちは不幸な目に遭うのだ。

切り離されてなお自由に動き回る「手」のモチーフは、「リモコン手の術」として、のちに「ゲゲゲの鬼太郎」でも登場する。

原作版をもっと楽しむ小話

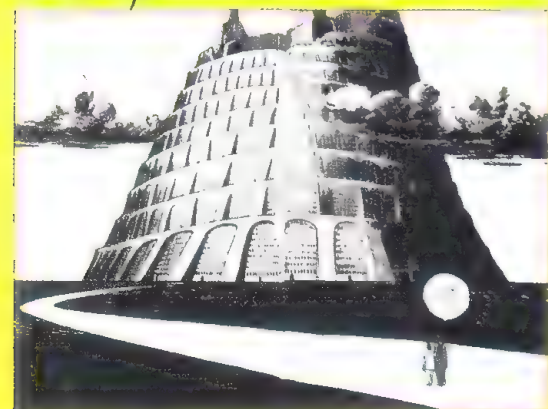
亡者の号令はハヒフヘホ

鬼太郎が住み着いた金田の家に、「今夜ここでダンスパーティがある」といって亡者たちが押し寄せる場面がある。ここは自分の家だと主張する金田に、亡者たちは「ここは墓場鬼太郎の家だ」と門札を指さして主張するのだが、怒れる金田は「墓場鬼太郎」と書かれたその門札を地面に叩きつけてしまう。すると亡者たちは「ハヒフヘホ」をとなえ、金田たちは「黒の世界」へ飛ばされる。

何故、「ハヒフヘホ」なのかは不明だが、「ホー」でいっせいにくさい息を吐きかける亡者たちの迫力は夢に出てきそうなほどである。

生の入口にそびえ立つ塔

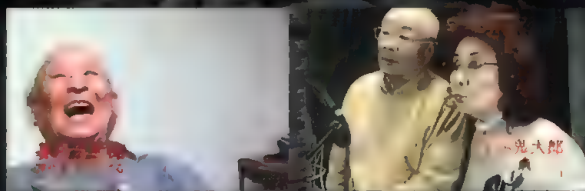
「黒の世界」へ迷い込んだ金田と村田は、手足が上下についたような奇妙な造形の「案内人」に出口までの道のりを教えてもらう。生と死の分かれ道に向かう途中で、案内人は「人生とは夢のようなもの」「幻影にすぎない」と人間たちに語る。生の道を選んだ金田と村田の前には、巨大な塔がたちはだかっていた。

この塔のデザインは、16世紀フランドルの画家・ブリューゲルの代表作「バベルの塔」をモチーフにしているといわれる。この塔が描かれるのは、実はこれが初めてではない。〝墓場鬼太郎〟シリーズ第一作の「幽霊一家」で、鬼太郎の父親が幽霊族の顛末を語る際に、「紀元前2万年の幽霊城」としても登場しているのだ。両者に関連性があるかはわからないが、こうしたシーンで、人間たちの驕りによって神の怒りを買い完成させることができなかった「バベルの塔」を象徴的に使っているのには、何か意図するところがあったのかもしれない。

墓場へのいざない

「墓場鬼太郎」DVD紹介

ようこそ「墓場」へ。「墓場鬼太郎」の世界をより深く知るための永久保存版映像集。DVD版はTV放送版でオンエアできなかった未放映カットをそのまま収録している。豊富な映像特典にはアニメーション制作のスタート地点となる「絵コンテ」を映像で収録。また、キャストたちのインタビューが納められている。原作の貸本復刻版「墓場鬼太郎」とあわせて、おさえておきたい鬼太郎ファン必須のアイテムだ。

「墓場鬼太郎」DVD 第一集

収録話数：「鬼太郎誕生」「夜叉 対 ドラキュラ四世」
【初回限定特典】・鬼太郎・ニセ鬼太郎携帯ストラップ　・描き下ろしの外箱付きパッケージ
・キャスト・インタビュー1：野沢雅子・大塚周夫　・絵コンテ・ギャラリー1　・原作者水木しげるコメント映像
・ノンテロップOP & ED

映像特典として鬼太郎役・野沢雅子とねずみ男役・大塚周夫の対談を収録。また、原作者・水木しげる先生がアニメ墓場鬼太郎の感想をついにコメント。水木先生のフリーダムすぎるトークに関係者もたじたじ……。

「墓場鬼太郎」DVD 第二集

収録話数：「吸血木」「寝子」「ニセ鬼太郎」
【初回限定特典】・鬼太郎メンコ　・描き下ろしの外箱付きパッケージ　・キャスト・インタビュー2：ピエール瀧
・キャスト・インタビュー3：中川翔子　・ノンテロップED　・絵コンテ・ギャラリー2

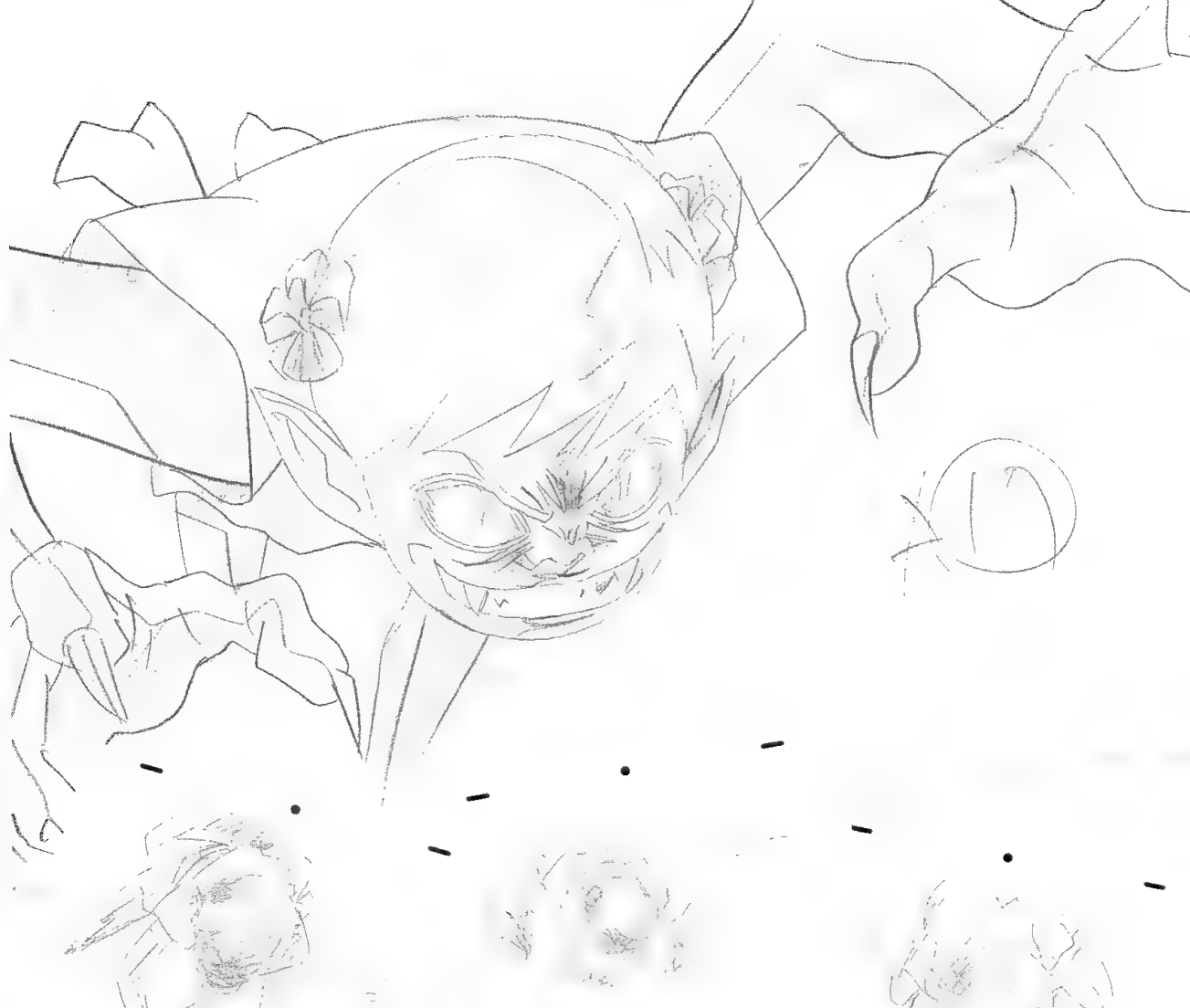
映像特典として中川翔子、ピエール瀧のインタビューを収録。また、第一集より好評の動く絵コンテ・ギャラリーの第二弾も登場。エンディングをノンテロップで収録。次回予告のテキストを読み取るチャンス!

「墓場鬼太郎」DVD 第四集

収録話数：
「霧の中のジョニー」
「ブリガドーン」
「アホな男」
【初回限定特典】
・豪華ブックレット
・描き下ろしの外箱付きパッケージ
・ノンテロップED
・絵コンテ・ギャラリー4

「墓場鬼太郎」DVD 第三集

収録話数：
「水神様」
「人狼と幽霊列車」
「怪奇一番勝負」
【初回限定特典】
・墓場鬼太郎シール
・描き下ろしの外箱付きパッケージ
・ノンテロップED
・プロモーション映像集
・絵コンテ・ギャラリー3

墓場鬼太郎DVD全四巻 第一巻 3990円(税込) 第二～四巻 5985円(税込) 発売：[illegible] 販売：[illegible]

「墓場鬼太郎」ができるまで

MAKING OF HAKABA KITARO

原画：山室直儀
第4話「寝子」より

50年以上の時を経て、甦った「墓場鬼太郎」。闇のニオイを感じる、この鮮やかな「鬼太郎」ワールドを手がけたのは東映アニメーションの精鋭スタッフ。彼らは、いままで培ってきた技術を投入し、過去に例を見ない刺激的な映像をつくりあげた。そのアニメーション制作の過程を振り返ってみよう。

プロデューサー：清水慎治　シリーズディレクター：地岡公俊
シリーズ構成：成田良美　キャラクターデザイン・総作画監督：山室直儀　美術設定：本間禎章　色彩設定：辻田邦夫
CG ディレクター：森田信廣　美術ボード：倉橋隆　音楽：和田薫　オープニング／エンディング演出：中村健治

清水慎治 プロデューサー

念願の「墓場鬼太郎」アニメ化がついに実現！ 40年目に突入した国民的アニメ「ゲゲゲの鬼太郎」の裏で20年間にわたって暖められていたアニメ化プロジェクト——それが「墓場鬼太郎」だった。まさかの企画実現。そして大ヒット……。その一部始終をうかがった。

——清水さんは長年「墓場鬼太郎」の企画を温めていらっしゃったとか。

清水：20年前くらいかな、正確には。白黒テレビの第一期の「ゲゲゲの鬼太郎」をずっと見ていて。第三期の「ゲゲゲの鬼太郎」から編集のスタッフとして参加したんです。そこで原点である「墓場鬼太郎」が読みたいなと思ったんですよ。当時は、いまのようにネットの時代ではなかったので、神田の古本屋で話を聞いて、探したんだけど見あたらなかった。それからしばらくして「ゲゲゲの鬼太郎」（第四期）のプロデューサーになって。そのころは「墓場鬼太郎」を読んでいたから、頭の誕生シーンをアニメでやってみたいと思ったんです。怖くて、おもしろいし、インパクトあるんだろうなと。だけど、TVの放送コードに引っかかりそうという思いもあって。

——原作は過激な印象があります。

清水：それでも、いまから3年くらい前に「墓場鬼太郎」の企画が一度立ち上がったときがあったんです。そのときはシナリオまでつくりはじめていた。だけど、諸般の事情で流れてしまったんですよ。そこで今度は「ゲゲゲの鬼太郎」第五期目とタイミングをあわせて、ぼこんと「墓場鬼太郎」の企画がまた、でてきたんです。

——なんども浮かんでは消える難産の企画だったんですね。

清水：もちろん、最初の企画は自分の夢のようなものだったんだけどね。まあ、今回はとにかくスタッフがエラいですよ。若いスタッフがよくやったと思う。

——今回の若いスタッフのつくった「墓

大ヒットの理由？
それは若いスタッフがつくったから！

場鬼太郎」はどうでしたか？

清水：最初は僕もプロデューサーをやりたかったんです。ただ、僕は水木原理主義者だから（笑）。今回のスタッフは昭和30年代を知らないでしょう。それがよかったんでしょうね。映画「ALWAYS三丁目の夕日」も30代の監督ですよね。いまの若い人の目から見ると、昭和30年代を古くは感じないんだと思います。僕がつくってしまったら、ノスタルジーになると思う。

——水木原理主義者からみて、「墓場鬼太郎」のおもしろさってどんなことだと思いますか？

清水：水木先生の作品って、ほかに似ているものがないでしょう。独特でありながらもユーモアがあって愛嬌がある。妖怪も怖いというより、まず愛嬌があるんですよね。その深い諦念と人生観ですよ。もう、僕は大好きで……まあ、今回のいちばんの成功は僕がプロデューサーをやらなかったことです。

——いやいやいや。難産だった「墓場鬼太郎」の企画が、どうして今回は実現したんでしょう。

清水：フジテレビさんとはずっと話をしていたんです。それで、たまたま別のプロジェクトを動かそうとしたときに、「『墓場鬼太郎』はどうですか？」と向こうから連絡がきた。ひとえにタイミングですね。

——過激な表現については……。

清水：もちろんいろいろありましたけど、やっぱり「墓場鬼太郎」のおもしろさを伝えたかったからね。殺しちゃえ、生き返らせちゃえ。地獄行かせちゃえ。人から木が生えるは、なんでもありのおもしろさ。このおもしろさは地上波向きだと思うんですよ。OVA（ビデオ販売アニメ）ではつまらない。子どもにも見てもらいたい（笑）。

——完成した「墓場鬼太郎」をご覧になって、いかがでしたか。

清水：最高じゃない！　ただ唯一残念だったのが、1クールだったこと。もったいないよね。これはファンとして言いますけど、もっとゆっくり、長く続けたい作品なんですから！

プロデューサーの仕事とは？

アニメのプロジェクトは制作会社だけでは完結しません。放送局があり、DVDパブリッシャーがあり、ときにはスポンサーがいるのです。それぞれのオーダーを交渉して、制作現場を守るのがプロデューサーの仕事。もちろん、外部スタッフの手配や制作コストのコントロールをするといった仕事もあり、その職域は多岐にわたります。

清水プロデューサーのこのシーン、このカット

第1話「鬼太郎誕生」の誕生シーン。
「僕だったら、このシーンを第1話のラストにもってくるね。今回はAパートの最後でしょ？　早いよねえ。いや、もちろん1クールのアニメだから仕方がないけれど。このシーンはよかった」

▲鬼太郎が誕生するシーンは原作漫画を忠実に再現。清水プロデューサーの手がけた映像も見たかった！

清水慎治 Shinji Shimizu

●しみず・しんじ／1952年生まれ、東京都出身。東映アニメーション企画営業本部企画開発スーパーバイザー。東映アニメーション入社後、1985年から第三期「ゲゲゲの鬼太郎」の編集を担当。以来、20年以上にわたり"鬼太郎"シリーズのアニメ制作にかかわる。「ワンピース」などの大ヒット作にも参加。

地岡公俊

シリーズディレクター

昭和30年代を知らない世代の「墓場鬼太郎」。シリーズディレクターの地岡公俊は35歳。今年40年目の「ゲゲゲの鬼太郎」よりも若い世代のスタッフだ。プレッシャーを感じつつ、自分の感じた「墓場鬼太郎」像を貫く。だから現代に受け入れられる作品になりえたのだ。

——最初に「墓場鬼太郎」をアニメ化するというお話を聞いたときは、どんな印象でしたか？

地岡：僕が話を聞いたのは、たしか2007年5月末ぐらいでした。ちょうど前の仕事の真っ最中で、徹夜明けだったんですよ。もうろうとしながら、プロデューサーに原作「墓場鬼太郎」をお借りしました。

——原作をお読みになった感想は？

地岡：今の漫画とはまったく違う文法で書かれているものなんですよね。非常に映画的といいますか。僕は「ゲゲゲの鬼太郎」の仕事をしたことはないんですが、「ゲゲゲ～」とはまったく違うことはわかりますし。「ゲゲゲの鬼太郎」は三期ぐらいから鬼太郎がヒーローになっていく。それに対して「墓場鬼太郎」は人助けなんてしやしない。むしろ人を地獄に導いてしまう。ろくなことを考えていないうえに、頭のネジがゆるい（笑）。人を食ったようなブラックコメディの感覚が大きくて。

——じゃあ、かなりゆるいノリでつくろうとしていたんですね。

地岡：大きな流れをつくろうと思っていました。全話を見てくだされればわかるんですけど、第1話、第2話のほうが重くて、第10話、第11話と後半は明るく、軽くなっていくんです。それはストーリーだけでなくビジュアルも共通で。第4話ぐらいまでは鬼太郎は猫背なんだけど、第6話ぐらいから背筋がのびはじめています。たったひとりの幽霊族が、だんだん人間世界になじんでいく話なんです。

——前半の重くて怖い部分で、怖い演

地岡公俊 Masatoshi Chioka

●ちおか・まさとし／ 1973年5月21日生まれ、広島出身。東映アニメーション契約後、「デジモン」シリーズ演出、「金色のガッシュベル!!」シリーズディレクター補佐を経て、「神様家族」で初監督。「モノノ怪」ではオープニングとエンディングの絵コンテ・演出を担当した。

「墓場鬼太郎」は「ホラー」ということばだけじゃ語れない。そこがおもしろい

出は意識しましたか？

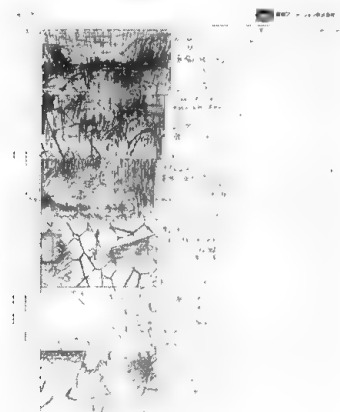
地岡：「ホラー」というキーワードを誰もが最初に思いつくんですよね。でも、「ホラー」という視点で、作品を見ていくと、あてはまらない部分がでてくる。その当てはまらない部分こそが、おもしろいところだったりもするんです。だから、「ホラー」というより、怪異。怪奇ではなく、怪異として鬼太郎を描こうと思いました。関わった人を不幸に追い込む、理解できない恐ろしさですね。

——なるほど。今回は昭和30年代が舞台になっていますが、レトロ調な絵づくりは意識していたんですか？

地岡：僕は比較的、懐古趣味というか、古いものが好きで。最初のイメージは着色写真。白黒に色をつけている、偽カラー写真ですね。僕自身、昭和30年代に生まれてはいないし、結局資料でしかわからない。そこで、昭和30年代をリアルに描くのではなく、見ている人たちの頭の中にある30年代を再現しよう、と。

——CGを駆使した、かなりつくりこんだ絵になっています。

地岡：東映アニメーションには「モノノ怪」という作品があって、その中村健治監督とは友人であり、よきライバルだと思っているんです。CGのフィルターをかけた画面や美術は影響を受けています。中村監督とは、刺激的な作品をつくることで、アニメーション業界全体を「もっと盛り上げよう」とよく話をします。その思いが「墓場鬼太郎」の映像を生み出したんだと思います（笑）。

「第1話の冒頭の絵コンテ」
一瞬だけ挿入されるカットもしっかりと指示が出されている。

「鬼太郎の誕生シーン」
水木は恐怖におびえて、生まれたばかりの鬼太郎を突き飛ばす。

「ちみつに描かれた地獄シーン」
絵コンテの段階で明確なビジョンがあることがわかる。

シリーズディレクターの仕事とは？

シリーズ全体の演出のチェックを行なう、最も重要な役どころ。いわゆる「監督」です。作品の方向性から、脚本、作画、美術、CG、音楽、アフレコにいたるまですべてを統括します。

地岡ディレクターのこのシーン、このカット

▲第11話。鬼太郎のカットに「負け惜しみ［名］強情・意地っ張り」という辞書風の解説がついている。

第11話「アホな男」で、大胆な止め絵の手描きゼリフは、地岡アイデア。「アニメはこの話で終わるんですが、まだまだ「鬼太郎」の物語はここで終わらない。活字や絵、いろいろなかたちで受け継がれていく。そこで、あえて文字だけで見せるカットを入れたんです」

成田良美

シリーズ構成

水木しげるファンの、水木しげるファンによる、水木しげるファンのための物語。脚本家の成田良美が「墓場鬼太郎」に参加したきっかけは「世界妖怪会議」にあった。これぞ妖怪のおみちびき？ 「墓場鬼太郎」のバラエティ豊かな物語の原点を聞く。

——「墓場鬼太郎」に参加した経緯を教えてください。

成田：2005年の「第10回世界妖怪会議」に一般客として遊びに行ったんです。そこで「ゲゲゲの鬼太郎」のプロデューサーとばったり会って。そのときはまだアニメ化の企画は動いておらず、「また鬼太郎がアニメになるときは脚本書いてくださいね」「喜んで」という会話をしました。その後、「ゲゲゲ」の五期がはじまり、「墓場」の企画が動き出して……数年前の会話が実現することに。あの「世界妖怪会議」での出会いがなければ、この話は来なかったと思います。運命みたいなものを感じています。水木先生のお引き合わせかも（笑）。

——「世界妖怪会議」とは！ 水木先生のファンだったんですか？

成田：脚本家になってからなので、ファン歴は浅いんですけどね。最初に水木先生の自伝を読んで、そこから水木作品に入っていったくちです。

——「墓場鬼太郎」の構成はかなり細部まで調整していますね。

成田：じつは最初に「ゲゲゲの鬼太郎」五期のシリーズ構成をやっていた長谷川圭一さんがたたき台をつくってくださったんです。そこから、みんなで話し合いながら決めていきました。やはり1話に詰め込む分量が多いんですよね。原作をチョイスして、凝縮する作業でした。

——脚本を書くにあたって、気をつけたことは？

成田：脚本を書くにあたって、地岡監督が「原作を大切にしたい」という方向性を打ち出していたので、セリフもなるべ

「こういうとき水木先生なら どうやって書くんだろう」と想像しました

成田良美の
このシーン、このカット

第6話「水神様」水木が、水神様に飲まれる衝撃シーン。「力を入れて書いたシーンです。演出さんがじっくり間をとって描いてくださって。鬼太郎ひどすぎ（笑）」

▲「じゃア」と鬼太郎が無情に別れを告げる。そのあっけない態度がじつに「墓場」的！

シリーズ構成

原作「墓場鬼太郎」は長編・短編をふくめて全15話。この原作を再構成して、TVシリーズ用全11話にまとめた。とくに大胆に構成しているのは原作3話分を圧縮した第1話「鬼太郎誕生」。第3話「吸血木」から第6話「水神様」までは原作3話分をキャラクターごとに分解し、再構成している。

各話執筆

□古い墓地（真夜中）
季節は梅雨か初夏、草などが鬱蒼と茂りジメッと湿気のある感じ。
空には細い三日月、鳥が不吉に鳴いている。
卒塔婆の入った墓石や卒塔婆の間を、ゆっくり進んでいく何者か（その者の視線でカメラが進んでいく）。草を踏む足音。
墓地の向こうにある水木家へ向かう。
水木N「過去をいくら振り返っても変えることはできない　災いは突然やってくる　あの夜もそうだった」

□水木家・寝室
寝ている水木。
か細い女（女幽霊）の声が聞こえる。
声「ごめんください　」
水木が目を覚ます。
声「ごめんください　」
時計の針は深夜二時　丑三つ時。
水木　身体を起こし、
水木「誰だ？ こんな夜中に　」

□同・玄関
廊下を歩いてくる水木。
玄関の戸の向こう、ガラス越しに薄ぼんやりした人影が立っているのが見える。
水木「どなたですか？」
声「今度、隣の古寺に引っ越してきた者ですが　」
水木「あ　はい」
戸を開けると、そこには誰もいない。
水木「あれ？」
玄関前に木箱が置かれている。
水木「なんだ？」
木箱を手に取って開ける。
水木　瞠目して、
水木「ひいっ！」
木箱を落としてとびのく。
木箱から目玉（親父）が二つ、転がり出る。

シリーズ構成がまとまると各話担当の脚本家に、脚本を発注。重要なエピソードは成田本人が担当。第1話、第2話、第6話、第7話、第11話を執筆している。

く変えないようにしようと思いました。水木先生の「墓場鬼太郎」で、私がいちばんおもしろいと思ったのはセリフなんです。自分には出てこないセリフがいっぱいあって。しかも、原作は口語体じゃないので、そこは不安があったんですけど、声優の皆さんがうまくおもしろく演じてくださって安心しました。あれは名人芸ですね。

――鬼太郎を書いた感想は？

成田：普通の脚本は、キャラクターがどんなことを考えて行動するか、裏を考えながら書くんです。けれど鬼太郎はよくわからない。セリフも行動も自由すぎて……（笑）。水木先生の自伝を何度も読んで「こういうとき水木先生だったらどんなセリフを書くんだろう」って、水木先生をイメージしながら書いたんです。

――さすが水木ファンです！

成田：だから、鬼太郎は水木先生だと思って書いていました。幸い、私は「世界妖怪会議」で水木先生にもお会いしているので（笑）。

――では、おすすめの見どころを！

成田：やはり、鬼太郎の姿を見てほしいです。最初は「ケケケ」と笑っていた鬼太郎が、人間世界で苦労して変わっていく。世の中なんてちょろいって言っていた少し後に「絶望だ～！」って。鬼太郎の変化を楽しんでください。

シリーズ構成の仕事とは？

シリーズ構成とは脚本、文芸の責任者。作品のシリーズ全体のストーリーの流れから、各話の脚本からキャラクターのセリフにいたるまで、シリーズディレクターやプロデューサーを交えて、監修します。TVシリーズは多くの脚本家が参加することも。参加脚本家の担当話数を決めることも、シリーズ構成の仕事です。

成田良美 Yoshimi Narita

●なりた・よしみ／4月3日生まれ、愛知県出身。1997年「ドクタースランプ」でTVアニメーションの脚本家デビュー。「ふたりはプリキュア Splash☆Star」「Yes! プリキュア5」でシリーズ構成を務めている。「ゲゲゲの鬼太郎」（第五期）に参加。

山室直儀

キャラクターデザイン・総作画監督

東映アニメーションを代表するトップアニメーターが「墓場鬼太郎」に参戦。ダークな鬼太郎を、かわいらしく、恐ろしく描く。水木しげるのタッチまでをみごとにアニメ化した、その手腕に注目。はたして彼が「墓場鬼太郎」で手に入れたモノとは？

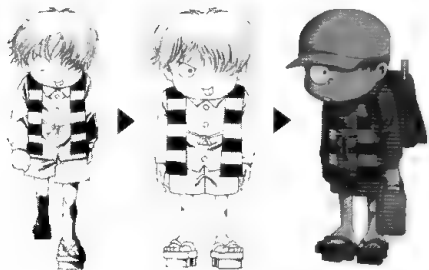
――「墓場鬼太郎」の第一印象はいかがでしたか？

山室：子どものころに見ていた「ゲゲゲの鬼太郎」しか知らなくて。原作「墓場鬼太郎」は読んだことがなかったんです。原作を読んだときの感想は「描けるかな？」。自分が描いてきたラインと違うし、そもそも「ゲゲゲの鬼太郎」も数カット手伝ったことがあるくらいで、本格的に描いたことはなかった。今まで正義のヒーローばかりを描いてきたから、まったく違う……最初は苦手な分野だなと思っていたんです。

――実際描いてみていかがですか？

山室：鬼太郎は、何回描き直したのかわからないくらい、描きました。地岡監督から「かっこよくなく」「バランスを崩して」と言われて。最初は頭のかたちを整えていたんですけど、頭のバランスを崩して、形を崩して、目玉ももう少し大きく、猫背にして。目玉親父も「ゲゲゲの鬼太郎」では目が大きかったんですけど、今回は小さくしています。

――妖怪もデザインしていますね。

鬼太郎デザインの変遷

▲初期デザインの鬼太郎。画材はロットリング。陰影が白黒。

▲完成系の鬼太郎。頭のかたちが整えられ、影がシンプルになっている。

山室直儀 Tadayoshi Yamamuro

●やまむろ・ただよし／ 1960年5月23日生まれ。東映アニメーション所属。大ヒットアニメ「Dr.スランプ アラレちゃん」に参加して以来、"ドラゴンボール"シリーズと、鳥山明作品でトップアニメーターとして活躍する。「ONE PIECE」などにも参加しつつ、2008年には本作のキャラクターデザイン、総作画監督を務める。第11話で作画監督として活躍。

鬼太郎は、夜に描きたくないんです。怖いから（笑）

山室：妖怪はあまり描きたくなかったんですよ。お化けが好きじゃないので。鬼太郎も夜には描きたくないんです。怖いから（笑）。

——夜は墓場で運動会ですからね。ねずみ男はいかがでしたか？

山室：できるだけ汚くしようと思っていました。見ている人がかゆくなるような（笑）。

——総作画監督としてめざしている絵はどんなものでしたか？

山室：においのする絵をめざしていました。古くさいにおい、街に流れる川のにおい、土くさいにおい……。

——お仕事していて満足のいっている話数は？

山室：第1話は作画監督の窪秀巳さんがみっちりとした修正をしてくれました。あと第5話はAパートを窪秀巳さん、Bパートを橋本敬史さんの真剣勝負になっていて、見応えがありましたね。残念だったのは全11話しかないこと。スタッフがローテーションで2回くらい作画したら終わってしまいましたからね。美術スタッフも頑張っていて、かなり濃い11週でしたけど……。

——最終回を迎えた感想は？

山室：最初は苦手かと思ったけれど、楽しかったです。たまには正義の味方じゃないキャラクターもいいなって思いました。ただ「墓場鬼太郎」をもっと続けようにしても、原作がもうないし、この話は水木しげる先生しかつくれないから。続編は水木先生に描きおろしてもらわないと！

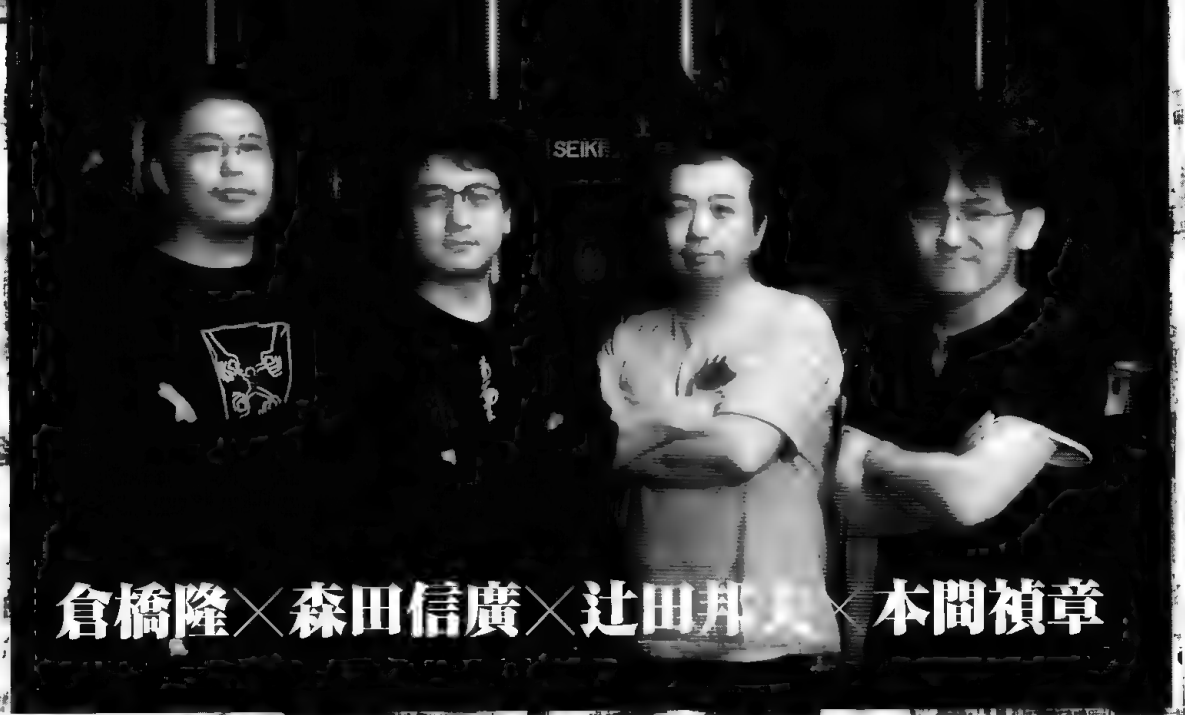
山室直儀の原画 第4話「寝子」

▲ゾーッとふるえる水木の恐怖の表情が迫真。水木がいかに尻に敷かれているかがわかる。

キャラクターデザイン・総作画監督の仕事とは？

キャラクターデザイナーはキャラクターを生み出す人。作画スタッフの制作効率を考慮しつつ、シンプルな線で構成した、キャラクター設定資料をつくります。総作画監督は作画の総責任者。作画のクオリティを管理します。

本間禎章 辻田邦夫 森田信廣 倉橋隆

美術設定 本間禎章

色彩設計 辻田邦夫

CG ディレクター 森田信廣

美術ボード 倉橋隆

禍々しくも鮮やかで、独特な「墓場鬼太郎」のビジュアルイメージ。この映像を手がけたメインスタッフが4人。通称「墓場フィルター」と呼ばれる撮影処理を施し、前代未聞のオリジナルの映像をつくりあげた。

——原作「墓場鬼太郎」を初見したときの印象はいかがでしたか?

倉橋：単純に、作品がおもしろかったです。美術としては、そのまま描けばいいんじゃないかなって。

本間：漫画の背景がかなりしっかり描き込んであるので、そのままいけるだろうなと思っていました。

——森田さんは水木ファンだとか?

森田：昔から読んでました。境港へも、今の仕事が落ち着いたら行きたいと思っています。また、自分自身も古い家に住んでいるんです。昭和30年代の雰囲気をうまく出していきたいなと。

辻田：2～3年ぐらい前に清水慎治プロデューサーから『墓場鬼太郎』をやりた

既存の画像処理とは違う オリジナルのフィルターがほしかった（森田）

美術設定／美術ボードの仕事とは?

アニメではキャラクターをセルで描き、背景を紙に描きます(今はデジタルデータ)。この背景を描くための設定資料をつくるのが「美術設定」の仕事。時代背景や建物の構造などを構成するのです。美術ボードは美術のチーフ。先行して美術ボードを描きます。美術ボードを参考してスタッフが背景美術を描いていくことになります。

美術設定／背景美術

▲第6話「水神様」の水神様の隠れ家。原作にもあるカットだが、美術設定として綿密に起こされている。

▲第1話「鬼太郎誕生」の日常の美術背景。手前にある材木や箱などがアバンギャルドな色調になっている。

本間禎章 Sadaaki Honma

●ほんま・さだあき／ 1975年1月31日生まれ。数多くの作品に美術スタッフとして参加。アニメ「まぶらほ」で美術監督を務める。「墓場鬼太郎」では、前作「モノノ怪」で美術監督を担当していた倉橋隆のため、先行して美術設定を固める。

倉橋隆 Takashi Kurahashi

●くらはし・たかし／ 1973年6月14日生まれ。「怪〜Ayakashi〜化猫」「モノノ怪」で美術監督を務める。今回は美術ボードでの参加にくわえ、第6話「水神様」、第11話「アホな男」で美術を担当(くらはしたかし名義)。

本間禎章のこのシーン、このカット

▲うっそうとした、深い霧の中。しゃれこうべが敷き詰められた山道。背景を描いたのは本間禎章。

第6話「水神様」。水神様が潜んでいる山の奥深くには、大量のしゃれこうべが落ちている。巨大なドクロに似た山が口を開き、訪れる人に襲いかからんと待ち構えている。これぞ「鬼太郎」ワールド。「ここの設定はかなり楽しみながら描きました。水神様のおもしろさが伝わればいいなと思います」

いんだ」とうかがっていたんです。ただ、このテイストをどうやってTVシリーズとしてやるんだろうと思っていました。実際、顔をあわせたときに、やりたい方向性が明確にあったので。これならやってみようと思えましたね。

――やりたい方向性とは?

森田：撮影処理ですね。トイカメラで撮影したような、質感のある映像にしよう、と。私と地岡さんで撮影処理について、いろいろと試行錯誤していたんです。

――いわゆる通称・墓場フィルターの開発ですね。

森田：フィルムっぽい質感だとか、いろいろな画像処理をテストしていき、「既存のフィルターって、この作品にあわないよね」という話になりました。前作「モノノ怪」でもフィルターをかけていたので、それとは違うものがほしくて、水彩画のような感じになるフィルターをつくりました。最初はかなり白黒に見えてしまうフィルターだったんですけど、そこから調整を重ねて、いまのバランスになったんです。結果として撮影作業が大変になったんですけどね(笑)。

――美術のお2人は当初、どのような絵づくりを意識していましたか。

本間：設定は2007年の9月くらいからはじめていたんですが、量があるし、地岡さんのイメージもあるしで、納得してもらうまでが大変でした。僕としては、当時の雰囲気を活かせるように考えていました。

倉橋：美術としては生活感、土くささ、ですね。各話ごとに違うテイストにしようと思っていました。

――各話違うテイストの美術を描くにあたってどんな変化を考えましたか。

倉橋：最初のほうは、地獄に近い雰囲気で、鬼太郎も妖怪的なんですけど、後半はだんだん都会へ出ていく。地獄は色

漫画の背景がしっかり描かれているので そのままを再現しようと思いました(本間)

倉橋隆のこのシーン、このカット

▲日常の風景に違和感のある色づかい。画面の中に緊張感をもたらす美術がすばらしい！

第1話の日常シーン。「昼と夜のモノクロの感じがいいですね。日常の背景に、違和感のある色を差し込んでいます。仕上がった絵を壊しそうな色彩を混ぜるということは、とても勇気のいることなんですが、美術の保坂有美さんの背景の上がりがすごくよくて。こういう挑戦ができたのは楽しかった」

も派手なんで、日常の風景にも、地獄的なちょっと非現実的な色を差し込んでいます。第6話以降は、少しずつ現実に近づいています。

――辻田さんの色設定はどんなふうにすすめていきましたか。

辻田：原作は漫画なので白黒ですよね。でも、白黒の中にも色がイメージできるわけです。その色を再現していきました。まず、統一のイメージをつくるために、「鬼太郎の階段で見返り」の絵に色をつけました。フィルターが入るので、微調整するよりも、それが「墓場鬼太郎」の世界観なんだと、割り切って。チャンチャンコの黄色を版ズレのようにズラすことや、彩度のバランスは、すべてこの絵が基本になっています。チャンチャンコの黄色、寝子のスカートの赤というキャラクターごとの色調はあらかじめ決めていました。

――みなさんのお仕事で、印象的なものをひとつあげるとしたら？

辻田：全部の話にポイントがあるんですが、やはり寝子のシーン。5話の最後、鬼太郎を部屋の中に入れないシーンで、部屋のコントラストがすごくよくて。各話の色指定の秋元由紀さんががんばってくれました。

――白い寝子の影のグラデーションは、辻田さんの発案だそうですね。

辻田：原作で白いですからね。あれを見せたら、みんなが「おっ！」と言ってくれたのでよかったです。

森田：撮影はタツノコプロさんにお願いしたんです。どの話数も大変な作業をやりきっていただいた。感謝のことばしかないです。

本間：作業的に楽しかったのは6話です。フィルターをちょっと変えています。第6話は水神様のいるあたりの背景を描いたんですけど、かなりおもしろく描いたつもりです。

ラストシーンは、僕がなんとなく「実写でいいんじゃないですか」と言ったんです（倉橋）

▲墓場フィルターをかけると色が変化し、ざらざらとした質感がくわえられる。この色の変化をつかむことが、色彩設計では重要だ。

▲墓場フィルター前の鬼太郎の彩色。フィルターによる変色を逆算して色が設計されている。

色彩設計

色彩設計の仕事とは？

仕上げ、着色のときにどの色を使うのかを決定する、色彩面での責任者。かつては絵の具の種類が限られていたため、高度な職人的な技量が問われました。現在はデジタル彩色になったため、あらゆる色が使用可能。高度なセンスも重要となっています。昨今はCGによるフィルターの作品も多いため、各部署との連動が重要になりつつあります。

辻田邦夫 Kunio Tsujita

●つじた・くにお／ 1963年生まれ、東京都出身。"聖闘士星矢"シリーズ、"金田一少年の事件簿"シリーズ、「ご近所物語」「花より男子」、"おジャ魔女どれみ"シリーズ、劇場版「CLANNAD」などのヒット作で色彩設計として活躍する。

実写の林立するビルが、墓標に見えるという解釈もあるようです（辻田）

CG

▲墓場フィルターがかけられた画面。まるで古本に印刷されたカラーページのような質感がある。

▲通称・墓場フィルターはキャラクターにかけるものや背景にかけるものなど、複数用意されている。

CGの仕事とは?

いまやアニメは手描きだけでなく、高度なデジタル処理のうえでつくられています。ひとくちにCGといっても携わるパートは広いです。3DCGモデルでキャラクターを描いたり、画面全体にフィルターをかけることもあります。また作品によっては3DCGで空間設計（レイアウト）をつくることも、テクスチャーを衣装に貼ることもあるのです。

森田信廣 Nobuhiro Morita
●もりた・のぶひろ／ 1967年生まれ、東京都出身。CG版「ゲゲゲの鬼太郎〜鬼太郎の幽霊電車〜」に参加。「デジモンアドベンチャー ぼくらのウォーゲーム」「怪〜 Ayakashi 〜化猫」「モノノ怪」でもCGディレクターとして活躍する。

倉橋：美術としてはやはり第1話ですよね。まだ、手探りでつくっていて、細かい調整をしていましたから。あと、第11話の千年に一歩歩く鳥の動くところは感動しました。

――ラストシーンの実写はどなたの仕事ですか?

森田：作業したのは僕ですが、いつのまにか実写になっていたんです。

倉橋：僕がなんとなく「実写でいいんじゃないですか?」って言ったんですよ（笑）。美術として、俯瞰の街を描きたくなくて（笑）。

辻田：みんなで集まって話したんだよね。実写にすると言ったら、プロデューサーがやたらと盛り上がって。

倉橋：意外とすんなり決まりました。実写の画像に、森田さんがいろいろ手を入れてくれたんです。

森田：小さな虫を動かしてます。

辻田：うちの奥さんは、あのシーンを深読みしていてね。林立するビルが墓標なんじゃないか、と。

倉橋：いい解釈じゃないですか!

辻田邦夫のこのシーン、このカット

▲鬼太郎と別れを告げる寝子。真っ白になった姿が衝撃的。透過光で表現されている涙が美しい。

第5話まではダークな色彩で統一されている。「前半の山場は寝子ちゃんのシーン。この第5話まではいろいろな制約を設けて、きっちりと色をつけていきました。第6話以降はかなり自由になっています。鬼太郎もだんだん人間くさくなっていくし、色彩面で細かくルールを決めなくても大丈夫だろう、と」

森田信廣のこのシーン、このカット

▲第8話「怪奇一番勝負」に登場する鬼太郎の手のシーンは、3DCGを使い分けている。

今回、3DCGでモデリングされているキャラクターは第2話の夜叉と第8話は背景が3D。「今回は3DCG的な部分はあまりなかったんです。第2話の夜叉とドラキュラ四世のバトルはCG対作画。作画スタッフとレイアウトの段階で綿密に打ち合わせています。技術的な部分より絵として楽しんでください」

音楽

和田薫

「ゲゲゲ」サウンドを手がけた和田薫が「墓場鬼太郎」の音楽に挑戦する！　和楽器を中心に編成された楽器群で織りなすドラマチックな音楽が「墓場鬼太郎」の世界を鮮やかに染め上げる。「墓場鬼太郎」の音楽はこうして生まれた。

──「ゲゲゲの鬼太郎」にも参加されたことがある和田さんが「墓場鬼太郎」に参加された経緯は？

和田：じつは僕が第四期の「ゲゲゲの鬼太郎」をやっているころに、当時のプロデューサーの清水慎治さんから「『墓場鬼太郎』をやりたい」と聞かされていて。「和田さん、これを読んどいて！」と原作漫画をわたされていたんです。

──じゃあ10年前から「墓場鬼太郎」の準備をしていた最古参のメンバーのひとり、と。

和田：そうですね。鬼太郎ファンの方ならご存じだと思うんですけど、僕が音楽を担当していた第四期は「原作の『鬼太郎』の世界を尊重しよう」というシリーズだったんです。原作を意識したスコア（楽譜）を書いた覚えがあります。今回の「墓場鬼太郎」ではもっとそこを突き詰めて、「有楽町であいましょう」的な昭和歌謡的なムードを出したいと思っていました。

──地岡シリーズディレクターとはどんな打ち合わせをしましたか。

和田：今回は全11話と短いストーリー構成だったので、音楽も多くないんですよ。大きくわけてキャラクター用の楽曲と、人間の業や目玉親父と鬼太郎の絆みたいなストーリー用の楽曲の2種類。20曲ぐらいをつくりました。

──今回、楽曲をつくるのに手がかりにした部分は？

和田：スタッフも顔見知りのメンバーなので、音楽メニューもいただいたんですけど、こちらからも提案させていただきました。演奏は、和楽器や伝統楽器を使っ

和田薫 Kaoru Wada

●わだ・かおる／ 1962年5月5日生まれ。山口県出身。東京音楽大学作曲科卒業後、渡欧。ヨーロッパを中心に音楽活動を行なう。帰国後は、アニメや映画、テレビ、舞台など映像音楽などに携わる。映画「忠臣蔵外伝四谷怪談」で、日本アカデミー賞音楽賞を受賞。邦楽器や民俗民謡をモチーフにした作品を発表するなど、多彩な活動を行なっている。

「墓場鬼太郎」のようなニヒリズムの哲学が徹底した作品は、音楽をつけるのが難しい

て……。たとえば、昭和30年代をイメージする楽曲はピアニカやリコーダーのような郷愁を感じさせる楽器を使いつつ。尺八、笛、琵琶、箏、能管、そういう楽器をかなり使いました。尺八だったら、「むら息」という息を吹くノイズを使ったり、「ヒシギ」という能管の高い音を鳴らしたり、琵琶をガシャンとかきならしたり、音やノイズを切ったり貼ったりしてつくっていったんです。「墓場鬼太郎」みたいな、ニヒリズムの哲学が徹底した作品は、音楽のつけようがないんですよね。ハマりそうな匂いを敏感に抽出して、楽曲をつくっていくのはおもしろかったです。

——ちなみに、レコーディングは順調でしたか？

和田：サウンドトラックで、よく聴いてもらえればわかるんですけど「地獄界」という曲で……念仏を入れたり、声明を入れたり、かなり罰当たりなことをしているんです。まあ、元気に仕事していられるんで、何かに祟られることもなく大丈夫かなと思いますが……。よく妖怪モノをやっていると事故が起きるんですよね。あ、いや……今回もありました。

——え？　何があったんですか？

和田：……まあ、知ってる人は知っているぐらいのお話にしておきましょう（笑）

オリジナルサウンドトラック
テレビアニメ「墓場鬼太郎」

価　格：3059円
発　売：2008年3月19日
発売元：キューンレコード

（収録曲）
1. モノノケダンス（TV edit）
2. ようこそ墓場へ
3. 墓場鬼太郎
4. 幽霊族
5. 忍びよる怪奇
6. 鬼太郎・凛
7. 人の世に生まれて
8. 奇譚
9. 欲望
10. ねずみ男
11. 楽しい土の下
12. アホな男
13. ガマ令嬢
14. 恋心
15. 哀歌
16. あの世の調べ
17. 死人の歌
18. 地獄界
19. 物の怪
20. 一番勝負
21. 夜明け
22. 絆
23. 鬼太郎譚
24. 墓場で会いましょう
25. snow tears —TV Mix—
26. 君にメロロン
27. 有楽町で溶けましょう

ようこそ墓場へ

「原作は読者によっていろいろな感想があると思うんです。だから、聴く人によってコミカルにも聴こえ、怖くも聴こえる、楽曲をめざしました。視聴者の知識や経験を刺激できるような楽曲になればと思っていました」

ねずみ男

「ねずみ男はどこに行ってもねずみ男なんです。だから『鬼太郎』の物語を象徴するような、汎用性の高い楽曲になるんです。音楽的には、ブルースのような田舎っぽさを入れながら、シニカルな印象を残しています」

墓場鬼太郎

「『墓場鬼太郎』の鬼太郎は、狂言回しの位置にいるんです。第四期『ゲゲゲの鬼太郎』のときは人間の味方でしたが、『墓場』の鬼太郎のテーマは、お化けの側に寄せています。マイナーのように聞こえつつメジャーという楽曲です」

和田薫の このシーン、このカット

第9話の吸血鬼ジョニーのギター演奏は和田薫本人によるもの。「妖怪が弾くギターですからね。上手くても、下手でもいけない。妖怪の気持ちをわからないといけない（笑）。大塚周夫さんが、ねずみ男になりきって歌ってくれました」

▲ギター演奏は3曲収録。和田薫は第4期の「ゲゲゲの鬼太郎」の吸血鬼エリートでもギターを演奏。

音楽の仕事とは？

アニメの楽曲は、映像よりも先行してつくられます。作曲家は、監督と音響監督から必要な音楽をまとめた「音楽メニュー」をもとに楽曲を制作します。ダビング（音響・編集）の段階で各シーンにあわせて音楽をつけていくのです。

オープニング／エンディング演出

中村健治

黄色と赤色の原色が鮮やか。テクノポップ「モノノケダンス」のグルーヴに乗って、漫画の世界がカラフルにポップに踊り出す。描き文字、セリフ、吹き出し、ダンス。この楽しいオープニングを手がけたのは、アニメ「モノノ怪」の監督・中村健治。モノノ怪がモノノケダンスする墓場鬼太郎！

中村健治 Kenji Nakamura

●なかむら・けんじ／ 1970年、岐阜出身。サラリーマン経験後、東映アニメーションに入社。演出家に。2006年に初監督作品「化猫」（「怪～ Ayakashi ～」）がヒット。「モノノ怪」で監督を務める。

――オープニングのポップなテイストはどんなアイデアだったんですか。

中村：電気グルーヴの「モノノケダンス」を聴いたら、すごくよかったんです。まじめなんだけど、ふざけてる。その矛盾感がよかったんです。そこで「墓場鬼太郎」本編の映像を見たら、渋くて、ハードな感じだったんです。「ならば、本編を原作のモノクロページだと規定してみると、オープニングはカラーページを映像化すればいいのかも」と考えたんです。そうすれば、原作のカラーも本編も両方満たされた作品に、結果なるんじゃないかと……。あと、大きかったのは「モノノ怪」でもごいっしょしたアニメーターの橋本敬史さんが参加してくれたこと。橋本さんのスキルなら何でもできる。音楽が3分の1、「墓場鬼太郎」が3分の1、橋本敬史さんが3分の1で、オープニングでできることと、やるべきことが見えました。

――絵コンテはどんなものですか？

中村：漫画のコマを参考にした、プランです。オープニングの絵はパッと見、原作と同じに見えるんですけど、見比べると、かなり違うんですよ。

――見ている人は、橋本さんが描いているとは思っていないですよね。

中村：そこが、カッコイイ！　橋本さんは水木先生の絵をタッチまで含めて、「忠実にアレンジ」するという難しい作業を、さらりとやってくれました。

――セリフのチョイスも絶妙でした。

中村：水木先生の世界観は、金がないとか、生活が苦しいとか、人権がないとか、世の中に対してぼやいているところがあって。いま世の中、あんまりよくないじゃないですか。時代とのシンクロ感もよかったですね。

――最後は実写ですね？

中村：「貸本漫画の世界がはじまるよ」と宣言したいと思ったんです。東映アニメーションの近くのお好み焼き屋の常連の娘さんに出演をお願いしまして（笑）。ファミリー感が出ましたね（笑）。

――エンディングはいかがですか。

中村：「寝子」の気分で聞くとしっくりくるなぁと。特に歌詞から、当時の中川翔子さんの女の子らしい気持ちと作品への思いを感じたので、そこはみなさんにじっくり聞いてもらおうと。本編のあとに、やさしい歌声を聴きつつクールダウンしてほしい意味もあります。そこに次週の予告とシナリオをコラージュっぽく流すという、わりと昭和40年代正統派な構成にしました。あと最後は、あの猫をどうしても出したかった。あの猫は地岡監督が凄くしつこく（笑）出してほしがっていたのと、中川さんのもつイメージが、何故か僕の中で重なったので、サービスで動いています。おふたりへのエールです（笑）。刺激的な本編を見たあと、ここでほっとひと息ついていただければと思います。

オープニングは、力が抜けたノリで作品の幅を広げたようと思いました

墓場鬼太郎ができるまで

ANIMATION SIDE

物価の高騰であんぱんを買えずに怒るねずみ男。ぶつかった鬼太郎を平手打ち。ねずみ男のビンタは「ビビビ」と音がする。

池垣首相から、吸血鬼ジョニーを退治してほしいと頼まれる。「鬼太郎君、日本国民のために立ち上がってくれまいか」

ねずみ男の前にクルマに乗った鬼太郎が登場。「チョコレートのひとかけくらいなら恵んでやってもいいぜ」

ねずみ男は就職先を探していた。そこで知り合ったのはキザな男ジョニー。ギターの調べにあわせ、ねずみ男が歌う。

第9話

霧の中のジョニー

DVD第四集 収録
2008年3月6日放送
脚本:長谷川圭一
演出:うえだひでひと
作画監督:岡辰也
美術:増田竜太郎

【あらすじ】

池垣総理から吸血鬼ジョニーを退治するよう依頼される鬼太郎。一方、ねずみ男はジョニーに雇われる。ジョニーはギターの魔力で鬼太郎を呼び出し、身体を溶かしてしまう。池垣首相の血を狙うジョニー。間一髪！ ねずみ男が隠して持ってきた、鬼太郎のしゃれこうべがジョニーを妨害。砂地獄に落ちてしまうジョニー。目玉親父は鬼太郎のしゃれこうべを救うとジョニーの館を燃やしてしまうのだった。

COMMENT

シリーズディレクター 地岡公俊

鬼太郎が人を助ける、唯一の話なんです。助ける理由もライスカレーを食べたいからなんですけどね(笑)。僕と演出のうえだひでひとさん(代表作「逆転イッパツマン」監督)にとっては、ねずみ男の話という印象でした。第9話にもなるとスタッフも2巡目に入り、大分慣れてきたこともあって、絵コンテや作画段階でアイデアをどんどん足していきました。注目はジョニーのギターですね。うえださんの描いた絵コンテの尺に合わせて、音楽の和田薫さんがギターを弾き、音に合わせて編集をしていきました。ジョニーの背後から光が差し込むカットはさまざまなスタッフが「もっと、もっと」と粘って調整した秀逸なカットです。

9 墓場鬼太郎名セリフ集 「イケガキ。そんなやつが政治をしとるのか。チェッ」(ねずみ男)第9話より

ジョニーは「1000人吸血プラン」を立てていた。
「ひやー、うんめえ！　あんたも一杯やりませんか？」

ジョニーのギターの調べにあわせて、眠っていた鬼太郎が動きだす。
「すばらしい音のミリキ……」

ジョニーが身体を溶かす薬液を注射し、溶けてしまった鬼太郎。ねずみ男は液体を壺に入れる。

ジョニーはトングラ国王に扮すると、池垣首相の血を吸いに行く。
「ハチピポッチ、イケガキ」

池垣首相に襲いかかろうとするが……。
目玉親父の機転によって、ジョニーの襲撃は失敗。

砂地獄にねずみ男を突き落としたジョニー。鬼太郎のしゃれこうべの攻撃を受け、ジョニーも砂地獄へ。

目玉親父が砂地獄に縄ばしごを下ろして、ねずみ男と鬼太郎の壺を助ける。
「あッ！　夢に見たナワバシゴ！」

ねずみ男のおならをかぎ、砂地獄に落ちたジョニー。館に火を放ち、ねずみ男と目玉親父は、鬼太郎を復活させる旅に出る。

ジョニーのトングラ国王姿

ジョニーのパジャマ

原作

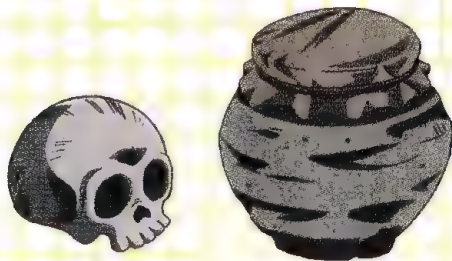
原作では、煙草を吸い、ギターをつま弾くキザな男として描かれている。「です・ます」調でしゃべり、一人称は「僕」。東京からクルマで5～6時間離れた隠れ家に住む。

霧の中のジョニー Johnny in the Mist

自称世界一の男前。150年前から日本に屋敷をかまえ、日本人の有名人を対象にした「1000人吸血プラン」を企てる。ギターの名手で、その音は人を惹きつける。無数の吸血コウモリをしたがえ、ねずみ男を秘書に雇う。

鬼太郎の全身骨格とツボ Kitaro's Body

ジョニーの薬液でコロリポンと肉体が溶けてしまった鬼太郎。骨格としゃれこうべだけが残された。恐山の霊水に3年漬けなくては肉体が復活しない。

墓場鬼太郎Q&A

Q 昭和30年代の政治とは?

A 鬼太郎が日本国総理大臣から指名されて、吸血鬼退治をする。驚きの展開が第9話では起きます。鬼太郎に依頼する首相は「池垣首相」。原作では、「池田首相」。実在する、池田勇人首相をモデルにしています。池田勇人は昭和35年（1960年）から昭和39年（1964年）にかけて3期にわたり首相を務めた、らつ腕。首相就任前に「貧乏人は麦を食え」という発言が問題になったこともありますが、「所得倍増計画」を発表し、高度経済成長の日本を牽引した張本人。昭和39年（1964年）の東京オリンピックを実現した偉大なる人物です。もちろん、その豪腕ぶりを批判する者も多く、昭和38年（1963年）、遊説中に暴漢に

霧の中のジョニー【第9話】

「もはや戦後ではない」と言われた昭和30年代。石原慎太郎が「太陽の季節」で芥川賞を取り、街にはロカビリーとロックンロールが流れはじめた。昭和33年には「日劇ウエスタン・カーニバル」が開幕。ギターを弾きながら、上半身を左右にクネらせて歌う、ロカビリーミュージシャンたちが女の子を夢中にさせた。そう、時代は変わろうとしていた。新しい価値観が社会に提案されたのだ。もちろん、その新しい価値観はすぐに受け入れられたわけじゃなかった。「太陽の季節」は風俗壊乱小説と批判され、ロカビリーミュージシャンは破廉恥で下品とバカにされた。しかし、確実に変革期が訪れていたのだ。

作品は時代を写す鏡。原作「墓場鬼太郎」においても、その時代の変化は作品に表われている。「霧の中のジョニー」はまさに、その新しい文化の到来を描いたエピソードだ。ギターを弾き語り、銀座のカフェでコーヒーを飲む、キザな男はまさしくニューウェーブ。「1000人吸血プラン」は、有名人を吸血することで、自分の存在を世界へ訴えかける革命といっていいかもしれない。最初に体制側の代表である、池垣首相の血を狙うというのも象徴的だ。

そんなジョニーを気に入ったのだろうか。水木しげるは「ゲゲゲの鬼太郎」の執筆時に、「霧の中のジョニー」を、「吸血鬼エリート」としてリメイクしている。「吸血鬼エリート」のストーリーやセリフは、ほぼ「霧の中のジョニー」と同じ。ビジュアルも大きな変化はない。

ただし、ちょっと違うのはジョニーとエリートの立ち位置だ。「霧の中のジョニー」に登場する吸血鬼ジョニーはアウトサイダーであり、自分の欲望のままに生きている男だ。生意気そうなセリフをしゃべり、キザでオシャレ。会話のときの一人称は「僕」と言う。

それに対して、エリートはその名が示しているように、金持ちの吸血鬼である。「ゲゲゲの鬼太郎」に登場するエリートからは、ジョニーのワイルドさは息を潜めているのである。エリートの「1000人吸血プラン」のターゲットも池垣首相ではなく、金持ちの社長。しかも、会話の一人称は「私」である。

この差がなんとも興味深い。

「吸血鬼エリート」は第一期アニメ版「ゲゲゲの鬼太郎」の第15～16話に登場。スパニッシュギターの演奏をする吸血鬼として描かれている。また、第四期の「ゲゲゲの鬼太郎」第57話にもエリートが登場。エリート役の声優をなんと俳優の佐野史郎が務め、ギターの演奏シーンでは、自分の歌声を披露した。

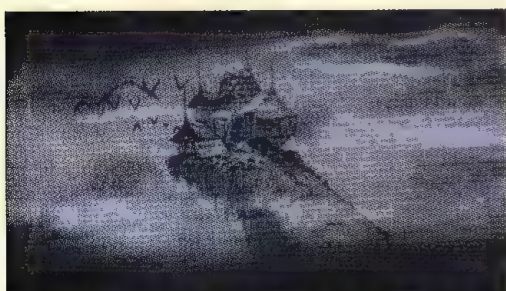
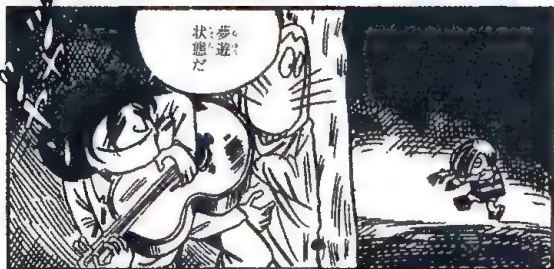
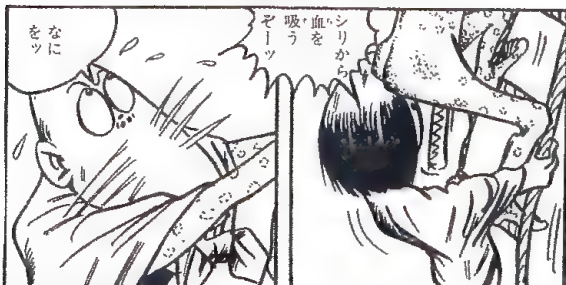
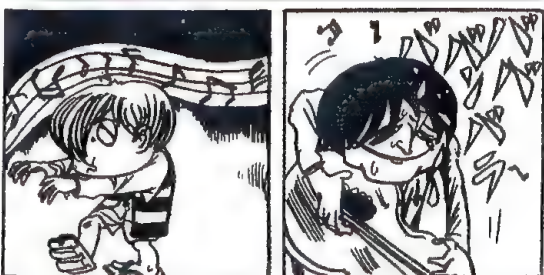
原作者に愛され、スタッフに愛され、ジョニーとエリートはどんどん活躍の場を広げていった。のちに子供向けの絵本として、「吸血鬼エリート」をリメイクした「吸血鬼チャランポラン」が登場。〝ゲゲゲの鬼太郎〟シリーズに欠くことのできない名物キャラクターとして成長した。

しかし、霧の中のジョニー／吸血鬼エリートの原点はやはり「墓場鬼太郎」である。今回のアニメ版によって、極彩色なビジュアルで描かれ、さらに世界を広げた元祖ジョニー。

「墓場鬼太郎」によって〝鬼太郎〟シリーズの原点と未来を一度に感じることができるのだ。

襲われるといった事件が起きたこともありました。彼ほどの人を悩ませるのですから、吸血鬼とはつくづく恐ろしい存在です。もし鬼太郎と目玉親父がいなかったらと思うと……何やらぞっとします。鬼太郎がいて本当によかったと思えるエピソードです。

池垣首相

◀日本の総理大臣。明晰な頭脳をもっているが、ジョニーに吸血予告をされてから、寝不足に悩んでいる。

▲霧に包まれたジョニーの屋敷。しゃれこうべでできた道に囲まれ、吸血コウモリが見守っている。

▲「霧の中のジョニー」より

▲「霧の中のジョニー」より

COMIC SIDE

アニメ版第9話「霧の中のジョニー」出典

「霧の中のジョニー」

初出:「墓場鬼太郎」(兎月書房、1962年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(4)収録

原作紹介

【霧の中のジョニー】

（「墓場鬼太郎シリーズ」／兎月書房より）

兎月書房での復帰第二作となる「霧の中のジョニー」は、「怪奇一番勝負」とはうって変わって、人間の味方となった鬼太郎と、吸血鬼・ジョニーの対決がユーモラスなタッチで描かれる。

ある日、腹を空かせて道端で座り込んでいた鬼太郎は首相秘書に声をかけられ、首相のもとへと連れて行かれる。「霧の中のジョニー」とみずからを名乗る「吸血鬼」を退治してほしいと総理じきじきの依頼であった。

一方、鬼太郎の悪友（?）ねずみ男は、新聞で妖怪の求人を見つける。その広告を出した者こそ、吸血鬼ジョニーであった。ねずみ男はジョニーと意気投合し、秘書として働くことになる。

ジョニーは、「1000人吸血プラン」として、日本の名士たちの血を吸うためのプランを立てていた。首相の護衛をしていた鬼太郎はジョニーの不思議なギターの音色に引き寄せられ、捕らえられてしまう。ジョニーに肉体が溶ける注射をうたれ、液体状になってしまった鬼太郎と、狙われる首相の運命やいかに――。

この作品では、ねずみ男が異例の大活躍を見せる。捕らえられた鬼太郎を味方になれば助かると説得したり、溶けた鬼太郎をスポイトで一滴残らずカメに保存しておく（防腐剤まで入れて！）など、意外と友情に篤いねずみ男の姿を見ることができるのだ。

吸血鬼ジョニーは、のちに「ゲゲゲの鬼太郎」でも「吸血鬼エリート」として登場する。ジョニーと同じく、ギターの音色による催眠術を操り、大臣を襲うのだが、その正体は大きなコウモリとなっている。

原作版をもっと楽しむ小話

ジョニーの吸血プラン

美女の血を求めて20年間世界中を飛び回り、日本に到着したばかりのジョニーは、吸血の狙いをさだめた人物をリストアップしていた。そこには、池田勇人（第58代から第60代まで内閣総理大臣を務めた。この作品でも実名で登場）、藤原あき（タレントであり1962年に参議院議員となった）、小林旭（「渡り鳥シリーズ」などで知られる日活の映画俳優、歌手）、司葉子（女優。1954年「君死に給うことなかれ」でデビューし銀幕のスターとなった）、手塚治虫（「鉄腕アトム」「火の鳥」で知られる漫画家）と、当時日本で実際に活躍していた有名人たちの名前がずらりと並んでいる。

意外にラブリー!?なジョニーの趣味

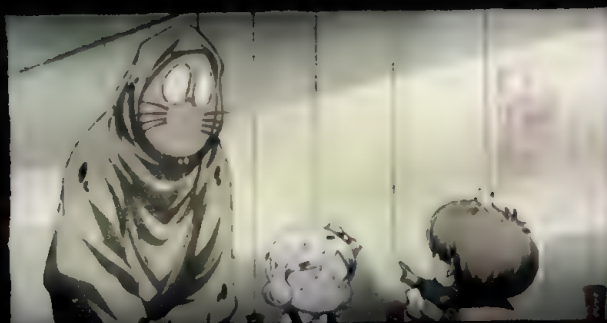
ジョニーの武器としてなくてはならないものが、音楽で人を催眠状態にして操ることができるギターである。このギター、よく見るとサウンドホール部分がハート型になっている。吸血鬼なので心臓にかかっていると見えなくもないが、海外帰りであるジョニーのオシャレ心とみるのがよいかもしれない。

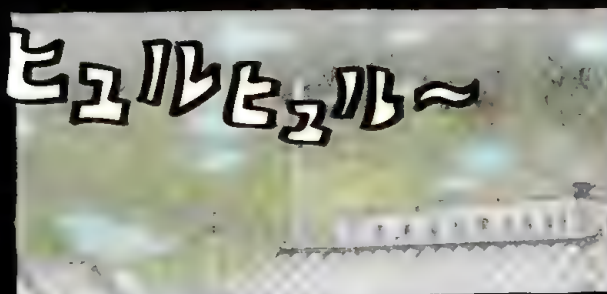
また、ジョニーが部屋で眠っているシーンがあるが、布団には「KYUKETUKI」の文字が描かれている。人の生き血を吸う恐ろしい吸血鬼ジョニーだが、お茶目な一面もあるようだ。

ねずみ男のおならの威力

不潔なことで知られるねずみ男だが、作中、その屁の威力について詳細な解説がなされている。「その強力なガスは鼻を紫色にしこれをまともに吸えば心臓は一時停止しなければもたなくなるほどの悪臭」と評されるねずみ男の屁は、普通の人間であれば即、死に至る強力な兵器なのだという。

ジョニーはその屁を思い切り吸い込んでしまうのだが、何百年も生きた吸血鬼であったため、気絶しただけで済んだのである。

① アイデアに詰まった漫画家の水木は、漫画のネタにするために、鬼太郎とねずみ男を家に招いた。

② おフランスの大学を卒業した才女カロリーヌちゃんをめぐって、ねずみ男と鬼太郎の恋のバトルが勃発。

③ 寺にカロリーヌちゃんとガモツ博士がいた。
ガモツ博士によるお化け大学の受験講習会が行なわれるのだ。

④ そのとき、東京をブリガドーン現象が包み込んだ。
巨大な黒い雲の中は、お化けの世界になってしまう。

第10話

ブリガドーン

DVD第四集 収録
2008年3月13日放送
脚本:堤泰之
絵コンテ:佐藤順一
演出:羽多野浩平・佐藤順一
作画監督:袴田裕二・窪秀巳
美術:枚浦正一郎・大谷正信

【あらすじ】

超常現象ブリガドーンの研究家・ガモツ博士が来日した。時を同じくして、東京に台風のようなブリガドーン現象が襲う。ブリガドーンの中は妖怪が暮らす世界。人間の水木一家は、未知の生活を送ることになる。ガモツ博士の娘のカロリーヌちゃんに夢中の鬼太郎はガモツ博士のお化け大学へ入学する。ガモツ博士は妖気発生器でブリガドーンを起こしていた。目玉親父はガモツ博士と対決する。

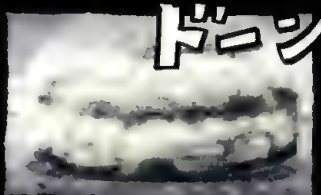
COMMENT

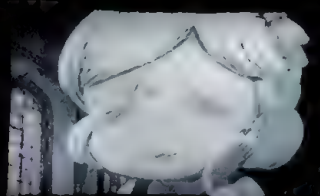
シリーズディレクター 地岡公俊

いきなり鬼太郎がカロリーヌちゃんに夢中で「寝子ちゃんはいいのかよ(笑)」と。当然、シリーズ構成の成田良美さんたちと打ち合わせをしているときに、カロリーヌちゃんの問題は浮上したのですが、「大丈夫です!」ということで進めました。本命は寝子ちゃん、カロリーヌちゃんは彼女ぐらいのニュアンスですかね(笑)。カロリーヌちゃんをねずみ男と鬼太郎が取り合うという構造がおもしろいので、脚本の堤泰之さん(劇作家)に会話のおもしろさを出していただきました。第10話は妖怪よりも右往左往している人間のほうがおもしろい。人間が主人公の話です。最後のブリガドーンの消滅のカットは原作を尊重しました。

10 墓場鬼太郎名セリフ集 「科学万能を信じすぎるからこういうことになるのです」(トムポ)第10話より

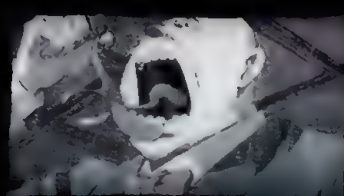
ブリガドーンの正体を知るため、目玉親父は鬼太郎に、お化け大学入学を命じる。「カロリーヌちゃんも大学出じゃないと結婚しないって言ってたらしいしなあ」

ブリガドーン現象に巻き込まれた水木家に、ガモツ博士がやってくる。「お宅を大学の教員室として使用させていただきたい」

正体不明の巨大なスモッグに包まれた東京。外部と遮断されてしまった。

お化け大学で妖怪たちに囲まれる鬼太郎。
「おまえ、お化けの国の建設に反対しているらしいじゃないか」

⑩ ビビビと平手打ちされ、倒れた鬼太郎をカロリーヌちゃんが看病する。「私ダメな男が好みなの」

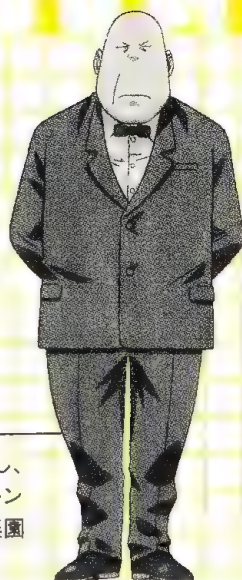
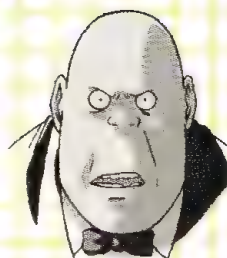
チベットの高僧トムポが日本に呼ばれた。千里眼で、ブリガドーンの中をのぞく。「科学万能を信じすぎるからこういうことになるのです」

⑬「あなた今日も鬼太郎さんたちには会えなかったの?」
「ああ、もう二度と会えないかもしれない……」

⑫ いきなりガモツ博士は妖気放出機へ飛び込む。目玉親父が博士の脳の中で操ったのだ。ブリガドーンは止まった。

カロリーヌの部屋の隣には、ガモツ博士の妖気放出機があった。ガモツ博士は鬼太郎に襲いかかる。目玉親父をペロリ。

CHARACTER

カロリーヌ Caroline

おフランスの大学を出た才女でガモツの娘。鬼太郎とねずみ男が思いを寄せている。大学出じゃないと結婚しない、というわりに「ダメな男が好き」。

トムポ Tompo

日本国政府がチベットから呼び寄せた、千里眼。ブリガドーンの中を透視させる。

ガモツ博士 Dr.Gamotsu

ブリガドーン現象の研究をしてきた学者。来日し、ブリガドーンを定着させようとする。ブリガドーン発生後は、怪奇大学を開設。地上にお化けの楽園を建設しようとした。

アドバラナ Adobarana

南方から来たお化け。異様な姿形をしているが、昭和30年代の日本においては「お化けファッション」として受け入れられる。

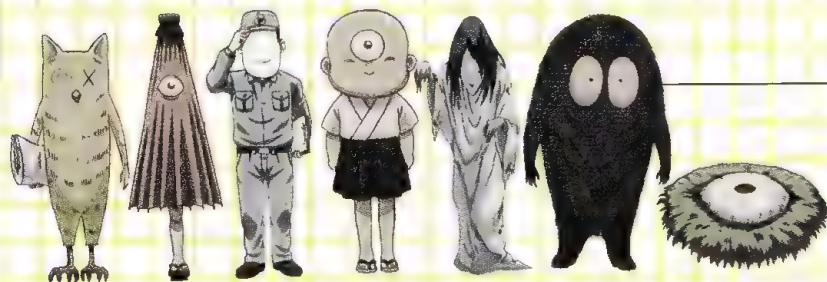
おばけの先生のみなさん Ghost Teachers

ガモツ先生が呼び寄せた、古今東西の有名なお化けのみなさん。お化け大学の講師として働く。

おばけのみなさん Ghosts

ブリガドーン現象の中で、現われたお化けのみなさん。日本古来のお化けから「人魂プロパンガス」の集金お化け「お化けタイムス」の編集者までさまざまなお化けがいる。

墓場鬼太郎 Q&A

Q ブリガドーンって何ですか？

A 東京を覆い尽くす謎の雲。その中は妖怪たちの楽園。このブリガドーン現象は、気圧、気温、湿度、風速などの気象条件がある一定になると起きる自然現象です。2～300年間起きないこともあれば、連続して起きることもあるといわれています。ブリガドーンが一度発生すると、奇怪な生き物のように異様なうなりを発し、定着するまで移動をし続けます。定着すると、外からブリガドーンの中には入ることができません。100メートルにわたるスモッグと深い闇。外から侵入した人はスモッグに漂う「霊素」の影響を受け、錯覚を起こしてブリガドーンの外に出てしまうというのです。また、ブリガドーンは定着したあとも、1時間

ブリガドーン【第10話】

農村から都市へと展開してきた「墓場鬼太郎」。最終回直前になって、いよいよスケールは巨大化。なんと都市をまるごと包み込む、謎の雲と対峙することになる。SF作家・小松左京の小説「首都消失」ならぬ、「東京消失」。ブリガドーンの内部と連絡が途絶し、お化けの楽園になってしまうという展開は見ごたえたっぷりだ。

ブリガドーンということばを調べると、1954年にジーン・ケリー主演でミュージカル映画化された「ブリガドーン」という作品に行き当たる。これはスコットランドの伝説をモチーフにした作品。ハイランド山中で100年に1度、現われる幻の村に迷い込んだビジネスマンたちが恋に落ちるという物語だ。ファンタジックでドリーミー。まさしくミュージカルらしい題材だが、おそらくこれが「ブリガドーン」のモチーフであったらしい。

ブリガドーンのアイデアは「ゲゲゲの鬼太郎」でも登場する。たとえば1966年に発表された原作「ゲゲゲの鬼太郎」のエピソード「妖怪大戦争」では、「ブリガドーン」によって西洋の妖怪が日本にやってくるという展開が描かれている。しかし、残念なことにアニメ版「ゲゲゲの鬼太郎」（第一期）の「妖怪大戦争」では「ブリガドーン」のくだりはまるごとカットされている。また、1986年に映画化された「ゲゲゲの鬼太郎 妖怪大戦争」においても、「ブリガドーン」の描写はない。ハレー彗星にあわせて西洋妖怪がやってきたという設定になっていたのである。

したがって「ブリガドーン」が真正面から堂々とアニメ化されたのは、今回が初めて。絵コンテを担当したのは、ベテラン・佐藤順一。いまやアニメ〝ケロロ軍曹〟シリーズの総監督をつとめ、「新世紀エヴァンゲリオン」にも参加している腕利きだ。演出は羽多野浩平。まるでパニック映画のような展開と絵づくりは、彼の面目躍如。作画と美術、CGのスタッフもすばらしい腕前を発揮し、「ブリガドーン」の異空間を圧倒的な描き込みでまとめている。ざっくりとした筆づかいで描かれた建物を、不気味な色づかいの妖気が包み込む。濃厚な背景美術と、画面中を飛び交うデジタル撮影処理による人魂の描写は、まさしく異界に迷い込んだ気分を味わえるだろう。

そのブリガドーンの中に取り残される水木の家族もまた、おもしろい。あきらめて妖怪とともに生きる覚悟をあっけなく決め、いつしか同化していくのだ。漫画家として「妖怪タイムズ」に連載をしようとするのも「切り替え、早っ！」と笑えるシーンになっている。「ブリガドーン」が終わる、ラストシーンの2色反転の白抜きカットは、原作のアイデアを活かしたもの。「ブリガドーン」という異常現象のラストを飾るのにふさわしい、トリッキーな演出である。

「ブリガドーン」に包まれた街と連絡が取れなくなり、パニックにおちいる外部の人々は、「ブリガドーン」を「異常スモッグ」として取り扱う。たしかに、当時は都市に発生する「スモッグ」が「公害」として問題になっていた時代。ただのサスペンスではなくて、社会問題への目配りも忘れていない。そこが「墓場鬼太郎」らしいところ。水木しげる作品は解釈の余地がたくさん用意されている。だからこそ、いつの時代に見てもおもしろいのだ。

に1ミリの速度で拡大していき、最後には都市を丸ごとブリガドーンで包み込んでしまいます。

この恐るべきブリガドーン現象の研究第一人者はガモツ博士。何代も前から数千年にわたり、ブリガドーンを研究してきたそうです。彼はブリガドーンの中に、お化け王国をつくろうとしており、全世界でブリガドーンが起きそうな場所を探しています。第10話で日本にやってきたのは、お化け王国建国のためだったのです。

▲ブリガドーンは徐々に広がっている。人々はそれを防ぐ術もなく、ただ見守るしかなかった。

三つ目の男

▲「ボクは新入生」より

COMIC SIDE

アニメ版第10話「ブリガドーン」出典

「ボクは新入生」

初出:「墓場鬼太郎」(佐藤プロダクション、1964年)

▲「ボクは新入生」より

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(5)収録
定価740円(税込)
文庫判

原作紹介

【ボクは新入生】

（『墓場鬼太郎シリーズ』／佐藤プロより）

佐藤プロ版の「墓場鬼太郎」は、「おかしな奴」「ボクは新入生」「―怪奇オリンピック―アホな男」の3作品が読み切りとして刊行された。「おかしな奴」では、再度、鬼太郎の生誕が描かれている。実質的な〝墓場鬼太郎〟シリーズ第一作となる「幽霊一家」（「妖奇伝」兎月書房より）と話の筋はほぼ同じだが、鬼太郎の目がつぶれた理由など若干の違いがあり、アニメーション版の第一話はこちらを下敷きにしているようだ。

「ボクは新入生」は、のちに「ゲゲゲの鬼太郎」で「朧車」として改作される作品。このストーリーの主軸となる「ブリガドーン」現象の設定は、鬼太郎たち日本の妖怪が、西洋妖怪と戦いを繰り広げる「妖怪大戦争」（「ゲゲゲの鬼太郎」）にも登場する。

この作品では、なんと作者の水木しげる自身が登場する。喫茶店でみずからが描いてきた鬼太郎本人に出会った水木は、いっしょに住んで行動を観察していれば漫画のネタに困らないだろうと、鬼太郎たちを自宅に招くのである。

しばらくして、南方からあらわれた異常な気象現象「ブリガドーン」に調布市がすっぽりと包まれてしまう。取り残された水木一家が眼にしたのは、お化けが跋扈する、白昼夢のような世界であった。

鬼太郎は、ガモツ博士が主宰する怪奇大学に入学し、ブリガドーン発生の秘密を探ることになる。

この作品には、ドラキュラや狼男、南方のお化けアドバラナなど、じつにさまざまな種類のお化けが登場する。街はみるみるうちに妖怪たちの天下となり、水木家には、傘化けやひとつ目小僧といったちびっこ妖怪たちが娘を訪ね「遊ぼう」といってやってくる。ガスは人魂を応用した「人魂プロパン」だし、水木に漫画の原稿依頼をするのは妖怪の新聞「お化けタイムス」だ。

最終的に、鬼太郎（というよりは目玉の親父）の活躍で、ブリガドーンを地上に定着させていた妖気放出機を止め、水木一家は無事にもとの世界へと戻っていく。しかし、水木はその後もほのかな期待とともに喫茶店のドアを開ける。ブリガドーンの不思議な世界は、再び迷い込んでみたいと思わせるような、怪しくも心惹かれる、得体の知れない魅力をもっているのだ。

原作版をもっと楽しむ小話

ねずみ男の名セリフ

冒頭、漫画のアイディアにつまった水木は喫茶「ホームラン」にコーヒーを飲みに行く。水木はそこでチンピラに絡まれてしまうのだが、それを助けたのがねずみ男と鬼太郎であった。

「ケンカはよせ、腹がへるゾ」という名セリフはこのときにねずみ男が発したもの。エッセイなど、水木しげるの漫画以外の著作や特集でもたびたび引用される名言である。力の抜けた、しかし真理をつくような独特の名言が、水木作品にはたびたび登場する。

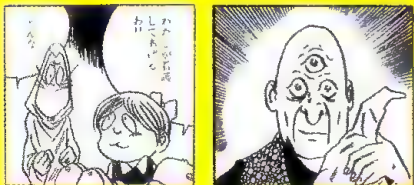
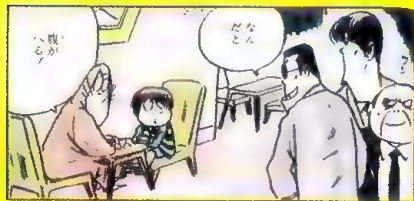
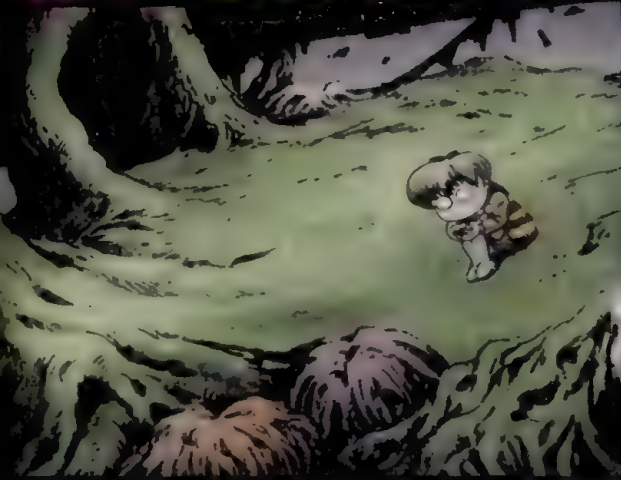
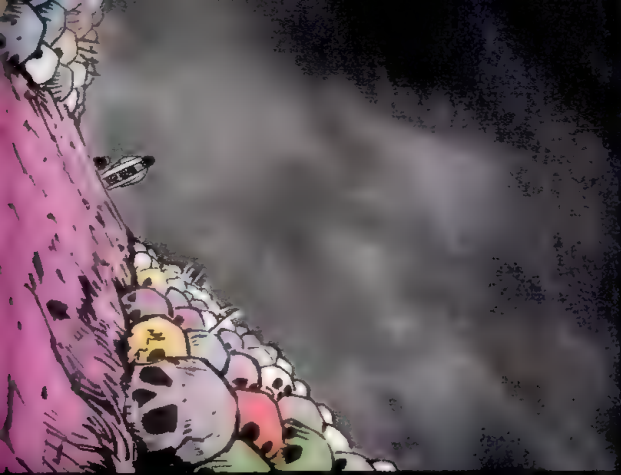
チベットから来た怪僧の名前

アニメーション版では作家の京極夏彦が演じ、話題となったチベットの怪僧。原作では、千里眼をもつこの僧の名前は「チンポ」となっている。どのような意図でこうした名前になったのかはわからないが、作中でこの「チンポ」は、いたって真面目なシーンを真面目にこなして帰っていく。

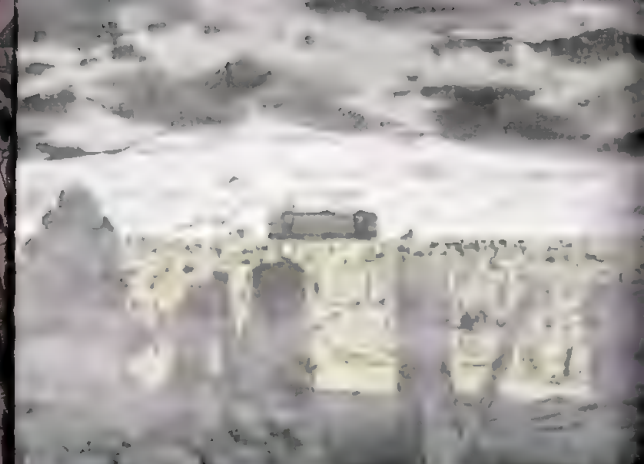
「ゲゲゲの鬼太郎」では、同じ名前だがまったくの別物として南方妖怪の「チンポ」というお化けが登場する。こちらは、「名は体を表わす」とでもいうべき造形をしており、溢れる水木イズムを感じさせる大胆さが魅力の妖怪である。

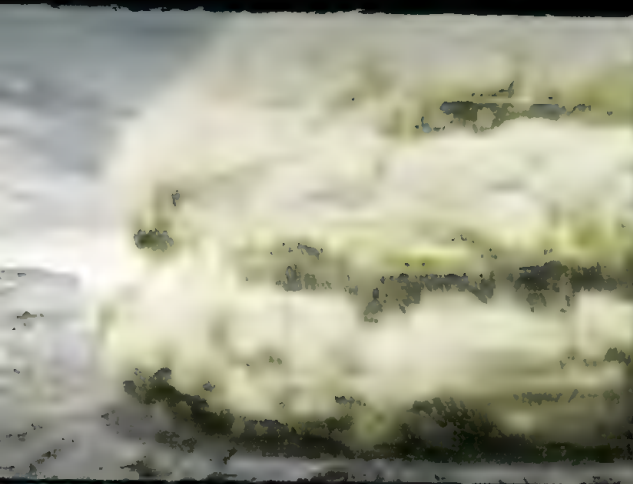
ガモツ博士の娘、カロリーヌ

この作品では、ねずみ男と鬼太郎の両方が夢中になるヒロイン、カロリーヌが登場する。彼女はブリガドーンを研究し、お化けの帝国をつくり上げようと目論むガモツ博士の娘。「大学出じゃないと結婚しない」とねずみ男を冷たく突き放す半面、怪奇大学の先輩に入学早々ボコボコにされてしまった鬼太郎を介抱するやさしい一面も見せる。こうした「飴とムチ」がモテる女の秘訣だろうか。

地獄めぐり

墓場鬼太郎ビジュアル解説

地獄

地獄の世界は、錆びたような色彩の洪水。空は暗く、稲光が輝いている。地面や植物は赤紫色や青、抹茶のような緑色とどことなく和風の色づかいがなされている。ただし、筆づかいは、水木しげるのタッチを受け継いだ、荒々しい劇画調。線は荒々しいが、色はポップ。そのミスマッチが人間界に二度と戻ることのできない、はるか異世界を感じさせるのだ。

幽霊列車

鬼太郎の運転する幽霊列車は地獄と同じ色彩をしている。列車そのものは1両編成。明治時代の路面電車を思わせるデザインである。山吹色の賽の河原や、紫色に照らされた車内など、狂気を思わせる色彩の中、電車は終着駅へと向かっていく。時間を超え、空間を飛び、未知の恐怖を味合わせる鬼太郎の魔術。はたして終着駅には何が待ち構えていたのだろうか。

ブリガドーン

ブリガドーン現象下は妖怪の楽園。人魂が飛び交い、空は謎のスモッグで覆われている。ブリガドーンの美術は独特。分厚い空のスモッグは、荒々しい油絵ふう。この世に存在しない空の色、黄緑色に塗られている。人間の立てた住居は、かすれた線のモノクロ線画で描かれており、生命力を失っているかのようだ。ブリガドーン現象下に人間の生きる場所はない。

ANIMATION SIDE

1 鬼太郎は"あの世保険"という「気高い金賭け」をはじめる。一方、ねずみ男は自分のヒゲを入れた、毛生え薬をつくっていた。

2 病に伏せる落葉親分に薬を飲ませると、たちまち若返る。「マグロのトロが食べたい」「焼きたてのビフテキが欲しい」

3 トロ、ビフテキ、中華料理……ペロリとたいらげる。「歯が生えてきている！」と医者もびっくり。

4 落葉親分は、"ねずみ男のヒゲ"を手に入れて、不老不死の薬として販売することを考える。

第11話

アホな男

DVD第四集 収録
2008年3月20日放送
脚本：成田良美
演出：地岡公俊
作画監督：山室直儀
美術：くらはしたかし

【あらすじ】

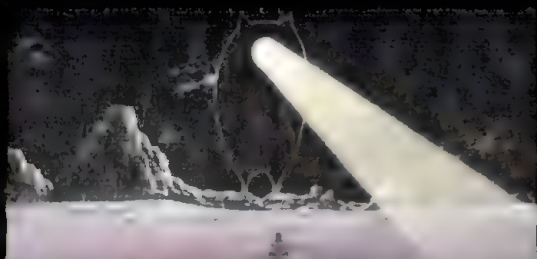
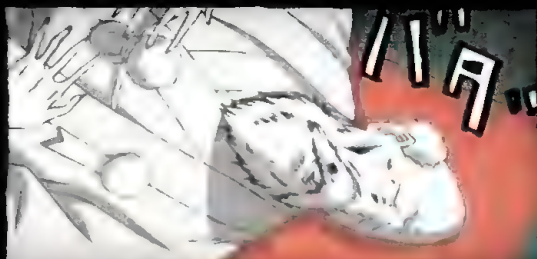
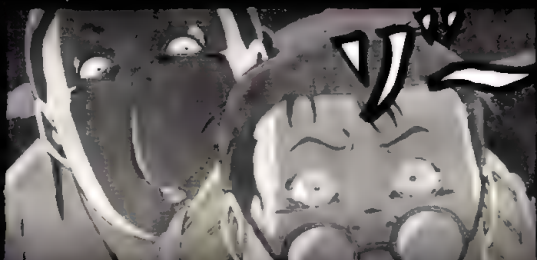
鬼太郎は"あの世保険"という保険詐欺をはじめ、ねずみ男は"毛はえ薬"を売り歩いていた。落葉親分は"毛はえ薬"を飲み、不老不死となる。親分は、ねずみ男を捕らえて一攫千金を企むが失敗。ヒゲを切られて死んでしまう。一方、鬼太郎は水木に"あの世保険"を売りつける。あの世で、水木と落葉親分、そして不老不死薬を追う医者はのんびり"怪奇オリンピック"を観戦するのだった。

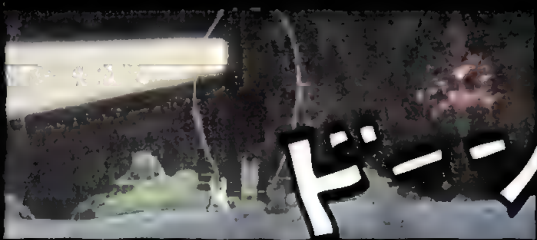
COMMENT

シリーズディレクター 地岡公俊

この原作は非常にネーム（セリフ）が多いエピソードなんです。その感覚を映像で再現するために、最終話では、なるべく文字のエッセンスを重視して演出しています。鬼太郎とねずみ男の会話に止め絵の文字のカットを入れているのも、その効果のひとつですね。「墓場鬼太郎」というアニメ作品はここで終わるんですが"鬼太郎"シリーズはここからはじまる。「墓場鬼太郎」の舞台が「農村から都市」に移ってきたように、鬼太郎が次なる世界へ向かっていく。「絵から文字、文字から文化」と物語が語り継がれていく。ラストカットにはそんな気分を込めています。

落葉親分に捕まり、ヒゲを切り取られそうになった、ねずみ男。金庫室に閉じ込められるが……くさーいおならで脱出。

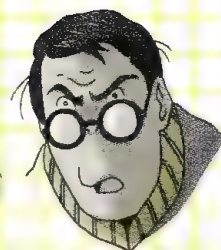
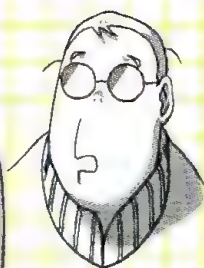
鬼太郎は水木に"あの世保険"を売る。
「怪奇オリンピックの招待券をプレゼントいたします」

怪奇オリンピックのチケットを飲んだ水木は、死者の声を聞く。そして、下水に飲み込まれ、あの世へ行くのだった。

落葉親分のヒゲを切ると、たちまちもとの老人に。
「俺のヒゲ、返してもらうぜ」

水木にすり替わった霊は現実の辛さを知り逃げだそうとする。
「あなた、何してるの？　うんと働いてくださいね。死ぬまで」

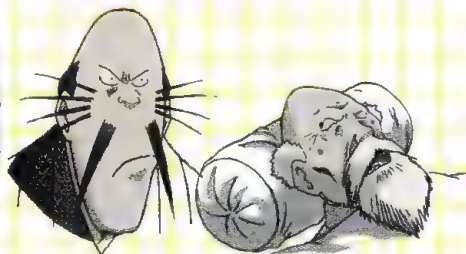
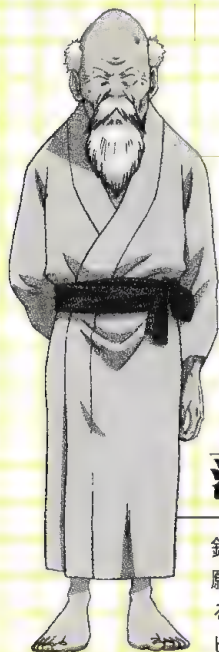
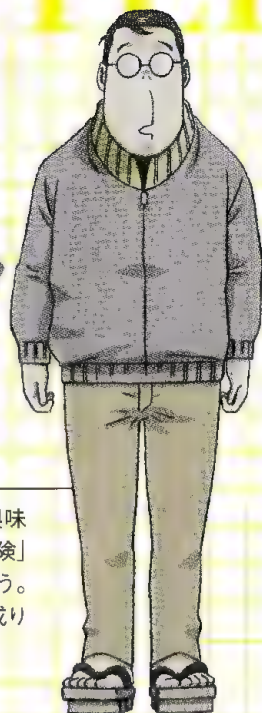
怪奇オリンピックから帰ると、もうひとりの水木がいた。
「俺は完全にすり替えられたのか」

そのとき、1000年に一歩歩く鳥が歩いた！
「あの世もこの世も関係ない。その気になれば生きがいはどこでも見つけられますよ」

不老不死を求めた落葉親分と医者、そして"あの世保険"に加入した水木。金も権力も名誉も必要なくなった。

鬼太郎とねずみ男は街へ消えていった。
「人間世界で生きていくのも、楽じゃねえなあ」
「でも、退屈もしねえよ」

水木の妻と子

水木の少ない給料で細々と暮らしていた親子。実は水木に対しては厳しい鬼嫁だった。鬼太郎とねずみ男を嫌う。

水木 Mizuki

死後の小説を書いており、死後の世界に興味がある作家。鬼太郎が営業する「あの世保険」に入り「怪奇オリンピック」の招待券をもらう。あの世から帰ってくると、何者かが自分に成り代わっていた。

落葉喜之助 Ochiba Kinosuke

銀座を根城とする落葉組の大親分。不老不死を願うばかりに、ねずみ男の毛生え薬を飲み、若返る。ねずみ男によって、あの世行き。「怪奇オリンピック」を観戦する。

院長 Doctor

不老不死になるというねずみ男の毛生え薬を求めているうちに、あの世に迷い込み「怪奇オリンピック」を観戦することに。

墓場鬼太郎 Q&A

Q 鬼太郎はどこへ消えたのですか？

A 「墓場鬼太郎」の物語は第11話で終わり。最後に現代の都市の中へと消えていきます。おそらく鬼太郎は、より人間と親しむことで、人間性を獲得し、「ゲゲゲの鬼太郎」のようなヒーローに成長したことでしょう。いや、もしかしたら、日本を飛び出して海外に向かっているかもしれません。

ちなみに原作「墓場鬼太郎」では、もうひとつのストーリー「ないしょの話」というエピソードが、アニメ化されずに残されています。これは幻の怪獣・ゼウグロドンをめぐる、日本を飛び出したスペクタクルストーリーとなっています。そこに鬼太郎はいるのかも……。

いや、実はそんなことはなく、ずーっと貧乏暮らしをしているか

アホな男【第11話】

「墓場鬼太郎」の物語もこれでおしまい。最終回となる「アホな男」は、原作の「―怪奇オリンピック―アホな男」をアニメ化したもの。いち時代の終わりを告げる、象徴的なエピソードだ。なぜなら、この「―怪奇オリンピック―アホな男」には、日本中を興奮させた大イベントが盛り込まれているからである。それは――。

1964年、第18回オリンピアード競技大会、通称「東京オリンピック」が行なわれた。当時の首相は池田勇人。第二次世界大戦終戦から19年後、日本が復興をとげ、国際社会への復帰をアピールするための、国家事業であった。アジアではじめてのオリンピックである。当時の予算として280億円以上（いまの物価の10分の1の時代である）が計上され、日本全土に大改造が行なわれた。東海道新幹線が日本を縦断し、高速道路が整備された。羽田と東京間には東京モノレールが引かれ、東京の道は拡大化した。あちこちに競技場などの施設が建設され、高級ホテルが立ち並ぶ。お茶の間においても、白黒テレビからカラーテレビに買い換える家族が続出し、オリンピック景気と呼ばれる好況期が訪れた。まさしく世界が変わり、社会が変わり、日常が変わる瞬間を、当時の人々は目撃したのである。

しかし、そのオリンピックを何人が喜んで受け入れたのだろうか。高度経済成長という名の下に人々はモーレツ社員として24時間働き、のちに「過労死」と呼ばれるような状況があとを絶たなかった。また、急速すぎる工業化、都市化の影響でスモッグなどの「公害」が起きるようになっていた。あらゆるものに光と影の両側面があるように、オリンピックという成功の裏側には、確実に社会を蝕む悪影響があったのだ。

「墓場鬼太郎」では、そのオリンピックの時代を、裏側から描いている。幽霊というアウトサイダーの視点から見た、独自のオリンピック観を展開しているのだ。

「墓場鬼太郎」において、登場人物たちは、あの世で「怪奇オリンピック」を観戦することになる。あの世では働く必要もなければ、食べ物を食べる必要もなく、長生きしようとする必要もない。生物としてのあらゆる義務から解き放たれた自由な空間。その自由な空間で観戦する「オリンピック」の楽しいことといったら！　水木、落葉親分、医者は本当の自由をあの世で知る。

「欲に縛られていると、のんびり楽しめないものです。あの世もこの世も関係ない。その気になれば、生き甲斐はどこでも見つけられます」

目玉親父が水木たちに諭すセリフが身にしみる。人間界にとどまらず、どこにいても幸せは見つけられるというオチにもっていくのも、皮肉が効いている。財産、権力、名誉にしばられることなく、生きるということ。その水木イズムを、目玉親父は伝えているのだ。

すべてを捨てて、真の自由を得た水木たちが見たもの――それは1000年に一歩だけあるく鳥の、奇跡の一歩だった。原作では歩かなかった鳥が、アニメ版では歩く。その瞬間はなぜだか無性に感動的だ。財産も、名誉も、権力も、すべてに縛られることなく、ただアニメを楽しむ。そうすれば作品をもっと楽しめるはず……そう、目玉親父は言いたかったのかもしれない。

もしれません。なんにせよ「墓場鬼太郎」は終わっても「鬼太郎」の物語は続きます。これまでに「ゲゲゲの鬼太郎」が五期にわたって、シリーズ化しているように、日本人の精神の原風景には、妖怪やお化けの存在が欠かせません。おそらくこのアニメ版〝墓場鬼太郎〟シリーズも、今後語り継がれていく物語になるのでしょう。

きっと、あなたの隣に鬼太郎とねずみ男、目玉親父はいるのです。

▲ラストカットは現代の都市。画面にうごめく粒は、妖怪や人間を現わしているという。

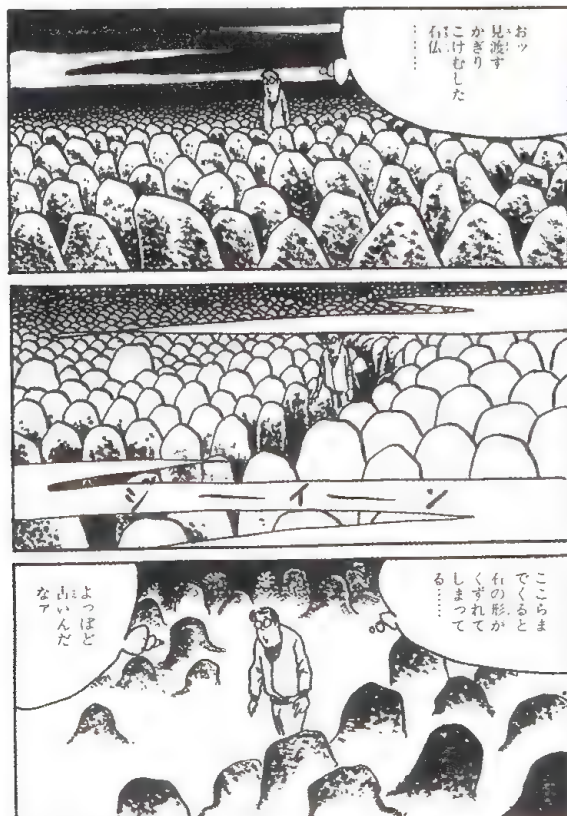
▲「一怪奇オリンピックーアホな男」より

▲「一怪奇オリンピックーアホな男」より

COMIC SIDE

アニメ版第11話「アホな男」出典

「一怪奇オリンピック一アホな男」

初出:「墓場鬼太郎」(佐藤プロダクション、1964年)

貸本まんが復刻版
墓場鬼太郎(6)収録
定価740円(税込)
文庫判

原作紹介

【――怪奇オリンピック――アホな男】

（『墓場鬼太郎シリーズ』／佐藤プロより）

〝墓場鬼太郎〟シリーズでは、鬼太郎とねずみ男はそれぞれに貧乏であり、それぞれ金に汚いが、両者が結託して金儲けをするという状況は不思議とない。

　この作品では、ねずみ男は売血をして得た資本金で毛生え薬を発明し、世界中の禿頭をもつ人々に売りさばこうとする。一方の鬼太郎は、「あの世保険」の勧誘をはじめていた。

　ねずみ男に保険の加入を断られた鬼太郎は、漫画家の〝水木さがる〟の家を訪れる。鬼太郎は水木に、現世でのわずかな掛け金で来世での幸福を約束すると説明。加入特典はあの世で行なわれる「怪奇オリンピック」への招待状だ。

　作中には、水木のほかにも、ねずみ男の血液を輸血され、死の淵からみるみる若返ったやくざの落葉組組長・落葉喜之助、そのようすを見ていた病院院長の2人が登場し、「不老不死の血」を求めてねずみ男を捜しまわるようすが描かれる。

　落葉喜之助はねずみ男をいったん捕らえるものの、輸血された血液をねずみ男に「返せ」と吸い取られ、もとの老人姿に戻って死んでしまう。病院院長はいつの間にか鬼太郎にだまされて、水木と同じく怪奇オリンピックが行なわれるあの世に迷い込んでいた。

　この作品の最後の章では、水木の肉体に入り込んだために、あくせく働かねばならなくなった魂と対照的に、霊となり時間やそのほか自分を束縛するものから解放され、楽しげに怪奇オリンピックを眺める水木と院長のようすが描かれる。

　運よく若返ったものの、さらに欲をかいたために死んでしまったやくざの組長。不老不死の謎を求めるがあまり、自分自身が不老不死の世界へ来てしまった病院院長。そして、軽い気持ちで「あの世保険」に加入して生きながらあの世に行ってしまった水木と、その交代に現世の肉体に入り込んだもうひとりの水木。タイトルにある「アホな男」とは、いったい誰のことだったのだろうか。

原作版をもっと楽しむ小話

水木荘の張り紙

作中、「あの世保険」の勧誘をはじめた鬼太郎がタバコをふかしながら眺めている板壁の張り紙に「アパート貸室あり水木荘」ということばが書かれているのに注目してほしい。この「水木荘」こそが「水木しげる」のペンネームの由来なのだ。

　終戦後、武蔵野美術学校を中退した水木（本名・武良茂）は、神戸で「水木荘」というアパートの経営をしていた。茂は、そのアパートに住んでいた紙芝居作家の伝手で、紙芝居を描きはじめる。しかしいつまでたっても本名の「武良」を覚えてもらえず、「水木さん」と呼ばれるため、ペンネームも「水木しげる」としたのだそうである。

怪奇オリンピックの面々

　鬼太郎の「あの世保険」で怪奇オリンピックにやってきた水木は、たまたま通りがかった目玉の親父にオリンピックを案内してもらうことになる。

　果てのない砂漠で行なわれている怪奇オリンピックに参加しているのは、不思議なお化けばかり。機関車のような「あるく植物」に、「長さが10キロくらいある」という、動く歩道のような名もない生物、そして1000年に一歩あるくという巨大な鳥。現在ある「妖怪」というカテゴリーよりももっと自由な発想で描かれた奇妙な造形のお化けたちが次から次へと現われるのだ。その後、絵として描かれてはいないが、「怪奇オリンピック」ではお化けのダンスなども行なわれているらしい。

　カタい病院の院長をして「こっちの世界のほうがシャバよりたのしい」と言わしめた「怪奇オリンピック」。いちど行ってみたいと思う人は少なくないのではないだろうか。

京極夏彦

CLOSING TEXT
Natsuhiko Kyogoku

妖怪誕生――
「墓場鬼太郎」の果たした功績

僕は青春なんてことばはキライですが（笑）、強いていうなら僕の青春は「鬼太郎」でした。

作品というのは「本」のスタイル、プレゼンテーションで味わい方も違ってくるもの。オリジナルの貸本の味というのは格別です。いや、貸本は安い造りで、版はズレてるし、カラー頁はカラーにしないほうがきれいだろうっていうくらいヒドイ印刷なんだけど、そこが味わいになる。本来ならば失敗なんだけど、それをデザイン、表現の型として見直すと、これがカッコよいんですね。そのカッコよさが、アニメ「墓場鬼太郎」にはみごとに活かされています。色遣いもフォルムも、むしろ新しい。

貸本はどちらかというと青年向けの媒体です。「墓場～」と「ゲゲゲ～」の差は、正義の味方であるかどうかじゃないんですね。よく読むと、鬼太郎自体はそんなに変わっていません。水木先生は対象を見据えて描かれる方ですから。紙芝居のときは子ども向けだったんだけど、貸本に移す際、設定も含めてそこを変えられた。当時あまり一般的ではなかった海外の怪奇小説や怪奇映画の要素が、ふんだんに取り込まれています。

見過ごせないのは、いわゆる「妖怪」がマンガに登場した、日本で最初の作品である、ということ。いや、僕たちが現在思い描く「妖怪」という概念は、当時はまだ完全にはできあがっていなかったんです。それまでの水木しげるは怪奇の探求者ではありましたが、妖怪の専門家ではなかった。勉強家の水木先生は、出版されたばかりの柳田國男の「妖怪談義」をお読みになって（口調を真似て）「あんた、これは使えます」と思われたんでしょうね。「墓場～」に登場し「ゲゲゲ～」に継承されることで、僕らが知る「妖怪」さんは完成したわけです。

また「墓場～」は、屈指のキャラクターメーカーとしての水木しげるの才能が遺憾なく発揮された作品でもあります。

今や国民的キャラクターである目玉親父は紙芝居時代に生まれたんですが、性格が確立したのは貸本時代。賢者として鬼太郎を導き、なおかつ涙もろい子煩悩な親父でもあり、潰されても踏まれても喰われても齧られてもペッタンコになっても生きている。そういう属性は、貸本版ですでに付与されています。ねずみ男もそうですね。水木漫画の二大スターは「墓場鬼太郎」で生まれたんです。

つまり「鬼太郎」のフォーマットは「墓場～」の段階で九割方完成していたということです。「墓場鬼太郎」は出発点にして到達点でもあるわけで、これはスゴイことですよ。

僕は初めて水木さんの貸本作品を読んだとき、「自分が生まれる前からこの作家（水木）はもう完成していたんだ！」と、ビックリしたわけです。

もう一生どころか来世もついていきます、と思ったものです（笑）。

墓場鬼太郎談義 墓場鬼太郎×水木しげる

HAKABA KITARO DANGI　Shigeru Mizuki

すべての物語には原点がある。

「墓場鬼太郎」―――すべての"鬼太郎"シリーズの原点。しかし、その「墓場鬼太郎」にもルーツがあった。約半世紀にわたってつづられた鬼太郎と目玉親父、そしてねずみ男の誕生秘話。漫画家としての原点から「墓場鬼太郎」へいたるまでの水木しげるの半生を振り返る。永久保存版「墓場鬼太郎談義」いよいよ開幕。

生まれは紙芝居

[illegible]感もでたかもしれない。[illegible]の中でも、夢の中でも一日中どこでもストーリーを考えた。なにせ、万一これがウケなかったら、八方塞がりで死が待っている状態になるわけですから。

「空手鬼太郎」は鬼太郎が沖縄に行って空手をやる話なんだが、紙芝居づくりのコツは、毎回最後に主人公ははたして助かるだろうかというハラハラドキドキさせる場面で終わること。次の日もベビィのお客たちが見にくるようにね。

鬼太郎も何回も死ぬんだが、そこに工夫があって、実はコレコレシカジカで生きていたとなる。だから、つくっていくうちに超能力のようなものも[illegible]っている[illegible]の声[illegible]が[illegible]と[illegible]い[illegible]ん[illegible]と[illegible]いけな[illegible]親父は溶けて死んでしまったので、肉体を生き返らせるわけにはいかない。わずか一日でこの難問の名解答を思いつかなくちゃならんわけです。

水木サンが出した答えは、目玉に親父の魂が宿って鬼太郎のポケットに入っていたということ。これは、意外にウケました。だから、以後、目玉親父をレギュラーとしたわけです。このころは、ねずみ男はまだいなかった。ねずみ男を出したのは、貸本漫画からです。

振り返ってみると、「空手鬼太郎」は悲壮な物語ですよ。当時の水木サンの姿そのものです。すなわち、貧乏のなかで必死に生きて[illegible]迫力がある。これが百巻ぐらいのヒットとなったおかげで、やっていく自信がついたんです。

次にSFもので「墓場の鬼太郎ガロア編」というものをやったんだが、失敗だった。鬼太郎にチャンチャンコを着せて、超能力をつけさせたのも紙芝居です。そんなこんなで、苦心サンタンしてたんだが、どうも紙芝居業界がテレビに押されて思わしくなくなって、水木サン

ウエイトレス:江原詩織
客:安西英美
客:遠藤智佳

第10話
水木:島田敏
ガモツ博士:銀河万丈
アドバラナ:高戸靖広
カロリーヌ:江原詩織
ラジオアナ:徳山靖彦
吸血鬼:増谷康紀
水木の妻:斉藤貴美子
花子:池田千草
マスター:藤本たかひろ
議長:竹本英史

第11話
落葉:矢田耕司
水木:小杉十郎太
院長:立木文彦
地底の水木:大場真人
水木の妻:中友子
水木の子供:安田早希
若頭:竹本英史
医師:高塚正也
看護師:安井絵理
電気屋:平井啓二
ガス屋:藤本たかひろ

(協力:青二プロダクション)

【第1話】
原画:

窪秀已	飯飼一幸	袴田裕二
田中伸昭	福島伸一郎	市川吉幸
仲條久美	真中孝之	松尾亜希子
阿部美佐緒	青井小夜	神保洋介
竹田欣弘	志田直俊	薮本陽輔
吉田政保	中野涼子	石川真理子
真庭秀明	今木宏明	

動画:
TAP　M.S.J.武蔵野制作所

色指定:辻田邦夫

デジタル彩色:
TAP　M.S.J.武蔵野制作所

背景:

青柳ゆづか	金山えみ子	秋山健太郎
今井修	本間禎章	倉橋隆
保坂有美		

演出助手:後藤康徳
制作進行:浮田康平
仕上進行:村上昌裕
美術進行:山口彰彦

【第2話】
原画:

青山充	波風立流	田中宏紀
飯飼一幸	真中孝之	田中伸昭
窪秀已	進藤満尾	今木宏明
川口悌徳	新井達郎	

動画:
TAP　かぐら　M.S.J.武蔵野制作所

色指定:秋元由紀

デジタル彩色:
TAP　かぐら　M.S.J.武蔵野制作所

背景:

アテネアート	勝又アイ子	斉藤信一
大谷正信	赤保谷則子	

演出助手:高橋裕哉
制作進行:林雅之
仕上進行:北村聡
美術進行:山口彰彦

【第3話】
原画:

井口忠一	藤岡正宣	井上みゆき
服部森樹朗	飯塚葉子	山田雄一郎

【声の出演】
鬼太郎:野沢雅子
目玉親父:田の中勇
ねずみ男:大塚周夫

水木:大川　透
ニセ鬼太郎:伊倉一恵

トランプ重井:ピエール瀧(特別出演)
寝子:中川翔子(特別出演)
トムボ:京極夏彦(特別出演)

第1話
鬼太郎の母:鈴木れい子
鬼太郎の父:郷里大輔
水木の母:真山亜子
社長:佐藤正治
医者:川津泰彦
番人:藤本たかひろ
子供:安田早希
子供:安西英美
子供:遠藤智佳

第2話
ドラキュラ四世:大友龍三郎
夜叉:堀　秀行
集金係:平井啓二
大家:藤本たかひろ

第3話
物の怪:塩屋浩三
医者:麻生智久
老婆:安井絵里
老婆:庄司宇芽香
老婆:安西英美

第4話
先生:稲田徹
支配人:高塚正也
級友:安田早希
級友:戸塚利絵
級友:安西英美
級友:宮坂俊蔵
男性客:藤本たかひろ

第5話
司会者:竹本英史
会長:江川央生
役員:増谷康紀
役員:藤本たかひろ
女性タレント:安井絵理
OL:安田早紀

第6話
大空つばめ:斎藤貴美子
協森社長:川津泰彦
焼き芋屋:藤本たかひろ
受付:松本孝平
ファン:平井啓二
海パン男:岡本寛志
老婆:池田千草
老婆:安西英美
老婆:遠藤智佳

第7話
人狼:宝亀克寿
ガマ令嬢:川浪葉子
水神:川津泰彦
若い女:池田千草
配達員:沼田祐介
洗濯屋:藤本たかひろ
窓口の駅員:服巻浩司

第8話
金丸:柴田秀勝
村田:宮本充
金丸の妻:進藤尚美
案内人:茶風林
大家:中友子
幽霊:藤本たかひろ
幽霊:松本考平
幽霊:坂熊孝彦

第9話
ジョニー:江原正士
池垣:西村知道
秘書:高塚正也
店主:藤本たかひろ
警察官:坂熊孝彦

STAFF LIST

原作:水木しげる

企画:松崎容子(フジテレビ)

製作:
伊藤幸弘(フジテレビ)
清水慎治
豊島雅郎
町田修一
伊藤泰造
林田師博
木村京太郎

プロデューサー:
高瀬敦也(フジテレビ)
梅澤淳稔
池澤良幸
細貝康介(フジテレビ)

シリーズディレクター:地岡公俊

シリーズ構成:成田良美

キャラクターデザイン・総作画監督:
山室直儀

音楽:和田薫

製作担当:末竹憲

美術ボード:倉橋隆

美術設定:本間禎章

色彩設計:辻田邦夫

CGディレクター:森田信廣

CGプロデューサー:
氷見武士
今村幸也

CGプロダクションマネージャー:
桜井正樹
根本繁樹

CG制作:

米澤真一	鎌田匡晃	熊沢諭
佐々木智也	矢山健太郎	竹中佑樹

デジタル撮影:

入部章	佐々木徹也	竹本義人
坂本龍一	畑中宏信	三崎高博
渥美直紀	谷内潤	荒井栄児
大貫守健	高木宏紀	古川誠

編集:片瀬健太
録音:伊東光晴
選曲:茅原万起子
音響効果:村上大輔(サウンド・リング)
記録:樋口裕子
タイトルロゴ:海野大輔
録音スタジオ:タバック
オンライン編集:TOVIC

アニメーション制作:東映アニメーション

制作:墓場鬼太郎製作委員会

宣伝:アスミック・エースエンタテインメント
編成:成戸真知子(フジテレビ)
プロデューサー補:木村誠(フジテレビ)
広報:遠藤恵(フジテレビ)

音楽協力:
フジパシフィック音楽出版
東映アニメーション音楽出版
ソニー・ミュージックエンタテインメント
音楽プロデューサー:佐野弘明

墓場鬼太郎製作委員会:
フジテレビジョン
東映アニメーション
アスミック・エースエンタテインメント
電通
ソニー・ミュージックエンタテインメント
スカパー・ウェルシンク
読売広告社

鈴野貴一 渡辺奈月 小林之浩
飯飼一幸 川森昇 池田佳織
大澤和宏 二階堂渥志 松野笑美子
角田悦子

動画:
清田万里子 下地彩加 仲村信樹
眞部周一郎 AI 飛龍動画

色指定・検査:児島宏明

デジタル彩色:
平原伸康 丸山麻美 AI
飛龍動画

背景:
伊藤雅人 伊藤岩光 田中里緑
神戸あや恵 西山正矩 佐藤千恵
渡部葉 増田竜太郎

制作進行:瀬戸典子
美術進行:山口彰彦
アニメーション制作協力:A−Line

【第4話】
原画:
佐藤道雄 佐々門信芳 雨宮英雄
東美帆 田中伸昭 袴田裕二
真中孝之 福島伸一郎 山室直儀
井口忠一 藤岡正宣 前嶋弘史
近藤一英 小倉啓佑 大槻尚広
近藤史門 ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ
ビクター・バラノン レジー・マナバット アルフレッド・レイエス
アリス・ナリオ

動画:
TAP M.S.J.武蔵野制作所
サンシャインコーポレーション・オブジャパン

色指定・検査:佐久間ヨシ子

デジタル彩色:
TAP M.S.J.武蔵野制作所
サンシャインコーポレーション・オブジャパン

背景:
アテネアート 勝又アイ子 斉藤信二
大谷正信 赤保谷則子

演出助手:後藤康徳
制作進行:浮田康平
仕上進行:村上昌裕
美術進行:山口彰彦

【第5話】
原画:
美馬健二 八木元喜 阿部美佐緒
大籠之仁 林祐己 橋本英樹
中鶴勝祥 岡田正和 斎藤里枝
石野聡 大塚健 中瀬潤
窪秀巳 棚田暁子 高橋賢
飯飼一幸 松本昌子 太田優喜
戸井田宙 ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ
ノエル・アンニョヌエボ レム・バレンシア アリス・ナリオ
アルフレッド・レイエス

動画:
TAP M.S.J.武蔵野制作所

色指定・検査:秋元由紀

デジタル彩色:
TAP かぐら M.S.J.武蔵野制作所

背景:
マジックハウス 安積裕子 立花コウキ
清水まこと

演出助手:高橋裕哉
制作進行:林雅之
仕上進行:北村聡
美術進行:山口彰彦

【第6話】
原画:
立口徳考 岡穣次 小野慎哉
ハヤシダカオル 徳永南 山本祐子
小松温 日根野優子 西川真人
池田佳織 大澤和宏 二階堂握志

吉崎雅博 飯村真一 清水昌之
河野恵美 井下信重 久保茉莉子
TNK 玉沢動画舎 エクラアニマル

動画:
大原真琴 全後映 石井邦俊
井下信重 松本恵 国吉杏美
元矢陽子 三谷暢之 沖田博文
町田佳代 河野恵美 山田祥子
村上由佳 宮川めぐみ 中澤典子
ラストハウス トリプルA ファンアウト
M.S.J.武蔵野制作所 TAP

色指定・検査:
真壁源太 矢代実菜子 境野雄太

デジタル彩色:
山本智佳 百目鬼成美 知念正子
相原彩子 トリプルA ファンアウト
M.S.J.武蔵野制作所 TAP

背景:
金山えみ子 今井修 本間禎章
保坂有美 青柳ゆづか 神戸あや恵

演出助手:後藤康徳
制作進行:小野考輔
仕上進行:村上昌裕
美術進行:山口彰彦
アニメーション制作協力:動画工房

【第7話】
原画:
木下ゆうき 篠田章 藤岡正宣
美馬健二 丸山匡彦 石川真理子
雨宮英雄 崔瑛旻 梁容準
横倉愛 金究河 前嶋弘史
近藤一英 小倉啓佑 大槻尚広
山口杏奈 田中志穂 小市由佳
中西明日香 ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ
ノエル・アンニョヌエボ アリス・ナリオ アルフレッド・レイエス

動画:
TAP M.S.J.武蔵野制作所

色指定・検査:佐久間ヨシ子

デジタル彩色:
TAP M.S.J.武蔵野制作所

背景:
アテネアート 勝又アイ子 斉藤信二
大谷正信 赤保谷則子

演出助手:高橋裕哉
制作進行:浮田康平
仕上進行:村上昌裕
美術進行:山口彰彦

【第8話】
原画:
佐藤道雄 今川よしみ 木下由美子
田中伸昭 木下ゆうき 真中孝之
井上哲 池田佳織 今木宏明
野田春彦 小市由佳 田中志穂
中西明日香 山口杏奈 ポール・アンニョヌエボ
フランシス・カネダ ビクター・バラノン レム・バレンシア
レジー・マナバット

動画:
TAP かぐら M.S.J.武蔵野制作所

色指定・検査:秋元由紀

デジタル彩色:
TAP かぐら M.S.J.武蔵野制作所

背景:
マジックハウス 常盤庄司 清水まこと
安積裕子 立花コウキ

演出助手:後藤康徳
制作進行:林雅之
仕上進行:北村聡
美術進行:山口彰彦

【第9話】
原画:
井口忠一 藤岡正宣 服部森樹朗

柿原剛 飯塚葉子 山田雄一郎
小林之浩 川森昇 池田佳織
大澤和宏 二階堂渥志 吉崎雅博
松野笑美子 金城美保 角田悦子

動画:
清田万里子 下地彩加 仲村信樹
眞部周一郎 岡 真理子 シーノード
AI 飛龍動画

色指定・検査:児島宏明

デジタル彩色:
平原伸康 丸山麻美 AI
飛龍動画 シーノード

背景:
伊藤雅人 伊藤岩光 田中里緑
本間禎章 神戸あや恵 佐藤千恵
渡部葉 増田竜太郎

制作進行:瀬戸典子
美術進行:山口彰彦
アニメーション制作協力:A−Line

【第10話】
原画:
橋本敬史 八木元喜 阿部美佐緒
竹田欣弘 大塚健 袴田裕二
前嶋弘史 近藤一英 小倉啓佑
大槻尚広 棚田暁子 金義英
ポール・アンニョヌエボ フランシス・カネダ ノエル・アンニョヌエボ
レジー・マナバット アルフレッド・レイエス

動画 :
TAP M.S.J.武蔵野制作所

色指定・検査:佐久間ヨシ子

デジタル彩色:
TAP M.S.J.武蔵野制作所

背景:
アテネアート 勝又アイ子 斉藤信二
大谷正信 赤保谷則子

演出助手:高橋裕哉
制作進行:浮田康平
仕上進行:村上昌裕
美術進行:山口彰彦

【第11話】
原画:
山室直儀 佐久間健 斉藤和也
藤岡正宣 真中孝之 仲條久美
田中伸昭 今川よしみ 鈴木奈都子
福島伸一郎 高橋賢 真庭秀明
石塚勝海 五十嵐直子 吉田和香子
薮本陽輔

動画:
TAP かぐら M.S.J.武蔵野制作所

色指定・検査:秋元由紀

デジタル彩色:
TAP かぐら M.S.J.武蔵野制作所

背景:
今井修 本間禎章 保坂有美
青柳ゆづか 田中里緑 神戸あや恵
渡部葉 デザインオフィスメカマン

演出助手:後藤康徳
制作進行:林雅之
仕上進行:北村聡
美術進行:山口彰彦

art director　仲尾幸時
design　CLOVER Graffiti

planning&editor　宮[illegible]

sub editor&writer　志田英邦

staff　多田年礼
田村淳一郎
芦久保一輝
小山真幸

橋爪佳子

contributor　郡司聡（怪編集部）
及川史朗（怪編集部）

堀毛敦子（東映アニメーション）

writer　梅沢一孔（フォルスタッフ）
宮本幸枝

photographer　吉田茂一
奥西淳二

hair&make-up　水谷さやか（fringe）

thanks　水木しげるプロダクション
東映アニメーション

オフィス野沢
青二プロダクション

大塚晴一（大沢オフィス）
渡邉正起（アァ ベェ）

佐野弘明（ソニー・ミュージックエンタテインメント）

磯田敦仁（アスミック・エース エンタテインメント）
中村[illegible]（アスミック・エース エンタテインメント）

写真協力　村上健司

special thanks　水木しげる
©水木プロダクション

墓場鬼太郎読本
はかばきたろうとくほん

墓場鬼太郎読本（はかばきたろうとくほん）

2008年7月22日　初版発行

発行者　井上伸一郎
発行　株式会社角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見2−13−3
編集　03-3238-8661
発売　株式会社 角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2−13−3
営業　03-3238-8521
http://www.kadokawa.co.jp
製版　株式会社ローヤル企画
印刷・製本　共同印刷株式会社

落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ
受注センター読者係宛にお送りください。
送料は小社負担でお取り替えいたします。

ISBN978-4-04-854224-1
C0076
JASRAC　出0808183-801

※本書中には、今日の人権擁護の見地に照らして不当・不適切と思われる語句や表現がありますが、作品発表時の時代的背景を考え合せ、そのままとしました。

※本文中の価格は、2008年7月現在のものです。

「つまらんケンカはよせ。
よけい腹が減るだけだ」

ISBN978-4-04-854224-1
C0076 ¥1700E

定価：本体1700円（税別）

発行　角川書店

「じゃア」